

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウシツ トウキョウノウキョウダガク								
フリガナ大学の名称	トウキョウノウキョウダガクダクイン								
大学本部の位置	東京都世田谷区1丁目1番地1号								
大学の目的	<p>本大学は、その伝統及び私立大学の特性を活かしつつ、教育基本法の精神に則り、生命科学、環境科学、情報科学、生物産業学等を含む広義の農学の理論及び応用を教授し、有能な人材を育成すると共に、前記の学術分野に関する研究及び研究者の養成をなすことを使命とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>本大学院国際食料農業科学研究科は、社会科学を含む農業科学・食品科学の分野において、SDGsの目標の達成を視野に入れ農業・農村の生活者の福祉の増大を実現できる社会実装研究を行う食料農業科学の領域において、国際的視野に立って実学主義のもと高度な教育と研究を行うことを目的とする。</p> <p>博士前期課程では、国際的視野に立った社会貢献への深い理解に基づき、専門領域における高度な知識と技術を有し、国内外の食料・農業・環境の現場の問題解決に取り組む能力と意欲を有する人材を、博士後期課程では、国際的視野に立った社会貢献への深い理解に基づき、専門領域における世界水準の高度な知識と技術を有し、独立して食料・農業・環境の現場の問題解決に貢献する研究推進能力と意欲を有する人材を養成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	<p>【基礎となる学部】</p> <p>国際食料情報学部 国際農業開発学科、 食料環境経済学科、 国際バイオビジネス学科、 国際食農科学科</p> <p>農学研究科 国際農業開発学専攻 (M)、 農業経済学専攻 (M)、 国際バイオビジネス学専攻 (M)、 国際農業開発学専攻 (D)、 農業経済学専攻 (D)、 国際バイオビジネス学専攻 (D)</p>
	国際食料農業科学研究科 [Graduate School of International Food and Agricultural 国際農業開発学専攻 (M) [Department of International Agricultural Development]	2	18	—	36	修士 (農学) 【Master of Agricultural Science】	令和3年4月	東京都世田谷区桜丘1-1-1 同上	
	農業経済学専攻 [Department of Agricultural Economics]	2	8	—	16	修士 (農学) 【Master of Agricultural Science】	令和3年4月	同上	
	国際アグリビジネス学専攻 (M) [Department of International Agribusiness Management]	2	10	—	20	修士 (農学) 【Master of Agricultural Science】	令和3年4月	同上	
	国際食農科学専攻 (M) [Department of International Food and Agricultural Science]	2	7	—	14	修士 (農学) 【Master of Agricultural Science】	令和3年4月	同上	
	国際農業開発学専攻 (D) [Department of International Agricultural Development]	3	2	—	6	博士 (農学) 【Doctor of Philosophy in Agricultural Science】	令和3年4月	同上	
	農業経済学専攻 [Department of Agricultural Economics]	3	2	—	6	博士 (農学) 【Doctor of Philosophy in Agricultural Science】	令和3年4月	同上	

新設学部等の概要	国際アグリビジネス学専攻 (D) [Department of International Agribusiness Management]	3	2	—	6	博士 (農学) 【Doctor of Philosophy in Agricultural Science】	令和3年4月	同上		
	計	—	49	—	104	—	—	—		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	東京農業大学大学院 農学研究科 バイオサイエンス専攻 (M) (廃止) (Δ30) 林学専攻 (M) (廃止) (Δ12) 農業工学専攻 (M) (廃止) (Δ 8) 造園学専攻 (M) (廃止) (Δ12) 国際農業開発学専攻 (M) (廃止) (Δ12) 農業経済学専攻 (M) (廃止) (Δ10) 国際バイオビジネス学専攻 (M) (廃止) (Δ12) バイオサイエンス専攻 (D) (廃止) (Δ 6) 林学専攻 (D) (廃止) (Δ 4) 農業工学専攻 (D) (廃止) (Δ 2) 造園学専攻 (D) (廃止) (Δ 3) 国際農業開発学専攻 (D) (廃止) (Δ 2) 農業経済学専攻 (D) (廃止) (Δ 5) 国際バイオビジネス学専攻 (D) (廃止) (Δ 5) 環境共生学専攻 (D) (廃止) (Δ 5) ※令和3年4月学生募集停止 生命科学研究所 (令和2年4月届出予定) バイオサイエンス専攻 (M) (30) 分子生命化学専攻 (M) (20) 分子微生物学専攻 (M) (20) バイオサイエンス専攻 (D) (5) 地域環境科学研究所 (令和2年4月届出予定) 林学専攻 (M) (8) 農業工学専攻 (M) (8) 造園学専攻 (M) (10) 地域創成科学専攻 (M) (6) 林学専攻 (D) (2) 農業工学専攻 (D) (2) 造園学専攻 (D) (2) 令和3年4月名称変更予定 東京農業大学大学院 農学研究科 畜産学専攻 (M) → 農学研究科 動物科学専攻 (M) 農学研究科 畜産学専攻 (D) → 農学研究科 動物科学専攻 (D)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	国際農業開発学専攻 (M)	14 科目	7 科目	6 科目	27 科目	30 単位				
	農業経済学専攻 (M)	3 科目	14 科目	1 科目	18 科目	30 単位				
	国際アグリビジネス学専攻 (M)	16 科目	4 科目	1 科目	21 科目	30 単位				
	国際食農科学専攻 (M)	15 科目	8 科目	5 科目	28 科目	30 単位				
	国際農業開発学専攻 (D)	1 科目	10 科目	1 科目	12 科目	16 単位				
	農業経済学専攻 (D)	4 科目	5 科目	1 科目	10 科目	18 単位				
国際アグリビジネス学専攻 (D)	8 科目	3 科目	1 科目	12 科目	18 単位					
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
	新設		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
		国際食料農業科学研究科 (M)	10	2	0	0	12	0	8	
		国際農業開発学専攻	(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(8)	
		農業経済学専攻	8	4	0	0	12	0	6	
			(8)	(4)	(0)	(0)	(12)	(0)	(6)	
		国際アグリビジネス学専攻	9	4	0	0	13	0	3	
			(9)	(4)	(0)	(0)	(13)	(0)	(3)	
		国際食農科学専攻	6	6	0	0	12	0	4	
			(6)	(6)	(0)	(0)	(12)	(0)	(4)	
		生命科学研究所 (M)	8	6	0	0	14	0	9	
		バイオサイエンス専攻	(8)	(6)	(0)	(0)	(14)	(0)	(9)	
		分子生命化学専攻	4	4	0	2	10	0	2	
			(4)	(4)	(0)	(2)	(10)	(0)	(2)	
		分子微生物学専攻	4	6	0	0	10	0	2	
	(4)	(6)	(0)	(0)	(10)	(0)	(2)			
地域環境科学研究所 (M)	8	6	0	0	14	0	2			
林学専攻	(9)	(6)	(0)	(0)	(15)	(0)	(1)			
農業工学専攻	11	4	0	1	16	0	2			
	(11)	(4)	(0)	(1)	(16)	(0)	(2)			
造園学専攻	7	4	0	0	11	0	1			
	(7)	(4)	(0)	(0)	(11)	(0)	(1)			
地域創成科学専攻	8	4	0	0	12	0	1			
	(8)	(4)	(0)	(0)	(12)	(0)	(1)			
計	83	50	0	3	136	0	-			
	(84)	(50)	(0)	(3)	(137)	(0)	(-)			

教 員 組 織 の 概 要	新 設	国際食料農業科学研究科 (D)	10	2	0	0	12	0	2
		国際農業開発学専攻	(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(2)
		農業経済学専攻	8	4	0	0	12	0	2
			(8)	(4)	(0)	(0)	(12)	(0)	(2)
		国際アグリビジネス学専攻	8	4	0	0	12	0	2
			(8)	(4)	(0)	(0)	(12)	(0)	(2)
		生命科学研究所 (D)	8	6	0	0	14	0	3
		バイオサイエンス専攻	(8)	(6)	(0)	(0)	(14)	(0)	(3)
		地域環境科学研究科 (D)	8	5	0	0	13	0	1
	林学専攻	(8)	(5)	(0)	(0)	(13)	(0)	(1)	
	農業工学専攻	10	4	0	1	15	0	1	
		(10)	(4)	(0)	(1)	(15)	(0)	(1)	
	造園学専攻	7	4	0	0	11	0	1	
		(7)	(4)	(0)	(0)	(11)	(0)	(1)	
	計	59	29	0	1	89	0	-	
		(59)	(29)	(0)	(1)	(89)	(0)	(-)	
	既 設	農学研究科 (M)	14	5	0	0	19	0	3
		農学専攻	(14)	(5)	(0)	(0)	(19)	(0)	(3)
		畜産学専攻	9	3	0	0	12	0	4
		(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(4)	
バイオセラピー学専攻		10	4	1	0	15	0	2	
		(10)	(4)	(1)	(0)	(15)	(0)	(2)	
応用生物科学研究科 (M)		10	3	0	0	13	0	3	
農芸化学専攻		(10)	(3)	(0)	(0)	(13)	(0)	(3)	
醸造学専攻		5	6	2	0	13	0	1	
		(5)	(6)	(2)	(0)	(13)	(0)	(1)	
食品安全健康学専攻		9	3	0	0	12	0	2	
		(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(2)	
食品栄養学専攻		9	4	0	0	13	0	4	
		(9)	(4)	(0)	(0)	(13)	(0)	(0)	
生物産業学研究科 (M)	8	5	0	0	13	0	2		
生物生産学専攻	(8)	(5)	(0)	(0)	(13)	(0)	(2)		
アクアバイオ学専攻	6	4	0	0	10	0	1		
	(6)	(4)	(0)	(0)	(10)	(0)	(1)		
食品香粧学専攻	7	2	0	0	9	0	1		
	(7)	(2)	(0)	(0)	(9)	(0)	(1)		
産業経営学専攻	7	3	0	0	10	0	1		
	(7)	(3)	(0)	(0)	(10)	(0)	(1)		
計	94	42	3	0	139	0	-		
	(94)	(42)	(3)	(0)	(139)	(0)	(-)		
教 員 組 織 の 概 要	既 設	農学研究科 (D)	14	0	0	0	14	0	0
		農学専攻	(14)	(0)	(0)	(0)	(14)	(0)	(0)
		畜産学専攻	9	1	0	0	10	0	4
			(9)	(1)	(0)	(0)	(10)	(0)	(4)
		バイオセラピー学専攻	9	1	0	0	10	0	0
			(9)	(1)	(0)	(0)	(10)	(0)	(0)
		応用生物科学研究科 (D)	8	1	0	0	9	0	0
		農芸化学専攻	(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(0)
		醸造学専攻	5	6	0	0	11	0	0
			(5)	(6)	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)
		食品安全健康学専攻	9	3	0	0	12	0	0
	(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)		
食品栄養学専攻	9	4	0	0	13	0	0		
	(9)	(4)	(0)	(0)	(13)	(0)	(0)		
生物産業学研究科 (D)	27	2	0	0	29	0	0		
生物産業学専攻	(27)	(2)	(0)	(0)	(29)	(0)	(0)		
計	90	18	0	0	108	0	-		
	(90)	(18)	(0)	(0)	(108)	(0)	(-)		
合 計		177	92	3	3	275	0	-	
		(177)	(92)	(3)	(3)	(275)	(0)	(-)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	149	人	17	人	166	人		
		(149)		(17)		(166)			
	技 術 職 員	22		6		28			
		(22)		(6)		(28)			
図 書 館 専 門 職 員	5		1		6				
	(5)		(1)		(6)				
そ の 他 の 職 員	1		7		8				
	(1)		(7)		(8)				
計		177		31		208			
		(177)		(31)		(208)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東京農業大学第一高等 学校(収容定員1,050 人、面積基準 運動場 8,400㎡)、中等部(収容 定員450人、面積基準 運動場4,950㎡)と共用 借用地積：3,570.24㎡ 借用期間：60年				
	校 舎 敷 地	354,079.78㎡	0㎡	15,350.76㎡	369,430.54㎡					
	運 動 場 用 地	31,147.98㎡	30,935.81㎡	6,453.99㎡	68,537.78㎡					
	小 計	385,227.76㎡	30,935.81㎡	21,804.75㎡	437,968.32㎡					
	そ の 他	2,664,609.34㎡	0㎡	0㎡	2,664,609.34㎡					
	合 計	3,049,837.10㎡	30,935.81㎡	21,804.75㎡	3,102,577.66㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		226,036.40㎡ (238,874.66㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	226,036.40㎡ (238,874.66㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	101室	60室	637室	8室 (補助職員 2人)	1室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請研究科全体				
		国際食料農業科学研究科		65 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	○標本 学部単位での特定不能 なため、大学全体の数 ○大学全体での共用図 書186,427 [19,009] ○学術雑誌、電子ジャー ナル、視聴覚資料は、大学 全体の数		
	国際食料農業科学研究科	370,195 [57,833] (349,735 [55,617])	18,514 [10,758] (18,514 [10,758])	8,768 [8,583] (8,768 [8,583])	7,872 (7,650)	1,885 (1,885)	33,778 (33,778)			
	計	370,195 [57,833] (349,735 [55,617])	18,514 [10,758] (18,514 [10,758])	8,768 [8,583] (8,768 [8,583])	7,872 (7,650)	1,885 (1,885)	33,778 (33,778)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		8,026.19㎡	1,383	1,162,000						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		10,371.27㎡	野 球 場 2 面		テ ニ ス コ ー ト 6 面					
経 費 の 見 積 り の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		365千円	365千円	365千円				
		共同研究費等		6,167千円	6,167千円	6,167千円				
		図書購入費	249千円	279千円	279千円	279千円				
	設備購入費	797千円	890千円	890千円	890千円					
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,430.6千円	1,200.6千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	国際農業開発学専攻 (M)		
		1,265.6千円	1,065.6千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	国際食農科学専攻 (M)		
		1,540.6千円	1,300.6千円	1,350.6千円	— 千円	— 千円	— 千円	農業経済学専攻 (M)		
		1,408.6千円	1,188.6千円	1,238.6千円	— 千円	— 千円	— 千円	国際農業開発学専攻 (D)		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金収入、寄付金収入、手数料収入 等								

大学等の名称	東京農業大学大学院								
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	農学研究科 博士前期課程	年	人	年次人	人		0.95		
	農学専攻	2	14	—	28	修士（農学）	0.96	昭和28年度	神奈川県厚木市船子1737番地
	畜産学専攻	2	12	—	24	修士（畜産学）	1.16	昭和61年度	同上
	バイオセラピー学専攻	2	10	—	20	修士（バイオセラピー学）	0.55	平成22年度	同上
	バイオサイエンス専攻	2	30	—	60	修士（バイオサイエンス）	1.13	平成14年度	東京都世田谷区桜丘1丁目1番地1号
	農芸化学専攻	2	—	—	—	修士（農芸化学）	—	昭和32年度	同上
	醸造学専攻	2	—	—	—	修士（醸造学）	—	平成2年度	同上
	食品栄養学専攻	2	—	—	—	修士（食品栄養学）	—	昭和61年度	同上
	林学専攻	2	12	—	24	修士（林学）	0.66	昭和61年度	同上
	農業工学専攻	2	8	—	16	修士（農業工学）	0.81	平成2年度	同上
	造園学専攻	2	12	—	24	修士（造園学）	0.79	平成2年度	同上
	国際農業開発学専攻	2	12	—	24	修士（国際農業開発学）	1.70	平成2年度	同上
	農業経済学専攻	2	10	—	20	修士（農業経済学）	0.75	昭和28年度	同上
	国際バイオビジネス学専攻	2	12	—	24	修士（国際バイオビジネス学）	0.66	平成14年度	同上
	修士課程								
	食品安全健康学専攻	2	—	—	—	修士（食品安全健康学）	—	平成30年度	同上
	農学研究科 博士後期課程						0.61		
	農学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.46	昭和37年度	神奈川県厚木市船子1737番地
	畜産学専攻	3	4	—	12	博士（畜産学）	0.41	平成2年度	同上
	バイオセラピー学専攻	3	3	—	9	博士（バイオセラピー学）	0.55	平成24年度	同上
	バイオサイエンス専攻	3	6	—	18	博士（バイオサイエンス）	0.71	平成16年度	東京都世田谷区桜丘1丁目1番地1号
	農芸化学専攻	3	—	—	—	博士（農芸化学）	—	昭和34年度	同上
	醸造学専攻	3	—	—	—	博士（醸造学）	—	平成14年度	同上
	食品栄養学専攻	3	—	—	—	博士（食品栄養学）	—	平成14年度	同上
	林学専攻	3	4	—	12	博士（林学）	0.25	平成2年度	同上
	農業工学専攻	3	2	—	6	博士（農業工学）	1.50	平成14年度	同上
造園学専攻	3	3	—	9	博士（造園学）	0.33	平成14年度	同上	
国際農業開発学専攻	3	2	—	6	博士（国際農業開発学）	1.66	平成14年度	同上	
農業経済学専攻	3	5	—	15	博士（農業経済学）	0.33	昭和37年度	同上	
国際バイオビジネス学専攻	3	5	—	15	博士（国際バイオビジネス学）	0.33	平成16年度	同上	
環境共生学専攻	3	5	—	15	博士（環境共生学）	0.86	平成2年度	同上	

既設大学等の状況	応用生物科学研究科 博士前期課程						1.03				
	農芸化学専攻	2	30	—	60	修士（農学）	1.03	令和2年度	東京都世田谷区桜丘 1丁目1番地1号		
	醸造学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.15	令和2年度	同上		
	食品安全健康学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	0.85	令和2年度	同上		
	食品栄養学専攻	2	6	—	12	修士（農学）	1.33	令和2年度	同上		
	応用生物科学研究科 博士後期課程						0.33				
	農芸化学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.40	令和2年度	東京都世田谷区桜丘 1丁目1番地1号		
	醸造学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.50	令和2年度	同上		
	食品安全健康学専攻	3	3	—	9	博士（農学）	0.00	令和2年度	同上		
	食品栄養学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.50	令和2年度	同上		
	生物産業学研究科 博士前期課程						1.17				
	生物生産学専攻	2	7	—	14	修士（生物産業学）	0.99	平成22年度	北海道網走市八坂196 番地		
	アクアバイオ学専攻	2	5	—	10	修士（生物産業学）	1.40	平成22年度	同上		
	食品香粧学専攻	2	5	—	10	修士（生物産業学）	1.60	平成22年度	同上		
	産業経営学専攻	2	3	—	6	修士（経営学）	0.49	平成22年度	同上		
生物産業学研究科 博士後期課程						0.58					
生物産業学専攻	3	8	—	24	博士（生物産業学又は経営学）	0.58	平成7年度	同上			
既設大学等の状況	大学の名称	東京農業大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次人	人		倍				
	農学部						1.05		神奈川県厚木市船子 1737番地		
	農学科	4	170	—	730	学士（農学）	1.07	昭和24年度	同上	平成30年度入学定員減（△50人）	
	動物科学科	4	140	—	600	学士（農学）	1.05	昭和24年度	同上	平成30年度入学定員減（△40人）	
	生物資源開発学科	4	125	—	375	学士（農学）	1.05	平成30年度	同上		
	デザイン農学科	4	123	—	369	学士（農学）	1.03	平成30年度	同上		
	バイオセラピー学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成18年度	同上	平成30年より学生募集停止	
	応用生物科学部						1.05		東京都世田谷区桜丘 1丁目1番地1号		
	農芸化学科	4	150	—	590	学士（応用生物科学）	1.06	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増（10人）	
	醸造科学科	4	150	—	590	学士（応用生物科学）	1.05	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増（10人）	
	食品安全健康学科	4	150	—	590	学士（応用生物科学）	1.04	平成26年度	同上	平成30年度入学定員増（10人）	
	栄養科学科	4	120	—	480	学士（応用生物科学）	1.04	平成10年度	同上		
	生命科学部						1.05				
バイオサイエンス学科	4	150	—	590	学士（農学）	1.05	平成29年度	同上	平成30年度入学定員増（10人）		
分子生命化学科	4	130	—	505	学士（農学）	1.04	平成29年度	同上	平成30年度入学定員増（15人）		
分子微生物学科	4	130	—	505	学士（農学）	1.06	平成29年度	同上	平成30年度入学定員増（15人）		

既設大学等の状況	地域環境科学部						1.04				
	森林総合科学科	4	130	—	510	学士(地域環境科学)	1.05	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増(10人)	
	生産環境工学科	4	130	—	510	学士(地域環境科学)	1.04	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増(10人)	
	造園科学科	4	130	—	510	学士(地域環境科学)	1.04	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増(10人)	
	地域創成科学科	4	100	—	380	学士(農学)	1.05	平成29年度	同上	平成30年度入学定員増(20人)	
	国際食料情報学部						1.05				
	国際農業開発学科	4	150	—	590	学士(国際食料情報学)	1.04	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増(10人)	
	食料環境経済学科	4	190	—	750	学士(国際食料情報学)	1.05	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増(10人)	
	国際バイオビジネス学科	4	150	—	590	学士(国際食料情報学)	1.05	平成10年度	同上	平成30年度入学定員増(10人)	
	国際食農科学科	4	110	—	430	学士(農学)	1.05	平成29年度	同上	平成30年度入学定員増(10人)	
	生物産業学部						1.06		北海道網走市八坂196番地		
	北方園農学科	4	91	—	401	学士(農学)	1.07	平成元年度	同上	令和2年度入学定員減(▲9) 令和2年度編入学定員減(▲10)	
	海洋水産学科	4	91	—	331	学士(農学)	1.08	平成18年度	同上	令和2年度入学定員増(11名)	
食香粧化学科	4	91	—	343	学士(農学)	1.01	平成元年度	同上	令和2年度入学定員増(11名) 令和2年度編入学定員減(▲12)		
自然資源経営学科	4	90	—	365	学士(経営学)	1.09	平成元年度	同上	令和2年度編入学定員減(▲5)		
既設大学等の状況	大学の名称	東京情報大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次人	人		倍				
	総合情報学部						1.13		千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地		
	総合情報学科	4	400	3年次10	1,620	学士(総合情報学)	1.13	平成25年度	同上		
看護学部						0.93		同上			
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	0.93	平成29年度	同上			
既設大学等の状況	大学の名称	東京情報大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次人	人		倍				
	総合情報学研究科 博士前期課程						0.40		千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地		
	総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(総合情報学)	0.40	平成4年度	同上		
総合情報学研究科 博士後期課程						0.22		同上			
総合情報学専攻	3	3	—	9	博士(総合情報学)	0.22	平成11年度	同上			

	名称	目的	設置年月
附属施設の概要	1 図書館 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	学生の学習・研究活動の支援施設	平成26年4月
	農学部図書館 (神奈川県厚木市船子1737)	学生の学習・研究活動の支援施設	平成10年4月
	生物産業学部図書館 (北海道網走市八坂196)	学生の学習・研究活動の支援施設	平成元年4月
	2 農学部の附属施設		
	伊勢原農場 (神奈川県伊勢原市三ノ宮前畑1499-1 他 (79, 910, 22㎡))	作物・園芸・環境緑化等の研究・実習	平成24年4月
	富士農場 (静岡県富士宮市麓422)	畜産実習を中心とした実習教育 (323, 260.00㎡)	昭和17年
	植物園 (神奈川県厚木市船子1737)	有用植物の収集・保存・展示	昭和22年
	生き物連携センター (神奈川県厚木市船子1737)	人と動植物のかかわりを追求する教育・研究	平成19年4月
	電子顕微鏡室 (神奈川県厚木市船子1737)	ウイルス・微生物等の微細構造解析	平成10年4月
	3 応用生物科学部の附属施設		
食品加工技術センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	食品加工に関する実践的教育・研究	平成10年4月	
4 生命科学部の附属施設			
高次生命機能解析センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	遺伝子組換え、栄養、生理、遺伝、発生など生命科学分野の研究	平成21年4月	
5 地域環境科学部の附属施設			
奥多摩演習林 (東京都西多摩郡奥多摩町氷川2137 (653, 016.00㎡))	森林のしくみ、育成方法、林業機械の実習等	昭和53年	
6 国際食料情報学部の附属施設			
宮古亜熱帯農場 (沖縄県宮古島市城辺字福里72-2) (98, 262.00㎡)	熱帯農業の実習教育・試験研究	昭和63年	
7 生物産業学部の附属施設			
網走寒冷地農場 (北海道網走市音根内59-8) (432, 174.00㎡)	寒冷地大規模農場の実習教育	昭和57年	
オホーツク臨海研究センター (北海道網走市能取港町1-1-2)	海洋動植物の生態・生育・繁殖に関する研究 (4, 656.60㎡)	平成18年4月	
8 農生命科学研究所 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	全学的な研究戦略の推進・実践	平成12年4月	
9 グローバル連携センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	海外研究機関との交流ならびに協力連携	平成18年4月	
10 「食と農」の博物館 (東京都世田谷区上用賀2-4-28)	教育・研究の成果を広く社会に公開	平成16年4月	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
（国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 博士前期課程）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際食料農業科学 研究科共通科目	研究倫理特講	1前	1			○								兼2	集中	
	知的財産管理法	1前		2		○								兼1	集中	
	農学教育史特講	1後		2		○								兼1		
	インターンシップ	2前		1				○	10	2						集中
	小計（4科目）	—	1	5	0				10	2	0	0	0	兼4		
専攻科目 基礎科目	論文作成法	1後		2				○	10							
	サイエンスコミュニケーション法	1後		2				○	9							
	国際協力のための英会話	1後		2		○								兼1		
	情報処理・文献検索	1後		1		○								兼1		
	フィールド調査	1後		2				○	9						集中	
	プロジェクトサイクルマネジメント	1後		2		○								兼1		
	コンピュータ演習	1後		2				○						兼1		
	小計（7科目）	—	0	13	0				10	0	0	0	0	兼4		
	専攻科目 特論科目	生物生産科学特論	1前	2			○			6						オムニバス
国際農業開発学特論		1前	2			○			3						オムニバス	
熱帯作物学特論		1前		2		○			2						オムニバス	
熱帯園芸学特論		1前		2		○			1							
熱帯作物保護学特論		1前		2		○			2							
農業環境科学特論		1前		2		○			1							
農業開発経済学特論		1前		2		○			1							
農村開発協力特論		1後		2		○			2						オムニバス	
小計（8科目）		—	4	12	0				9	0	0	0	0	兼0		
研究科目	国際農業開発学特別演習Ⅰ	1前	2					○	10							
	国際農業開発学特別演習Ⅱ	1後	2					○	10							
	国際農業開発学特別演習Ⅲ	2前	2					○	10							
	国際農業開発学特別演習Ⅳ	2後	2					○	10							
	国際農業開発学特別実験・実習Ⅰ	1前	2						10							
	国際農業開発学特別実験・実習Ⅱ	1後	2						10							
	国際農業開発学特別実験・実習Ⅲ	2前	2						10							
	国際農業開発学特別実験・実習Ⅳ	2後	2						10							
小計（8科目）	—	16	0	0				10	0	0	0	0	兼0			
合計（27科目）		—	21	30	0				10	2	0	0	0	兼8		
学位又は称号		修士（農学）		学位又は学科の分野			農学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
【修了要件】 2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目21単位、選択必修科目2単位（特論科目（選択）の中から研究領域に関係の深い科目を2単位）、選択科目7単位以上の合計30単位以上を修得すること。						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要																
（国際食料農業科学研究科 農業経済学専攻 博士前期課程）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際食料農業科学研究科共通科目	研究倫理特講	1前	1			○								兼2	集中	
	知的財産管理法	1前		2		○								兼1	集中	
	農学教育史特講	1後		2		○								兼1		
	インターンシップ	2前		1				○								集中
	小計（4科目）	—	1	5	0				8	4	0	0	0	兼4		
専攻科目	基礎科目	論文作成法	1前		2			○		8						
		プレゼンテーション法	1後		2			○		8						
		農業法Ⅰ	1前		2			○							兼1	
		農業法Ⅱ	1後		2			○							兼1	
	小計（4科目）	—	0	8	0				8	0	0	0	0	兼2		
	特論科目	農業経済学特論Ⅰ	1前		2			○		3	1					
		農業経済学特論Ⅱ	1後		2			○		3	1					
		農政学特論Ⅰ	1前		2			○		1	1					
		農政学特論Ⅱ	1後		2			○		1	1					
		食料経済学特論Ⅰ	1前		2			○		4	1					
食料経済学特論Ⅱ		1後		2			○		4	1						
小計（6科目）	—	0	12	0				8	3	0	0	0	兼0			
研究科目	農業経済学特別演習Ⅰ	1前	4				○		8	3						
	農業経済学特別演習Ⅱ	1後	4				○		8	3						
	農業経済学特別演習Ⅲ	2前	4				○		8	3						
	農業経済学特別演習Ⅳ	2後	4				○		8	3						
	小計（4科目）	—	16	0	0				8	3	0	0	0	兼0		
合計（18科目）			—	17	25	0			8	4	0	0	0	兼6		
学位又は称号		修士（農学）			学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【修了要件】 2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目17単位、選択必修科目4単位（特論科目の中から研究領域に関係の深い科目を4単位）、選択科目9単位以上の合計30単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

- （注）
- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（事前相談）

（国際食料農業科学研究科 国際アグリビジネス学専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際食料農業科学研究科 共通科目	研究倫理特講	1前	1			○									兼2	集中
	知的財産管理法	1前		2		○									兼1	集中
	農学教育史特講	1後		2		○			1							
	インターンシップ	2前		1				○	9	4						
	小計（4科目）	—	1	5	0			—	9	4	0	0	0		兼3	
専攻科目 基礎科目	論文英語Ⅰ	1前	2			○				1						
	論文英語Ⅱ	1後	2			○				1						
	農業ビジネス経営学特講	1前		2		○			2	1						ホニバス
	国際農業経営分析論特講	1後		2		○			2	1						ホニバス
	国際農業経営戦略分析手法	1前		2		○			2							ホニバス
	国際農業経営情報特講	1前		2		○			1							
	国際農業マーケティング特講	1後		2		○			1	1						ホニバス
	小計（7科目）	—	4	10	0			—	8	4	0	0	0		兼0	
専攻科目 特論科目	国際農業経営組織学特論Ⅰ	1前		2		○			2							
	国際農業経営組織学特論Ⅱ	1後		2		○			2							
	国際農業経営管理学特論Ⅰ	1前		2		○			3							
	国際農業経営管理学特論Ⅱ	1後		2		○			3							
	国際農業経営戦略特論Ⅰ	1前		2		○			3							
	国際農業経営戦略特論Ⅱ	1後		2		○			3							
小計（6科目）	—	0	12	0			—	8	0	0	0	0		兼0		
研究科目	国際アグリビジネス学特別演習Ⅰ	1前	4				○		8	3						
	国際アグリビジネス学特別演習Ⅱ	1後	4				○		8	3						
	国際アグリビジネス学特別演習Ⅲ	2前	4				○		8	3						
	国際アグリビジネス学特別演習Ⅳ	2後	4				○		8	3						
	小計（4科目）	—	16	0	0			—	8	3	0	0	0		兼0	
合計（21科目）			—	21	27	0		—	9	4	0	0	0		兼3	
学位又は称号		修士（農学）		学位又は学科の分野				農学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
【修了要件】 2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目21単位、選択必修科目4単位以上（特論科目の中から主たる研究領域を選択）、選択科目5単位以上の合計30単位以上を修得すること。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要																
（国際食料農業科学研究科 国際食農科学専攻 修士課程）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科共通科目	研究倫理特講	1前	1			○								兼2	集中	
	知的財産管理法	1前		2		○								兼1	集中	
	農学教育史特講	1後		2		○								兼1		
	インターンシップ	2前		1				○							集中	
	小計（4科目）	—	1	5	0				6	6	0	0	0	兼4		
専攻科目	基礎科目	論文英語	1前		2		○			2	2					ホニバス
		プレゼンテーション法	1前		2		○				3					ホニバス
		食農技術学	1前	2			○			3	2					ホニバス
		食農経済学	1前	2			○			3	4					ホニバス
	小計（4科目）	—	4	4	0				6	6	0	0	0	兼0		
	特論科目	植物生産学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					共同
		植物生産学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					共同
		食環境科学特論Ⅰ	1前		2		○			2	1					ホニバス
		食環境科学特論Ⅱ	1後		2		○			2	1					ホニバス
		食農政策特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					共同
		食農政策特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					共同
		食農教育特論Ⅰ	1前		2		○			2						共同
		食農教育特論Ⅱ	1後		2		○			2						共同
小計（8科目）	—	0	16	0				6	3	0	0	0	兼0			
研究科目	食農技術学分野	食農技術学特別演習Ⅰ	1前		2		○			3	2					
		食農技術学特別演習Ⅱ	1後		2		○			3	2					
		食農技術学特別演習Ⅲ	2前		2		○			3	2					
		食農技術学特別演習Ⅳ	2後		2		○			3	2					
		食農技術学特別実験Ⅰ	1前		2				○	3	2					
		食農技術学特別実験Ⅱ	1後		2				○	3	2					
		食農技術学特別実験Ⅲ	2前		2				○	3	2					
		食農技術学特別実験Ⅳ	2後		2				○	3	2					
	食農経済学分野	食農経済学特別演習Ⅰ	1前		4				○	3	2					
		食農経済学特別演習Ⅱ	1後		4				○	3	2					
		食農経済学特別演習Ⅲ	2前		4				○	3	2					
		食農経済学特別演習Ⅳ	2後		4				○	3	2					
小計（12科目）	—	0	32	0				6	4	0	0	0	兼0			
合計（28科目）		—	5	57	0				6	6	0	0	0	兼4		
学位又は称号		修士（農学）			学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【修了要件】 2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目5単位、選択必修科目20単位（特論科目の中から主たる研究領域4単位を選択、研究科目から主たる分野16単位を選択）、選択科目5単位以上の合計30単位以上を修得すること。							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	研究倫理後期特講	1前		1		○									兼2 集中
	インターンシップ	2前		1				○	10	2					集中
	小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	—	10	2	0	0	0	兼2	
専攻科目	基礎科目	英語論文作成・プレゼンテーション	1前		2			○	10	2					集中
		小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	10	2	0	0	0	兼0	
	特論科目	熱帯作物学後期特論	1前		2			○	2						
		熱帯園芸学後期特論	1前		2			○	1						
		熱帯作物保護学後期特論	1前		2			○	2						
		農業環境科学後期特論	1前		2			○	1						
		農業開発経済学後期特論	1前		2			○	1						
農村開発協力後期特論	1前		2			○	2								
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	9	0	0	0	0	兼0		
研究指導科	特別研究指導Ⅰ	1通	4				○	10							
	特別研究指導Ⅱ	2通	4				○	10							
	特別研究指導Ⅲ	3通	4				○	10							
	小計(3科目)	—	12	0	0	—	—	10	0	0	0	0	0	兼0	
合計(12科目)		—	12	16	0	—	—	10	2	0	0	0	0	兼2	
学位又は称号		博士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 3年以上在学し、所定の授業科目について16単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目12単位、選択必修科目2単位（特論科目の中から主たる研究領域を選択）、選択科目2単位の合計16単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

- (注)
- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
 - 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(国際食料農業科学研究科 農業経済学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 国 研 究 食 料 科 共 通 業 科 科	研究倫理後期特講	1前		1		○									兼2 集中
	インターンシップ	2前		1				○	8	4					集中
	小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	—	8	4	0	0	0	兼2	
専 攻 科 目	基礎科目 フィールド調査	1後		2				○	8						
	研究発表手法論	1後		2				○	8						
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	8	0	0	0	0	兼0	
	特論科目 農業経済学後期特論	1前		2		○			3						
	農政学後期特論	1前		2		○			1						
食料経済学後期特論	1前		2		○			4							
小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	—	8	0	0	0	0	兼0		
研 究 指 導 科 目	特別研究指導Ⅰ	1通	4					○	8	3					
	特別研究指導Ⅱ	2通	4					○	8	3					
	特別研究指導Ⅲ	3通	4					○	8	3					
	小計(3科目)	—	12	0	0	—	—	—	8	3	0	0	0	兼0	
合計(10科目)		—	12	12	0	—	—	—	8	4	0	0	0	兼2	
学位又は称号		博士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 3年以上在学し、所定の授業科目について18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目12単位、選択必修科目2単位（特論科目の中から主たる研究領域を選択）、選択4単位の合計18単位以上を修得すること。							1学年の学期区分				2期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（事前相談）														
（国際食料農業科学研究科 国際アグリビジネス学専攻 博士後期課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
国際食料農業科	研究倫理後期特講	1前		1		○								兼2 集中
	インターンシップ	2前		1				○	8	4				集中
	小計（2科目）	—	0	2	0	—			8	4	0	0	0	兼2
専門科目	基礎科目													
	上級論文英語Ⅰ	1前	2			○				1				
	上級論文英語Ⅱ	1後	2			○				1				
	国際農業経営情報後期特講	1後		2		○			1					
	国際農業マーケティング後期特講	1前		2		○			1					
	小計（4科目）	—	4	4	0	—			2	1	0	0	0	兼0
	特論科目													
国際農業経営組織学後期特論	1前		2		○			2						
国際農業経営管理学後期特論	1前		2		○			2						
国際農業経営戦略後期特論	1前		2		○			3						
小計（3科目）	—	0	6	0	—			7	0	0	0	0	兼0	
研究指導科目	特別研究指導Ⅰ	1通	4					○	7	3				
	特別研究指導Ⅱ	2通	4					○	7	3				
	特別研究指導Ⅲ	3通	4					○	7	3				
	小計（3科目）	—	12	0	0	—			7	3	0	0	0	兼0
合計（12科目）			—	16	12	0	—		8	4	0	0	0	兼2
学位又は称号		博士（農学）			学位又は学科の分野			農学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
【修了要件】 3年以上在学し、所定の授業科目について18単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修方法】 必修科目16単位、選択必修科目2単位（特論科目の中から主たる研究領域を選択）の合計18単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要 (基礎となる学部等)

(国際食料情報学部 国際農業開発学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合教育科目	導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			13	2						
		共通演習	1後	1				○		13	2						
		情報基礎 (一)	1前	2				○								兼3	
		情報基礎 (二)	1後	2				○								兼3	
	スポーツ関係科目	スポーツ・レクリエーション (一)	1前		1				○	1						兼1	
		スポーツ・レクリエーション (二)	1後		1				○	1						兼1	
	課題別科目	特別講義 (一)	1前		2			○		1						兼1	
		特別講義 (二)	1前		2			○								兼1	
		特別講義 (三)	1前		2			○								兼1	
		特別講義 (四)	1前		2			○								兼1	
		国際ナショナル・スタディーズ (一)	1前		2			○		2						兼11	
	国際ナショナル・スタディーズ (二)	1後		2			○								兼1		
	就職準備科目	キャリアデザイン	2前		1				○							兼1	
		ビジネスマナー	2前		1				○							兼1	
		インターンシップ	3後		1				○							兼1	
	(小計15科目)	—	7	17	0		—		13	2	0	4	0		兼19		
学部共通科目	リメディアル教育科目	基礎数学	1前			2		○								兼1	
		基礎社会	1前			2		○								兼1	
		文章表現	1前			2		○								兼1	
		(小計3科目)	—	0	0	6		—		0	0	0	0	0		兼3	
外国語科目	全学共通科目	基礎英語科目	英語(一)	1前	2			○								兼5	
			英語(二)	1後	2			○								兼5	
			英語(三)	2前	2			○								兼5	
			英語(四)	2後	2			○								兼5	
	学部共通科目	実用英語科目	TOEIC英語(一)	2前		2			○								兼6
			TOEIC英語(二)	2後		2			○								兼6
			英語リーディング(一)	3前		2			○								兼5
			英語リーディング(二)	3後		2			○								兼5
			英会話(一)	3前		2			○								兼3
			英会話(二)	3後		2			○								兼3
			科学英語	4前		2			○								兼1
	ビジネス英語	4後		2			○								兼1		
	学部共通科目	初修外国語科目	中国語(一)	1前		2			○								兼1
			中国語(二)	1後		2			○								兼1
			中国語(三)	2前		2			○								兼2
中国語(四)			2後		2			○								兼2	
フランス語(一)			1前		2			○								兼1	
フランス語(二)			1後		2			○								兼1	
フランス語(三)			2前		2			○								兼1	
フランス語(四)			2後		2			○								兼1	
スペイン語(一)			1前		2			○								兼1	
スペイン語(二)			1後		2			○								兼1	
スペイン語(三)			2前		2			○								兼1	
スペイン語(四)			2後		2			○								兼1	
ブラジル・ポルトガル語(一)			1前		2			○								兼1	
ブラジル・ポルトガル語(二)			1後		2			○								兼1	
インドネシア語(一)	1前		2			○								兼2			
インドネシア語(二)	1後		2			○								兼2			
タイ語(一)	1前		2			○								兼1			
タイ語(二)	1後		2			○								兼1			
ハングル・韓国語(一)	1前		2			○								兼1			
ハングル・韓国語(二)	1後		2			○								兼1			
	(小計32科目)	—	8	56	0		—		0	0	0	0	0		兼27		

学科基礎科目	人間関係科目	哲学	1前	2	○								兼1	
		日本史	1後	2	○								兼1	
		文化人類学	1後	2	○								兼1	
		環境倫理	2前	2	○								兼1	
	社会関係科目	法学入門	1前	2	○								兼1	
		政治のしくみ	1前	2	○								兼1	
		日本国憲法	1後	2	○								兼1	
		地理学	2後	2	○								兼1	
	自然関係科目	生物学	1前	2	○								兼1	
		化学	1前	2	○								兼1	
		数学	1後	2	○								兼1	
		物理学	1後	2	○								兼1	
		地学	2後	2	○								兼1	
	(小計13科目)	—	0	26	0	—		0	0	0	0	0	兼13	
専門共通科目	栽培学入門	1前	2	○				2			1		兼1	オムニバス
	経営学入門	1後	2	○									兼1	
	経済学入門	1後	2	○									兼1	
	畜産学入門	2前	2	○									兼1	
	統計基礎	2前	2	○									兼1	
	(小計5科目)	—	0	10	0	—		2	0	0	1	0	兼5	
創生型科目	地域再生・活性化	1前	2			○							兼3	オムニバス
	(小計1科目)	—	0	2	0	—							兼3	
基礎専門科目	農業農村開発学総論	1前	2	○				1						
	熱帯農業入門	1前	2	○				9	1		2			オムニバス
	(小計2科目)	—	4	0	0	—		10	1	0	2	0	兼0	
専門コア科目	農業環境科学総論	1前	2	○				1	1					オムニバス
	栽培学原論	1前	2	○				1						
	熱帯作物保護学総論	1後	2	○				3					兼1	オムニバス
	熱帯作物学総論	1後	2	○				2			1			オムニバス
	熱帯園芸学総論	1後	2	○							1			
	農業経済学	1後	2	○					1					
	農業経営学	2後	2	○				1						
	植物学	2前	2	○				1						
	農村開発社会学	2前	2	○				1						
	熱帯土壌学	2後	2	○				1	1					オムニバス
	農業開発経済学	2後	2	○				1						
	熱帯植物生態学	1後	2	○				1						
	熱帯食用作物学	2前	2	○				2			1			オムニバス
	熱帯野菜学	2前	2	○							1			
	作物害虫学	2前	2	○				1						
	作物病理学	2前	2	○				2						オムニバス
	国際農業協力論	2前	2	○				1	1					
	熱帯果樹学	2後	2	○							1			
	熱帯農業微生物学	3前	2	○				2						
	熱帯昆虫生態学	3前	2	○				1						
	食料生産環境学	3前	2	○					1				兼2	オムニバス
	農業普及論	3前	2	○				1			1			オムニバス
	作物育種学	3後	2	○				2			2			オムニバス
野生動物管理学	2後	2	○									兼1		
国際農業経済論	3後	2	○				1							
比較農業論	3後	2	○					1						
	(小計26科目)	—	22	30	0	—		11	2	0	3	0	兼3	

総合化科目	農業総合実習	1通	2				○	12	2		3	兼3	
	農学基礎実験	2前	2				○	8	1		2		
	農業専門実習	2通	2				○	7	2		4		
	農業開発実習	3通	2				○	12	2		3		
	卒業論文演習(一)	3前	2			○		13	2		3		
	卒業論文演習(二)	3後	2			○		13	2		4		
	卒業論文演習(三)	4前	2			○		9	2		2		
	卒業論文演習(四)	4後	2			○		3			4		
	卒業論文	4通	4			○		13	2		3		
	ファームステイ	2通		2			○	9	2		4		
	農学専門実験	3前		2			○	7	1		3		
	海外農業実習(一)	3後		2			○	2	1		1		
	海外農業実習(二)	3後		2			○	2	1		1		
	海外農業実習(三)	3後		2			○	2	1		1		
	農村開発協力論セミナー	4前		2		○		2			1		
	フィールド調査	4後		2		○		2			1		
(小計16科目)			—	20	14	0	—	12	2	0	6	兼0	
(合計113科目)			—	61	155	6	—	13	2	0	6	0	兼75
学位又は称号		学士(国際食料情報学)		学位又は学科の分野			農学分野						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
必修科目61単位、選択必修科目16単位(実用英語科目の中から4単位、人間関係科目の中から4単位、社会関係科目の中から4単位、自然関係科目の中から4単位)、選択科目47単位以上(ただし、学科専門科目の中から20単位以上)を修得し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分		2期				
							1学期の授業期間		15週				
							1時限の授業時間		90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（基礎となる学部等）

（国際食料情報学部 食料環境経済学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合教育科目	導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			9	4		1		兼2	
		共通演習	1後	1				○		9	4		1			
		情報基礎（一）	1前	2			○								兼5	
		情報基礎（二）	1後	2			○								兼5	
	スポーツ関係科目	スポーツ・レクリエーション（一）	1前		1				○						兼2	
		スポーツ・レクリエーション（二）	1後		1				○						兼2	
	課題別科目	特別講義（一）	1前		2		○								兼1	
		特別講義（二）	1前		2		○								兼1	
		特別講義（三）	1前		2		○								兼1	
		特別講義（四）	1前		2		○								兼1	
		インターナショナル・スタディーズ（一）	1前		2		○			1	1				兼13	
	インターナショナル・スタディーズ（二）	1後		2		○								兼1		
	就職準備科目	キャリアデザイン	2前		1				○	1						
		ビジネスマナー	2前		1				○	1						
		インターンシップ	3後		1				○	1						
	(小計15科目)	—	7	17	0		—		9	4	0	1	0	兼26		
学部共通科目	リメディアル教育科目	基礎数学	1前			2	○								兼1	
		基礎社会	1前			2	○								兼1	
		文章表現	1前			2	○								兼1	
		(小計3科目)	—	0	0	6		—		0	0	0	0	0	兼3	
外国語科目	基盤英語科目	英語（一）	1前	2			○								兼6	
		英語（二）	1後	2			○								兼6	
		英語（三）	2前	2			○								兼6	
		英語（四）	2後	2			○								兼6	
	学部共通科目	実用英語科目	TOEIC英語（一）	2前		2		○								兼6
			TOEIC英語（二）	2後		2		○								兼6
			英語リーディング（一）	3前		2		○				1				兼4
			英語リーディング（二）	3後		2		○				1				兼4
			英会話（一）	3前		2		○				1				兼2
			英会話（二）	3後		2		○				1				兼2
			科学英語	4前		2		○								兼1
	ビジネス英語	4後		2		○								兼1		
	初修外国語科目	中国語（一）	1前		2		○								兼3	
		中国語（二）	1後		2		○								兼3	
		中国語（三）	2前		2		○								兼2	
		中国語（四）	2後		2		○								兼2	
		フランス語（一）	1前		2		○								兼1	
		フランス語（二）	1後		2		○								兼1	
		フランス語（三）	2前		2		○								兼1	
		フランス語（四）	2後		2		○								兼1	
		スペイン語（一）	1前		2		○								兼1	
		スペイン語（二）	1後		2		○								兼1	
		スペイン語（三）	2前		2		○								兼1	
		スペイン語（四）	2後		2		○								兼1	
		ブラジル・ポルトガル語（一）	1前		2		○								兼1	
		ブラジル・ポルトガル語（二）	1後		2		○								兼1	
		インドネシア語（一）	1前		2		○								兼2	
インドネシア語（二）		1後		2		○								兼2		
タイ語（一）		1前		2		○								兼1		
タイ語（二）		1後		2		○								兼1		
ハングル・韓国語（一）		1前		2		○								兼1		
ハングル・韓国語（二）		1後		2		○								兼1		
	(小計32科目)	—	8	56	0		—		0	1	0	0	0	兼31		

人間関係科目	哲学	1前		2		○									兼1		
	日本史	1後		2		○									兼2		
	文化人類学	1後		2		○									兼1		
	環境倫理	2前		2		○									兼1		
	社会関係科目	法学入門	1前		2		○									兼1	
		政治のしくみ	1前		2		○									兼1	
		日本国憲法	1後		2		○									兼1	
		地理学	2後		2		○									兼1	
	自然関係科目	生物学	1前		2		○									兼1	
		化学	1前		2		○									兼1	
		数学	1後		2		○									兼1	
		物理学	1後		2		○									兼1	
		地学	2後		2		○									兼1	
(小計13科目)		—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	兼13		
専門共通科目	栽培学入門	1前		2		○									兼4	オムニバス	
	経営学入門	1後		2		○									兼1		
	経済学入門	1後		2		○									兼1		
	畜産学入門	2前		2		○									兼1		
	統計基礎	2前		2		○									兼1		
(小計5科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8		
創生型科目	地域再生・活性化	1前		2				○	2			1				オムニバス	
	(小計1科目)		—	0	2	0	—		2	0	0	1	0		兼0		
専門基礎科目	食料環境経済学演習(一)	1前	2			○			6	4		1					
	食料環境経済学演習(二)	1後	2			○			6	4		1					
	食料環境経済学演習(三)	2前	2			○			8	3		1					
	食料環境経済学演習(四)	2後	2			○			8	3		1					
	ミクロ経済学(一)	1前	2			○			1								
	農業経済学	1後	2			○			1								
	マクロ経済学	2前	2			○			1								
	食料経済学	2前	2			○			1								
	環境経済学	2前	2			○			1								
	フィールド研修	2通	2					○	9	4		1					
	食品マーケティング論	2前		2			○		1								
	食品産業論	3前		2			○									兼1	
	国際農業経済論	2前		2			○									兼1	
	農業経営学	2前		2			○		1								
	農業政策論	2前		2			○			1							
	資源経済学	2前		2			○		1								
	環境政策論	2後		2			○									兼1	
	環境社会学	2後		2			○		1								
	都市経済論	2後		2			○		1								
	公共経済学	2後		2			○				1						
	国際フードシステム論	2後		2			○				1						
	食料政策論	3前		2			○									兼1	
	農村政策論	3前		2			○				1						
	地域計画論	3前		2			○				1						
	農業貿易論	3後		2			○				1						
	食品マーケティング戦略論	3後		2			○			1			1				
(小計26科目)		—	20	32	0	—			9	4	0	1	0		兼4		

専門教育科目

学科専門科目	経済地理学	1前		2		○			1										
	グローバル経済論	1前		2		○				1									
専門コア科目	環境経済史	1後		2		○													兼1
	ミクロ経済学(二)	1後		2		○			1										兼1
	行政学	2前		2		○													兼1
	農業史	2前		2		○													兼1
	農村社会学	2前		2		○													兼1
	財政学	2後		2		○													兼1
	企業と会計	2後		2		○			1										兼1
	アメリカ・EU農業経済論	2後		2		○													兼1
	経済経営のための数学	2後		2		○													兼1
	社会調査	3前		2		○				1									
	新エネルギー論	3前		2		○													
	農産物市場論	3前		2		○								1					
	金融論	3前		2		○													
	計量経済学	3前		2		○													
	環境経済評価	3前		2		○				1									
	アジア農業経済論	3前		2		○				1									
	フィールドリサーチ(一)	3前		1					○	8	4				1				
	フィールドリサーチ(二)	3後		1					○	8	4				1				
	経済統計論	3後		2		○													
	協同組合論	3後		2		○													
	食品関係法	3後		2		○													
	特別演習(一)	2前		1					○	9	4				1				
	特別演習(二)	2後		1					○	9	4				1				
	特別演習(三)	3前		1					○	9	4				1				
	特別演習(四)	3後		1					○	9	4				1				
	(小計27科目)		—	0	48	0			—	9	4	0	1	0					兼12
	用専門科目	外国史	2後		2		○												
地誌		3前		2		○													兼1
(小計2科目)			—	0	4	0		—	0	0	0	0	0					兼2	
域学科際	社会経済学	2後		2		○			1										
	農業思想論	3前		2		○			1										
	(小計2科目)		—	0	4	0		—	2										
総合化科目	食料環境経済学演習(五)	3前	2					○	8	4				1					
	食料環境経済学演習(六)	3後	2					○	8	4				1					
	食料環境経済学演習(七)	4前	2					○	8	5				3					
	食料環境経済学演習(八)	4後	2					○	8	5				3					
	卒業論文	4通	4					○	9	4				1					
	食料環境経済学総合演習(一)	4前	2					○	8	5				3					
	食料環境経済学総合演習(二)	4後	2					○	8	5				3					
(小計7科目)		—	12	4	0		—	9	4	0	1	0					兼0		
(合計133科目)		—	47	203	6		—	9	5	0	3	0					兼96		
学位又は称号		学士(国際食料情報学)			学位又は学科の分野			農学分野											
卒業要件及び履修方法									授業期間等										
必修科目47単位、選択必修科目36単位(実用英語科目の中から4単位、人間関係科目の中から4単位、社会関係科目の中から4単位、自然関係科目の中から4単位)、選択科目41単位以上(ただし、学科専門科目の中から24単位以上)を修得し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))									1学年の学期区分					2期					
									1学期の授業期間					15週					
									1時限の授業時間					90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（基礎となる学部等）

（国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合教育科目	導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			7	5		3		兼2	共同（一部）
		共通演習	1後	1				○		5	5		2			
		情報基礎（一）	1前	2			○						1		兼2	
		情報基礎（二）	1後	2			○						1		兼2	
	スポーツ関係科目	スポーツ・レクリエーション（一）	1前		1				○							兼2
		スポーツ・レクリエーション（二）	1後		1				○							兼2
	課題別科目	特別講義（一）	1前		2		○									兼1
		特別講義（二）	1前		2		○									兼1
		特別講義（三）	1前		2		○									兼1
		特別講義（四）	1前		2		○									兼1
		国際・スタディーズ（一）	1前		2		○									兼13
	国際・スタディーズ（二）	1後		2		○									兼1	
	就職準備科目	キャリアデザイン	2前		1				○							兼1
		ビジネスマナー	2前		1				○							兼1
		インターンシップ	3後		1				○							兼1
	(小計15科目)	—	7	17	0	—	—	—	7	5	0	3	0	兼24		
学部共通科目	リメ教育ディアル	基礎数学	1前			2	○								兼1	
		基礎社会	1前			2	○								兼1	
		文章表現	1前			2	○								兼1	
	(小計3科目)	—	0	0	6	—	—	—	0	0	0	0	0	兼3		
外国語科目	基盤英語科目	英語（一）	1前	2			○								兼5	
		英語（二）	1後	2			○								兼5	
		英語（三）	2前	2			○								兼5	
		英語（四）	2後	2			○								兼5	
	実用英語科目	TOEIC英語（一）	2前		2		○									兼6
		TOEIC英語（二）	2後		2		○									兼6
		英語リーディング（一）	3前		2		○									兼5
		英語リーディング（二）	3後		2		○									兼5
		英会話（一）	3前		2		○									兼3
		英会話（二）	3後		2		○									兼3
		科学英語	4前		2		○									兼1
	ビジネス英語	4後		2		○									兼1	
	初修外国語科目	中国語（一）	1前		2		○									兼2
		中国語（二）	1後		2		○									兼2
		中国語（三）	2前		2		○									兼2
中国語（四）		2後		2		○									兼2	
フランス語（一）		1前		2		○									兼1	
フランス語（二）		1後		2		○									兼1	
フランス語（三）		2前		2		○									兼1	
フランス語（四）		2後		2		○									兼1	
スペイン語（一）		1前		2		○									兼1	
スペイン語（二）		1後		2		○									兼1	
スペイン語（三）		2前		2		○									兼1	
スペイン語（四）		2後		2		○									兼1	
ブラジル・ポルトガル語（一）		1前		2		○									兼1	
ブラジル・ポルトガル語（二）		1後		2		○									兼1	
インドネシア語（一）	1前		2		○									兼2		
インドネシア語（二）	1後		2		○									兼2		
タイ語（一）	1前		2		○									兼1		
タイ語（二）	1後		2		○									兼1		
ハングル・韓国語（一）	1前		2		○									兼1		
ハングル・韓国語（二）	1後		2		○									兼1		
	(小計32科目)	—	8	56	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼26		

学科基礎科目	人間関係科目	哲学	1前	2		○									兼1	
		日本史	1後	2		○									兼1	
		文化人類学	1後	2		○									兼1	
		環境倫理	2前	2		○									兼1	
	社会関係科目	法学入門	1前	2		○									兼1	
		政治のしくみ	1前	2		○									兼1	
		日本国憲法	1後	2		○									兼1	
		地理学	2後	2		○									兼1	
	自然関係科目	生物学	1前	2		○									兼1	
		化学	1前	2		○									兼1	
		数学	1後	2		○									兼1	
		物理学	1後	2		○									兼1	
		地学	2後	2		○									兼1	
	(小計13科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	兼13		
専門基礎科目	専門共通科目	栽培学入門	1前	2		○									兼4	オムニバス
		経営学入門	1後	2		○									兼1	
		経済学入門	1後	2		○									兼1	
		畜産学入門	2前	2		○			1							
		統計基礎	2前	2		○									兼1	
	(小計5科目)	—	0	10	0	—		1	0	0	0	0	0	兼7		
創生型科目	地域再生・活性化	1前	2				○							兼3		
	(小計1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3		
専門教育科目	学科専門科目	専門基礎科目	国際バイオビジネス基礎演習(一)	1前	2			○		5	6		2			
			国際バイオビジネス基礎演習(二)	1後	1			○		5	6		2			
			国際バイオビジネス基礎演習(三)	2前	2			○		7	6		2			
			国際バイオビジネス基礎演習(四)	2後	2			○		7	6		2			
			バイオビジネス経済学(一)(マイクロ)	1前	2			○					1			
			バイオビジネス経済学(二)(マクロ)	1後	2			○		1						
			バイオビジネス経営学総論	1前	2			○		1						
			バイオビジネス経営環境論	1前	2			○		1	1					オムニバス
			バイオビジネス経営情報論	1後	2			○		1	1					オムニバス
			バイオビジネス会計学	1後	2			○			1	1				
			バイオビジネス実地研修(一)	2通	2				○	7	5		2			
			バイオビジネスマーケティング論(一)	2前	2			○			1					
			国際地域農業論	2前	2			○		1	1					オムニバス
			バイオビジネス経営管理論	2前	2			○		1						
			バイオビジネス財務会計論	2前	2			○		1						
			バイオビジネス経営実践論	2後	2			○		1	1					共同
			農業経営・制度展開論	2後	2			○		4	3					オムニバス
			バイオビジネス経営戦略論	2後	2			○		1						
			バイオビジネス経営組織論	3前	2			○		1						
			農業マネジメント論	2前	2			○			1					
			バイオビジネス統計学(一)	3前	2			○					1			
	(小計21科目)	—	37	4	0	—		7	6	0	2	0	0	兼0		
専門教育科目	学科専門科目	専門コア科目	バイオビジネス会計学演習	2後	2			○		2	1					オムニバス
			バイオビジネス経営情報論演習	3前	2			○		2	1					共同(一部)
			バイオビジネス経営学演習	3前	2			○		2	1					共同
			バイオビジネス統計学演習	3後	2			○		2			1			共同(一部)
			商品企画演習	3後	2			○		2	1		1			共同
			情報ネットワーク論	2前	2			○								兼1
			プログラム言語	2前	2			○								兼1
			バイオビジネス情報システム論	2後	2			○					1			
			フードビジネス論	2後	2			○		1						
			バイオビジネスマーケティング論(二)	2後	2			○					1			
			地域農業活性化論	3前	2			○		1	1					オムニバス
			マーケティングリサーチ	3前	2			○					1			
			バイオビジネス法	3前	2			○		1						
			データベース論	3前	2			○					1			
			バイオビジネス経営分析論	3前	2			○					1			
			バイオビジネス統計学(二)	3後	2			○		1						
			オペレーションズ・リサーチ	3後	2			○		1						
			オペレーションズ・リサーチ演習	3後	2			○		2			1			共同
			マルチメディア論	3後	2			○					1			
			基本情報処理演習	3後	2			○								兼1
			バイオビジネスと環境	3後	2			○		1						
			バイオビジネスと地域開発	3後	2			○								兼1
	(小計22科目)	—	0	44	0	—		8	4	0	2	0	0	兼3		

総合 化 科 目	卒業論文演習（一）	3前	2				○		8	5		3		
	卒業論文演習（二）	3後	2				○		8	5		3		
	卒業論文演習（三）	4前	2				○		8	6		3		
	卒業論文演習（四）	4後	2				○		8	6		3		
	卒業論文	4通	4				○		8	6		3		
	バイオビジネス実地研修（二）	3・4通		2				○	7	5		2		
	英文論文執筆法	4前		2			○			1				
	ビジネススキル	4後		2			○							兼1
(小計8科目)		—	12	6	0	—	—	8	5	0	3	0	兼1	
(合計120科目)		—	64	165	6	—	—	8	6	0	3	0	兼77	
学位又は称号		学士（国際食料情報学）			学位又は学科の分野			農学分野						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
必修科目64単位、選択必修科目20単位（実用英語科目の中から2単位、人間関係科目の中から2単位、社会関係科目の中から2単位、自然関係科目の中から2単位）、選択科目40単位以上（ただし、学科専門科目の中から10単位以上）を修得し、合計124単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：44単位（年間））							1 学年の学期区分		2 期					
							1 学期の授業期間		1 5 週					
							1 時限の授業時間		9 0 分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（基礎となる学部等）

（国際食料情報学部 国際食農科学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合教育科目	導入科目	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			8	4		2		兼2	共同(一部)
		共通演習	1後	1				○		8	3		2		兼2	
		情報基礎(一)	1前	2				○							兼2	
		情報基礎(二)	1後	2				○							兼2	
		スポーツ関係科目	スポーツ・レクリエーション(一)	1前		1				○						兼2
		スポーツ・レクリエーション(二)	1後		1				○						兼2	
	課題別科目	特別講義(一)	1前		2			○							兼1	※実習
		特別講義(二)	1前		2			○							兼1	
		特別講義(三)	1前		2			○							兼1	
		特別講義(四)	1前		2			○							兼1	
		国際食農科学科	インターナショナル・スタディーズ(一)	1前		2			○		1	1				
	インターナショナル・スタディーズ(二)	1後		2			○							兼1		
	備就職科目	キャリアデザイン	2前		1				○						兼1	集中
		ビジネスマナー	2前		1				○						兼1	
		インターンシップ	3後		1				○						兼1	
	(小計15科目)	—	7	17	0		—		8	4	0	2	0	兼22		
学部共通科目	リメディア教育科目	基礎数学	1前			2		○							兼1	
		基礎社会	1前			2		○							兼1	
		文章表現	1前			2		○							兼1	
	(小計3科目)	—	0	0	6		—		0	0	0	0	0	兼3		
外国語科目	基盤英語科目	英語(一)	1前	2				○							兼4	
		英語(二)	1後	2				○							兼4	
		英語(三)	2前	2				○							兼4	
		英語(四)	2後	2				○							兼4	
	実用英語科目	TOEIC英語(一)	2前		2			○							兼6	
		TOEIC英語(二)	2後		2			○							兼6	
		英語リーディング(一)	3前		2			○							兼5	
		英語リーディング(二)	3後		2			○							兼5	
		英会話(一)	3前		2			○							兼3	
		英会話(二)	3後		2			○							兼3	
		科学英語	4前		2			○							兼3	
	ビジネス英語	4後		2			○							兼3		
	初修外国語科目	中国語(一)	1前		2			○							兼1	
		中国語(二)	1後		2			○							兼1	
		中国語(三)	2前		2			○							兼2	
中国語(四)		2後		2			○							兼2		
フランス語(一)		1前		2			○							兼1		
フランス語(二)		1後		2			○							兼1		
フランス語(三)		2前		2			○							兼1		
フランス語(四)		2後		2			○							兼1		
スペイン語(一)		1前		2			○							兼1		
スペイン語(二)		1後		2			○							兼1		
スペイン語(三)		2前		2			○							兼1		
スペイン語(四)		2後		2			○							兼1		
ブラジル・ポルトガル語(一)		1前		2			○							兼1		
ブラジル・ポルトガル語(二)		1後		2			○							兼1		
インドネシア語(一)	1前		2			○							兼2			
インドネシア語(二)	1後		2			○							兼2			
タイ語(一)	1前		2			○							兼1			
タイ語(二)	1後		2			○							兼1			
ハングル・韓国語(一)	1前		2			○							兼1			
ハングル・韓国語(二)	1後		2			○							兼1			
	(小計32科目)	—	8	56	0		—		0	0	0	0	0	兼25		

人間関係科目 学科基礎科目 自然関係科目	哲学	1前		2		○							兼1		
	日本史	1後		2		○							兼1		
	文化人類学	1後		2		○							兼1		
	環境倫理	2前		2		○							兼1		
	社会関係科目	法学入門	1前		2		○							兼1	
		政治のしくみ	1前		2		○							兼1	
		日本国憲法	1後		2		○							兼1	
		地理学	2後		2		○							兼1	
	自然関係科目	生物学	1前		2		○							兼1	
		化学	1前		2		○							兼1	
		数学	1後		2		○							兼1	
		物理学	1後		2		○							兼1	
		地学	2後		2		○							兼1	
(小計13科目)			—	0	26	0	—		0	0	0	0	0	兼12	
専門共通科目	栽培学入門	1前		2		○			1				兼3	オムニバス	
	経営学入門	1後		2		○							兼1		
	経済学入門	1後		2		○							兼1		
	畜産学入門	2前		2		○							兼1		
	統計基礎	2前		2		○							兼1		
(小計5科目)			—	0	10	0	—		0	1	0	0	0	兼7	
創生型科目	地域再生・活性化	1前		2				○					兼3		
	(小計1科目)			—	0	2	0	—		0	0	0	0	兼3	
専門基礎科目	農学概論	1前		2		○			1			1	兼6		
	国際食農科学総論	1前		2		○			4	1				オムニバス	
	栄養食品科学	1前		2		○			1						
	国際地域農業論	1前		2		○			2	2				オムニバス	
	食農基礎実験	1後		1				○	2	1				共同	
	植物生産・生理学	1後		2		○			2	1					
	国際食農教育・学習論	1後		2		○			1					兼1	
	民俗学	2前		2		○									
(小計8科目)			—	11	4	0	—		5	4	0	1	0	兼7	
専門教育科目 学科専門科目	食農野菜学	2前		2		○			1						
	食品加工学	2前		2		○			1	1					
	食品材料学(一)	2前		2		○			1		1				
	国際食農文化資源論	2前		2		○									
	フードスペシャリスト論	2前		2		○			1						
	グローバリゼーションと食品流通	2前		2		○			1			1			
	食育と食生活論	2前		2		○			1						
	食品衛生学	2後		2		○			1	1					
	食品材料学(二)	2後		2		○			1						
	食農作物学	2後		2		○			1						
	消費経済学	2後		2		○			1						
	調理学	2後		2		○								兼1	
	食農と協同組合	2後		2		○				1					
	グローバリゼーションとフェアトレード	2後		2		○						1			
	食農文化論	2後		2		○			2					オムニバス	
	食農政策法制論	3前		2		○				1					
	農村社会学	3前		2		○			1						
	地域活性化論	3前		2		○						1			
	比較農業史	3前		2		○			1						
	持続的農業論	3前		2		○			1						
	食品機能学	3前		1		○			1						
	食農果樹学	3前		2		○					1				
	土壌肥料学	3前		2		○								兼1	
	農業経営学	3後		2		○						1			
	国際食農商品戦略論	3後		2		○			1	3					
	農業生産と気象	3後		2		○			1						
	フードコーディネート論	3後		2		○								兼1	
	学習と参加の理論	3後		2		○			1						
比較食文化史	3後		2		○			1							
農村女性論	3後		2		○			1							
植物育種学	3後		2		○								兼1		
行動経済学	3後		2		○				1						
(小計32科目)			—	28	35	0	—		8	4	0	2	0	兼4	
学科領域	食農とメディア	4後		2				○	3	1				オムニバス	
	(小計1科目)			—	0	2	0	—	3	1	0	0	0	兼0	

総合化科目	食農基礎実習	1通	2				○	3	1		1	兼1 オムニバス・共同(一部) 兼1 オムニバス・共同(一部) 兼1 集中・共同 兼1 集中 兼1 共同 オムニバス・共同(一部) 兼2 共同			
	食農基礎演習	1通	4			○		4	2		1				
	食農専門実習	2通	2				○	4	1		2				
	食農専門演習	2通	4			○		4	2		1				
	食品分析学実験	2後	2				○	2			1				
	食農ファームステイ	2後	2				○	8	3		2				
	食農フィールドスタディ	3後	2				○	8	3		2				
	食品加工品質評価学実習	3前	1				○	1			1				
	食品安全評価学実験	3前	1				○	2			1				
	食農文化演習	3前		2			○	1	1						
	食品機能学実験	3後		1				2							
	調理学実習	3後		2							1				
	国際食農科学演習(一)	3前	2				○	8	4		2				
	国際食農科学演習(二)	3後	2				○	8	4		2				
	国際食農科学演習(三)	4前	2				○	8	4		2				
	国際食農科学演習(四)	4後	2				○	8	4		2				
	卒業論文	4通	4				○	8	4		2				
	(小計17科目)	—	32	5	0	—	—	8	4	0	2		0	兼4	
	(合計127科目)		—	86	157	6	—	—	8	4	0		2	0	兼78
	学位又は称号		学士(農学)			学位又は学科の分野			農学分野						
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目86単位、選択必修科目16単位(実用英語科目の中から4単位、人間関係科目の中から4単位、社会関係科目の中から4単位、自然関係科目の中から4単位)、選択科目22単位以上(ただし、学科専門科目の中から12単位以上)を修得し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要				
(国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 博士前期課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
国際食料農業科学研究科 共通科目	研究倫理特講	<p>研究を行い、さらに学術論文、学会発表をする上で、研究倫理性を理解することは非常に重要である、本講義では、eラーニング教材による学修と並行して研究を行う上で必要な倫理観を涵養する。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて、研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止(発注・人件費・旅費・謝金)について学修する。</p> <p>また、研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>		
	知的財産管理法	<p>農業・農学の事例を元に知財を学び、知財を創造し経営戦略的視点で活用するケーススタディの学修を通じて、グローバル化や食糧問題等で生じる農業の諸課題を解決する力を養う。</p> <p>具体的には、まずガイダンスを行った上で、現代農業と知財について講義し、続いて、農業分野での商品開発とその販売戦略、知的財産から見る農業の歴史と将来、農業技術の創造・保護・活用について学ぶ。さらに、品種登録制度、農業に関する知財係争の実際、農業のグローバル化と知的財産に関連するその他の法制度といった実務的知識について学ぶ。最後に、以上を踏まえて6次産業化(販売戦略等)企業的经营(大規模)、農機具開発(関連産業)に係わるケーススタディについて学ぶ。</p>		
	農学教育史特講	<p>日本の農学教育の歴史について、西洋の分析科学の導入を切り口とし文献史料を検討し、近代農学がどのように発達したのかを考える。具体的には、駒場農学校から帝国大学農科大学を中心に和文(古文書を含む)、英文、独文の文献史料を読む。本授業では、受講者が関連事項を調べることを通して、日本の農学教育史ならびに東京農科大学史の基礎知識を身につけること、文献や史料の探し方を学ぶことを目的とする。</p>		
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就業体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料・農業・環境の実際の職場において就業体験を積むことにより、現場の問題解決に取り組む専門的能力の発揮など自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>		
専攻科目	基礎科目	論文作成法	<p>学術論文を第一著者として執筆し査読付雑誌に掲載されるまでのプロセスを、実際に論文執筆、投稿雑誌の選択から投稿、編集委員や査読者との連絡、査読に応えての改訂、校正から受理までを経験しながら修得する。</p> <p>受講者は個別に教員の指導を受けながら、作業を進め、論文の作成法について学修する。</p>	
		サイエンスコミュニケーション法	<p>研究の成果を学会や関連のシンポジウムなどにおいて発表する際に必要な、効果的な発表の技術とノウハウを教授する。それぞれの専門分野における研究の成果に基づき、実際のプレゼンテーションの準備から、学会での発表、事後の評価や改善までの一連の過程を指導教授が指導することにより、プレゼンテーションのスキルを体得する。</p>	
		国際協力のための英会話	<p>今、世の中から求められているグローバル人材の基礎となるのは、単に英語で会話ができるという語学力だけではなく、英会話を通じたコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・交渉能力である。授業では、日常会話に始まり、業務開始からプロジェクトの現場や会議などを模した場面設定での英語でのコミュニケーション法について教授し、国際協役に役立つ英会話を実践できることを目指す。</p> <p>自分の意見や考えを相手に伝えられる能力と、相手の意見や考えを的確にくみ取り理解する能力を身につけ、国際協力の現場で役立つ英会話によるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・交渉能力を身につける。</p>	

専攻科目	基礎科目	情報処理・文献検索	この授業では、研究過程の基本的理解を得るためのツールとしての電子情報源の使用強化を図り、研究のトピックと検索の戦略を定義できるようなスキルについて教授する。 さらに信頼できるインターネットリソースの検索技術について修得する。 また、引用文献管理ツールを使用して情報を整理するスキルを修得する。	
		フィールド調査	フィールド調査の内容はそれぞれの専門分野によって異なるが、いずれの分野においてもデータやサンプル等の収集方法の習得は重要である。本科目では、指導教員あるいは指導教員に委託された研究者の指導の下に、国内外を問わず研究のためのフィールド調査を行い、現場においてデータ収集方法の指導を行う。通算7日以上フィールド調査を原則とし、「フィールド調査概要報告」と本人の「調査日誌」および「レポート」を提出する。なお、実施方法は集中で行う。	
		プロジェクトサイクルマネジメント	開発途上国の農業・農村開発協力プロジェクトを実務レベルで進めるのに必要なプロジェクトサイクルマネジメント（PCM）の手法により、関係者分析、問題分析、目的分析、プロジェクトの選択、活動計画、事後評価などの結果を踏まえて、プロジェクトデザインマトリクス（PDM）を作成し、問題の因果関係を明確にするとともに有効な協力手法を修得する。PCMの考え方からPDMの作成に至る過程を説明するとともに、プロジェクトの仮想例を用い、PCMの手法について教授する。	
		コンピュータ演習	海外からの留学生等、コンピュータ利用技術の基礎を学修する機会の少なかつた学生を主な対象として、国際農業開発学の修士論文をまとめる上で必要になるコンピュータの使用方法を学ぶ。 基本的なソフトを不自由なく使いこなせるようになり、特にExcelについては中級程度の技術、知識を修得する。 インターネット上の情報を収集、分析し、質の高い情報を見分ける知識と技術を身につける。	

専攻科目	特論科目	生物生産科学特論	<p>(概要) 作物の個体レベルから圃場や地域のレベルにわたって、作物生産とそれをめぐる技術、栽培環境、土壌や水の理化学性および生物相互のかかわりを重視した作物の安定的生産技術の開発に対応できる基礎的な知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回：単位認定者 5 志和地 弘信) (1 足達 太郎／2回) 約1万2000年前におこった第1次農業革命、20世紀におこった種子・肥料革命など農業の歴史をひもとく。作物保護の起源から消毒思想にいたる害虫防除思想の変遷について論じるとともに、いわゆる「緑の革命」の功罪に焦点をあて、あらたな「在来農業革命」の可能性を検討する。その上で、世界各地の在来農法を概観し、それらに内在する作物保護機能について検証する。生物多様性と植物と昆虫の相互作用を活用した総合的なとりくみについて、最近の研究動向を紹介する。</p> <p>(2 入江 憲治／2回) 熱帯・亜熱帯地域の稲の品種生態、栽培技術、育種について概説し、基礎的な知識を習得した後、気候変動に対する対応や持続的な稲作生産など、稲作を取り巻く様々な課題に対応できる課題解決型の研究を実践するために、わが国における稲学研究、国際的な研究動向、研究プロジェクトの事例を紹介しながら、論理的知識の構築を目指した考え方を教授する。</p> <p>(4 小塩 海平／3回) 採種、発芽、育苗、肥培管理、収穫、鮮度保持などに関して、植物生理学の視点から教授する。具体的にはこれらの栽培・貯蔵技術に関して、従来の伝統的な方法やバイオテクノロジーを利用した先端的な方法について比較検討し、それぞれの長所と短所を取り上げるとともに、持続可能な方法について考察する。</p> <p>(5 志和地 弘信／4回) 熱帯のイモ類の増殖、栽培、品種改良、貯蔵技術などに関して、植物生理学、作物学、育種学の視点から教授する。具体的にはこれらの栽培・育種技術に関して、従来の伝統的な方法やバイオテクノロジーを利用した先端的な方法について比較検討し、それぞれの長所と短所を取り上げるとともに、持続可能な生産技術について考察する。また、栽培に微生物工学の応用を検討している最新の試みを紹介する。</p> <p>(8 中西 康博／3回) 熱帯・亜熱帯において生物生産を促進あるいは規制する気象、土壌などの自然環境要因について教授するとともに、とりわけ、作物生産をサポートする近代化的かんがいシステムについて、その建設の適地、方法、規模ならびに利点と留意点等について事例をもとに教授する。</p> <p>(9 本橋 慶一／1回) 作物病害に対する診断および防除を行う上で、病原体の特定を行う必要がある。迅速で適切な防除方法を選択するために必要となる多様な病原体の知識、性質および同定法について理解することを目的とし、的確な診断方法の理論について教授する。作物病害に発生する特有の病徴から病原体を簡易診断する手法や形態的特徴に基づく診断手法について論じ、生産現場から研究レベルでの診断法の違いについても紹介する。</p>	オムニバス方式
		国際農業開発学特論	<p>(概要) 発展途上国の貧困削減、所得向上など諸問題の解決に役立つ、経済学、社会学、経営学の諸理論を総合的に理解することを目的とし、これら3つの分野の基本的理論と教授する。それにより、国際農業開発に関する諸問題を社会科学の視点から総合的に理解し、問題解決のための処方箋を自らの力で考案することができるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回：単位認定者 7 高根 務) (6 杉原 たまえ／5回) 開発社会学のアプローチをもちいて、基礎的理論を踏まえて途上国の農業・農村開発や開発協力のあり方等について教授する。</p> <p>(7 高根 務／5回) 開発経済学の視点から、途上国の経済発展、貧困削減、農業開発等の諸問題と基礎的理論について教授する。</p> <p>(10 山田 隆一／5回) 農業経営学の理論を軸に、基礎的理論を踏まえて途上国の農業経営のありかたや農家経営の改善方法等について教授する。</p>	オムニバス方式

専攻科目	特論科目	熱帯作物学特論	<p>(概要)</p> <p>熱帯地域における作物の生産性の向上を目的に、生産を行う上で生じる様々な課題を解決・解明するために必要な学問領域(栽培学、植物生理学、育種学など)の研究成果や動向について学び、研究や実践に応用できる知識と思考力を身につけることを目的とする。さらに研究テーマに関連する作物について、これまでの研究成果を体系的にレビューしてまとめる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回:単位認定者:5 志和地 弘信) (2 入江 憲治/7回)</p> <p>熱帯地域の作物生産の課題並びにイネ科作物の生産技術・研究開発の動向について教授する。</p> <p>(5 志和地 弘信/8回)</p> <p>熱帯地域の作物生産の課題並びにイモ類の生産技術・研究開発の動向について教授する。また、学術論文のレビュー方法を教授する。</p>	オムニバス方式
		熱帯園芸学特論	<p>園芸作物に関わる栽培、貯蔵、加工、流通、消費などの知識や技術を学び人口・食料問題あるいは環境・健康問題における役割について考察する。とくに従来の伝統的な技術とバイオテクノロジーなどを応用した先端技術を比較検討し、それぞれの利点と欠点について考察するとともに、開発途上国での応用を視野に入れ、環境に配慮した持続可能な方法について、議論を行う。主として野菜、果樹について取り上げるが、必要であれば花卉についても言及する。講義は主として英語で行い、適宜ディスカッションも行う。</p>	
		熱帯作物保護学特論	<p>熱帯亜熱帯地域の農業生産において大きな阻害要因となるのが病害虫の発生である。多様な病原体について、それらの検出および診断法、防除法の開発と現場での選択法を理解すること、環境保全型病害防除技術の現状を理解することを目標とする。また、害虫については、あらゆる適切な技術を相互に矛盾なく害虫個体群を経済的・環境的許容水準以下に持続的におさえる総合的害虫管理について、生態学の研究の最新の知見から理論について習得するとともに、農業生産現場における実践について議論を深める。</p>	
		農業環境科学特論	<p>農業がその生産基盤である土壌や水域ならびに生態系に与えるインパクトの実例を学習するとともに、土壌・植物体や水質を分析するための高度な手法を習得することを通じ、農業が地域や地球全体規模引き起こす環境問題の発生メカニズムを対策について、ならびに環境中の物質・栄養循環研究について、科学的に理解し実践できる能力を習得することを目標とする。</p> <p>特に農業に由来する活性窒素による環境汚染問題のメカニズムと対策について、事例研究成果をもとに学習するとともに、マングローブ生態系の水質浄化機能や海洋生態系への寄与について学ぶことを通じ、生態系保全の重要性を学習する。</p>	

専攻科目	特論科目	農業開発経済学特論	途上国の農業・農村のおかれている現状とそのメカニズムおよび社会・経済構造を正しく認識し、開発と発展を阻害している諸条件や要因を理解するために必要な諸理論を教授する。また、農業・農村開発を進めるためのさまざまな開発戦略・政策の妥当性を、開発経済学の視点から理解できるようにするために、理論だけではなく実際の事例を多く用いた検討をおこなう。 特に途上国の貧困削減に関する諸問題を、リスク、脆弱性、季節性、フードセキュリティ、レジリエンス等の諸概念を使って多角的に教授する。	
		農村開発協力特論	(概要) 農村開発協力において重要なことは地域の固有性（経済的、社会的、文化的固有性）に着目し、その固有性に応じて開発協力の方向性や手法を定めることである。このような点に留意しながら、事例分析を中心として、農村開発協力の課題と方向性について検討を行う。 (オムニバス方式／全15回 単位認定者：10 山田 隆一) (6 杉原 たまえ／7回) 日本国内およびオセアニア等における事例に基づいて、農村開発社会学的視座から農村開発協力について学ぶ。前半は、家族・親族構造や、村落の構造や組織・運営、村落の慣習・規範、地域資源管理と農村振興など、農村構造の基本原則を学ぶ。後半は、農村開発の担い手および農村の生活者としての、高齢者・女性・子ども・障がい者などの特質や、そうした人々の特性を活かしたソーシャルビジネスや農村開発のあり方などについて学ぶ。 (10 山田 隆一／8回) 途上国、とりわけ東南アジア諸国における農業技術開発や農村社会開発の事例に基づいて、技術開発協力や社会開発協力の意義、効果、課題、制約要因などについて学ぶ。農業技術開発に関しては、特にVACシステムなどの循環型複合農業やIPM、SRIなどの持続的農業技術の経営的評価について教授する。また、農村社会開発に関しては、農業協同組合や生産組織などの形成条件について学ぶ。	オムニバス方式

研究 科 目	<p>国際農業開発学特別演習 I</p>	<p>(概要) 国際農業開発学専攻における熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野を理解するとともに、それらの中から選んだ各自の研究テーマについて担当教員の指導を受けて研究計画を作成し、専攻内発表会で報告する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生態学や人類学などをベースとした応用昆虫学の範疇で、環境保全型害虫管理の技法、圃場生態系、指標生物としての節足動物の利用、食用昆虫などについて、自然科学的および社会科学的見地の双方から縦横に論じる。教員の意向やカリキュラムにしばられることなく、受講生本人の問題意識を基盤として、独自の到達目標を設定できるようになることを目標とする。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも作物遺伝資源および育種に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、レビュー論文の作成を指導する。さらに作物遺伝資源の育種利用を図るのに有効なゲノム解析技術、マーカー選抜などの最近の育種技術の研究動向を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも熱帯作物学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文を読解し、取りまとめる能力を養う。植物生理学や栽培学などを考え方の基本とし、研究材料の管理方法の指導や研究現場で実践的な議論を行う。亜熱帯島嶼の宮古島や海外の熱帯・亜熱帯の現場で研究が推進できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 熱帯地域における園芸作物の栽培、流通、加工、利用状況について現状分析と課題の抽出を行い、植物生理学的な視点から、改善案を模索する。とくに熱帯地方における園芸作物の有機栽培、植物工場の利用可能性、収穫後の鮮度保持技術などについて、考察を深め議論を行う。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) 熱帯作物学および作物生理学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文の読解及びとりまとめる科学的な論法を指導する。また、熱帯のイモ類の生産における窒素固定細菌及び植物生育促進細菌 (Plant Growth Promoting Bacteria: PGPB) の利用技術を開発するためのメタゲノム解析の基礎科学並びに作物学と微生物工学の融合の研究動向を指導する。</p> <p>(6 杉原たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 日本およびオセアニア諸国を中心とした、途上国の農村開発協力の理論と開発支援の実態に関する研究資料の検索方法を指導する。また、それぞれの研究課題に応じた先行研究を網羅的に調べ、学術論文講読における批判的思考力と姿勢を育成する。そのうえで、先行研究の整理を通じ、それぞれの研究課題の独自性を明確に捉えられるよう、農村開発社会学や農村社会学の分野から研究動向を指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等について指導する。また、これらと途上国の農業開発問題がどのように関連しているのか、貧困削減につながる農業開発政策とは何かについて、農業開発経済学の視点から指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産基盤の劣化や修復を内容とした土壌学や水環境学ならびに植物生態学に関する内外の研究論文を読解・論評できる能力を向上させるとともに、農業環境問題における安定同位体研究手法を指導する。また、国内研究機関の見学あるいは内外の研究者との議論の機会を設け、関連する科学的な知見や質疑応答能力を習得することも目標とする。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生物生産科学のうち菌類学に係る研究論文を検索し、各学生の研究テーマに関連した論文を読解、取り纏めを行い、各人の研究に反映できる能力を養うことを目標とする。さらに、菌類の分類学的思考、分子系統樹を用いた分子進化に関する研究動向ならびに、それらを活用した検出技術について指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国農村地域の社会経済構造と農業構造の概要を踏まえ、そこにおける家族農業、小農の農家経済、農業経営の形成過程とその特徴について指導する。また、特に持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営管理の意義と限界について、生産管理、労務管理および販売管理の側面から指導する。</p>	
--------------	--------------------------	--	--

研究科目	<p>国際農業開発学特別演習 II</p>	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学専攻における熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野を理解するとともに、それらの中から選んだ各自の研究テーマについて担当教員の指導を受けて研究を進め、その1年目の進捗状況を報告する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生態学や人類学などをベースとした応用昆虫学の範疇で、環境保全型害虫管理の技法、圃場生態系、指標生物としての節足動物の利用、食用昆虫などについて、自然科学的および社会科学的見地の双方から縦横に論じる。教員の意向やカリキュラムにしばられることなく、受講生本人の問題意識を基盤として、独自の到達目標を設定できるようになることを目標とする。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも作物遺伝資源および育種に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、レビュー論文の作成を指導する。さらに作物遺伝資源の育種利用を図るのに有効なゲノム解析技術、マーカー選抜などの最近の育種技術の研究動向を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも熱帯作物学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文を読解し、取りまとめる能力を養う。植物生理学や栽培学などを考え方の基本とし、研究材料の管理方法の指導や研究現場で実践的な議論を行う。亜熱帯島嶼の宮古島や海外の熱帯・亜熱帯の現場で研究が推進できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 熱帯地域における園芸作物の栽培、流通、加工、利用状況について現状分析と課題の抽出を行い、植物生理学的な視点から、改善案を模索する。とくに熱帯地方における園芸作物の有機栽培、植物工場の利用可能性、収穫後の鮮度保持技術などについて、考察を深め議論を行う。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) 熱帯作物学および作物生理学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文の読解及びとりまとめる科学的な論法を指導する。また、熱帯のイモ類の生産における窒素固定細菌及び植物生育促進細菌 (Plant Growth Promoting Bacteria: PGPB) の利用技術を開発するためのメタゲノム解析の基礎科学並びに作物学と微生物工学の融合の研究動向を指導する。</p> <p>(6 杉原たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 日本およびオセアニア諸国を中心とした、途上国の農村開発協力の理論と開発支援の実態に関する研究資料の検索方法を指導する。また、それぞれの研究課題に応じた先行研究を網羅的に調べ、学術論文講読における批判的思考力と姿勢を育成する。そのうえで、先行研究の整理を通じ、それぞれの研究課題の独自性を明確に捉えられるよう、農村開発社会学や農村社会学の分野から研究動向を指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等について指導する。また、これらと途上国の農業開発問題がどのように関連しているのか、貧困削減につながる農業開発政策とは何かについて、農業開発経済学の視点から指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産基盤の劣化や修復を内容とした土壌学や水環境学ならびに植物生態学に関する内外の研究論文を読解・論評できる能力を向上させるとともに、農業環境問題における安定同位体研究手法を指導する。また、国内研究機関の見学あるいは内外の研究者との議論の機会を設け、関連する科学的な知見や質疑応答能力を習得することも目標とする。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生物生産科学のうち菌類学に係る研究論文を検索し、各学生の研究テーマに関連した論文を読解、取り纏めを行い、各人の研究に反映できる能力を養うことを目標とする。さらに、菌類の分類学的思考、分子系統樹を用いた分子進化に関する研究動向ならびに、それらに応用した検出技術について指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国農村地域の社会経済構造と農業構造の概要を踏まえ、そこにおける家族農業、小農の農家経済、農業経営の形成過程とその特徴について指導する。また、特に持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営管理の意義と限界について、生産管理、労務管理および販売管理の側面から指導する。</p>
------	-----------------------	--

<p>研究科目</p>	<p>国際農業開発学特別演習 III</p>	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学専攻における熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野を理解するとともに、それらの中から選んだ各自の研究テーマについて担当教員の指導を受けて研究を進め、その中間成果を専攻内発表会で報告する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生態学や人類学などをベースとした応用昆虫学の範疇で、環境保全型害虫管理の技法、圃場生態系、指標生物としての節足動物の利用、食用昆虫などについて、自然科学的および社会科学的見地の双方から縦横に論じる。教員の意向やカリキュラムにしばられることなく、受講生本人の問題意識を基盤として、独自の到達目標を設定できるようになることを目標とする。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも作物遺伝資源および育種に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、レビュー論文の作成を指導する。さらに作物遺伝資源の育種利用を図るのに有効なゲノム解析技術、マーカー選抜などの最近の育種技術の研究動向を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも熱帯作物学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文を読解し、取りまとめる能力を養う。植物生理学や栽培学などを考え方の基本とし、研究材料の管理方法の指導や研究現場で実践的な議論を行う。亜熱帯島嶼の宮古島や海外の熱帯・亜熱帯の現場で研究が推進できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 熱帯地域における園芸作物の栽培、流通、加工、利用状況について現状分析と課題の抽出を行い、植物生理学的な視点から、改善案を模索する。とくに熱帯地方における園芸作物の有機栽培、植物工場の利用可能性、収穫後の鮮度保持技術などについて、考察を深め議論を行う。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) 熱帯作物学および作物生理学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文の読解及びとりまとめる科学的論法を指導する。また、熱帯のイモ類の生産における窒素固定細菌及び植物生育促進細菌 (Plant Growth Promoting Bacteria: PGPB) の利用技術を開発するためのメタゲノム解析の基礎科学並びに作物学と微生物工学の融合の研究動向を指導する。</p> <p>(6 杉原たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 日本およびオセアニア諸国を中心とした、途上国の農村開発協力の理論と開発支援の実態に関する研究資料の検索方法を指導する。また、それぞれの研究課題に応じた先行研究を網羅的に調べ、学術論文講読における批判的思考力と姿勢を育成する。そのうえで、先行研究の整理を通じ、それぞれの研究課題の独自性を明確に捉えられるよう、農村開発社会学や農村社会学の分野から研究動向を指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等について指導する。また、これらと途上国の農業開発問題がどのように関連しているのか、貧困削減につながる農業開発政策とは何かについて、農業開発経済学の視点から指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産基盤の劣化や修復を内容とした土壌学や水環境学ならびに植物生態学に関する内外の研究論文を読解・論評できる能力を向上させるとともに、農業環境問題における安定同位体研究手法を指導する。また、国内研究機関の見学あるいは内外の研究者との議論の機会を設け、関連する科学的な知見や質疑応答能力を習得することも目標とする。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生物生産科学のうち菌類学に係る研究論文を検索し、各学生の研究テーマに関連した論文を読解、取り纏めを行い、各人の研究に反映できる能力を養うことを目標とする。さらに、菌類の分類学的思考、分子系統樹を用いた分子進化に関する研究動向ならびに、それらに応用した検出技術について指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国農村地域の社会経済構造と農業構造の概要を踏まえ、そこにおける家族農業、小農の農家経済、農業経営の形成過程とその特徴について指導する。また、特に持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営管理の意義と限界について、生産管理、労務管理および販売管理の側面から指導する。</p>
-------------	------------------------	--

研究 科 目	<p>国際農業開発学特別演習 IV</p>	<p>(概要) 国際農業開発学専攻における熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野を理解するとともに、それらの中から選んだ各自の研究テーマについて担当教員の指導を受けて、その成果を専攻内発表会で報告するとともに、修士論文として取りまとめることにより、高度な専門性を有するスペシャリストとしての能力を養わせる。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生態学や人類学などをベースとした応用昆虫学の範疇で、環境保全型害虫管理の技法、圃場生態系、指標生物としての節足動物の利用、食用昆虫などについて、自然科学的および社会科学的見地の双方から縦横に論じる。教員の意向やカリキュラムにしばられることなく、受講生本人の問題意識を基盤として、独自の到達目標を設定できるようになることを目標とする。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも作物遺伝資源および育種に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、レビュー論文の作成を指導する。さらに作物遺伝資源の育種利用を図るのに有効なゲノム解析技術、マーカー選抜などの最近の育種技術の研究動向を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) 生物生産科学の中でも熱帯作物学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文を読解し、取りまとめる能力を養う。植物生理学や栽培学などを考え方の基本とし、研究材料の管理方法の指導や研究現場で実践的な議論を行う。亜熱帯島嶼の宮古島や海外の熱帯・亜熱帯の現場で研究が推進できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 熱帯地域における園芸作物の栽培、流通、加工、利用状況について現状分析と課題の抽出を行い、植物生理学的な視点から、改善案を模索する。とくに熱帯地方における園芸作物の有機栽培、植物工場の利用可能性、収穫後の鮮度保持技術などについて、考察を深め議論を行う。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) 熱帯作物学および作物生理学に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連する論文の読解及びとりまとめる科学的な論法を指導する。また、熱帯のイモ類の生産における窒素固定細菌及び植物生育促進細菌 (Plant Growth Promoting Bacteria: PGPB) の利用技術を開発するためのメタゲノム解析の基礎科学並びに作物学と微生物工学の融合の研究動向を指導する。</p> <p>(6 杉原たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 日本およびオセアニア諸国を中心とした、途上国の農村開発協力の理論と開発支援の実態に関する研究資料の検索方法を指導する。また、それぞれの研究課題に応じた先行研究を網羅的に調べ、学術論文講読における批判的思考力と姿勢を育成する。そのうえで、先行研究の整理を通じ、それぞれの研究課題の独自性を明確に捉えられるよう、農村開発社会学や農村社会学の分野から研究動向を指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等について指導する。また、これらと途上国の農業開発問題がどのように関連しているのか、貧困削減につながる農業開発政策とは何かについて、農業開発経済学の視点から指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産基盤の劣化や修復を内容とした土壌学や水環境学ならびに植物生態学に関する内外の研究論文を読解・論評できる能力を向上させるとともに、農業環境問題における安定同位体研究手法を指導する。また、国内研究機関の見学あるいは内外の研究者との議論の機会を設け、関連する科学的な知見や質疑応答能力を習得することも目標とする。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 生物生産科学のうち菌類学に係る研究論文を検索し、各学生の研究テーマに関連した論文を読解、取り纏めを行い、各人の研究に反映できる能力を養うことを目標とする。さらに、菌類の分類学的思考、分子系統樹を用いた分子進化に関する研究動向ならびに、それらを応用した検出技術について指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国農村地域の社会経済構造と農業構造の概要を踏まえ、そこにおける家族農業、小農の農家経済、農業経営の形成過程とその特徴について指導する。また、特に持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営管理の意義と限界について、生産管理、労務管理および販売管理の側面から指導する。</p>
--------------	---------------------------	---

研究 科 目	国際農業開発学特別実 験・実習 I	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学特別演習と並行して、熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画段階について指導する。各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 本特論実験では、作物保護学および応用昆虫学にかかわる各自の研究テーマにもとづいて必要な実験を立案・遂行し、えられた結果について適切な方法により解析をおこない、論文としてとりまとめること目標に指導する。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 作物遺伝資源の特性解明に関わる分析・評価法を指導し、遺伝的多様性の評価手法を指導する。さらに作物改良の為に有用農業形質を活用した育種素材の開発方法を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の品種特性、施肥反応、窒素固定と農作物の収量や品質向上との関連やマンゴーなどの果樹や木本性作物の生理・生態的特性を明らかにするために必要な科学的解析手法を実際の栽培地での試験・調査を通じて指導する。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 園芸作物の栄養素、機能性成分、色、香り、固さなどに関する測定法を学び、植物ホルモンや呼吸、光合成などの生理機能を計測する手法を指導する。得られたデータの解析については、平均値の比較や多変量解析について指導する。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の養分吸収、養分移動、窒素固定などの生理機構と農作物の収量、品質向上との関連を明らかにするために必要な科学的解析手法を指導する。特に、イモ類と窒素固定細菌との共生関係を明らかにする実験系を構築する方法について指導する。</p> <p>(6 杉原 たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 国内外での農村開発協力に求められる、研究分析手法および開発支援の実態について指導する。具体的には、農村開発協力のための、家族・親族構造分析、農村の社会構造分析、慣習の社会的特質分析および、農業・農村生活の担い手(女性・高齢者・障害者・病者など)問題などに関する分析方法である。また、開発支援の実態については、とりわけオセアニアで遂行されている農村開発支援の課題と評価について指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の貧困問題の実態解明に必要な調査の方法とデータの分析方法を教授する。特に、農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等に重点を置いた分析方法について指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産環境に対しプラスならびにマイナスになる自然および人為の影響について評価・研究する手法を、とくに土壌、植物体、水(河川水、地下水等)に関する現地調査と分析・解析方法について指導することを通じ指導する。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 植物寄生性菌類に関する基礎的な技術指導とともに、診断、同定に関する研究手法を指導する。さらに分子生物学的な手法を用いた実験の解析手法についても指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国の家族農業、小農の農家経済の実態把握に必要な調査方法と分析方法を指導する。特に、持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営、農業経営管理の中の生産管理、労務管理、販売管理などの把握を行うための分析方法を指導する。</p>	
--------------	----------------------	---	--

研究科目	<p>国際農業開発学特別実験・実習Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学特別演習と並行して、熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の1年目の進捗段階について指導する。各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 本特論実験では、作物保護学および応用昆虫学にかかわる各自の研究テーマにもとづいて必要な実験を立案・遂行し、えられた結果について適切な方法により解析をおこない、論文としてとりまとめること目標に指導する。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 作物遺伝資源の特性解明に関わる分析・評価法を指導し、遺伝的多様性の評価手法を指導する。さらに作物改良の為に有用農業形質を活用した育種素材の開発方法を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の品種特性、施肥反応、窒素固定と農作物の収量や品質向上との関連やマンゴーなどの果樹や木本性作物の生理・生態的特性を明らかにするために必要な科学的解析手法を実際の栽培地での試験・調査を通じて指導する。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 園芸作物の栄養素、機能性成分、色、香り、固さなどに関する測定法を学び、植物ホルモンや呼吸、光合成などの生理機能を計測する手法を指導する。得られたデータの解析については、平均値の比較や多変量解析について指導する。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の養分吸収、養分移動、窒素固定などの生理機構と農作物の収量、品質向上との関連を明らかにするために必要な科学的解析手法を指導する。特に、イモ類と窒素固定細菌との共生関係を明らかにする実験系を構築する方法について指導する。</p> <p>(6 杉原 たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 国内外での農村開発協力に求められる、研究分析手法および開発支援の実態について指導する。具体的には、農村開発協力のための、家族・親族構造分析、農村の社会構造分析、慣習の社会的特質分析および、農業・農村生活の担い手(女性・高齢者・障害者・病者など)問題などに関する分析方法である。また、開発支援の実態については、とりわけオセアニアで遂行されている農村開発支援の課題と評価について指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の貧困問題の実態解明に必要な調査の方法とデータの分析方法を教授する。特に、農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等に重点を置いた分析方法について指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産環境に対しプラスならびにマイナスになる自然および人為の影響について評価・研究する手法を、とくに土壌、植物体、水(河川水、地下水等)に関する現地調査と分析・解析方法について指導することを通じ指導する。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 植物寄生性菌類に関する基礎的な技術指導とともに、診断、同定に関する研究手法を指導する。さらに分子生物学的な手法を用いた実験の解析手法についても指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国の家族農業、小農の農家経済の実態把握に必要な調査方法と分析方法を指導する。特に、持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営、農業経営管理の中の生産管理、労務管理、販売管理などの把握を行うための分析方法を指導する。</p>	
------	------------------------	---	--

研究科目	<p>国際農業開発学特別実験・実習Ⅲ</p>	<p>(概要) 国際農業開発学特別演習と並行して、熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の中間段階について指導する。各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 本特論実験では、作物保護学および応用昆虫学にかかわる各自の研究テーマにもとづいて必要な実験を立案・遂行し、えられた結果について適切な方法により解析をおこない、論文としてとりまとめること目標に指導する。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 作物遺伝資源の特性解明に関わる分析・評価法を指導し、遺伝的多様性の評価手法を指導する。さらに作物改良の為に有用農業形質を活用した育種素材の開発方法を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の品種特性、施肥反応、窒素固定と農作物の収量や品質向上との関連やマンゴーなどの果樹や木本性作物の生理・生態的特性を明らかにするために必要な科学的解析手法を実際の栽培地での試験・調査を通じて指導する。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 園芸作物の栄養素、機能性成分、色、香り、固さなどに関する測定法を学び、植物ホルモンや呼吸、光合成などの生理機能を計測する手法を指導する。得られたデータの解析については、平均値の比較や多変量解析について指導する。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の養分吸収、養分移動、窒素固定などの生理機構と農作物の収量、品質向上との関連を明らかにするために必要な科学的解析手法を指導する。特に、イモ類と窒素固定細菌との共生関係を明らかにする実験系を構築する方法について指導する。</p> <p>(6 杉原 たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 国内外での農村開発協力求められる、研究分析手法および開発支援の実態について指導する。具体的には、農村開発協力のための、家族・親族構造分析、農村の社会構造分析、慣習の社会的特質分析および、農業・農村生活の担い手(女性・高齢者・障害者・病者など)問題などに関する分析方法である。また、開発支援の実態については、とりわけオセアニアで遂行されている農村開発支援の課題と評価について指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の貧困問題の実態解明に必要な調査の方法とデータの分析方法を指導する。特に、農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等に重点を置いた分析方法について指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産環境に対しプラスならびにマイナスになる自然および人為の影響について評価・研究する手法を、とくに土壌、植物体、水(河川水、地下水等)に関する現地調査と分析・解析方法について指導することを通じ指導する。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 植物寄生性菌類に関する基礎的な技術指導とともに、診断、同定に関する研究手法を指導する。さらに分子生物学的な手法を用いた実験の解析手法についても指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国の家族農業、小農の農家経済の実態把握に必要な調査方法と分析方法を指導する。特に、持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営、農業経営管理の中の生産管理、労務管理、販売管理などの把握を行うための分析方法を指導する。</p>	
------	------------------------	--	--

研究科目	国際農業開発学特別実験・実習Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学特別演習と並行して、熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野の教員が、修士論文の最終とりまとめについて指導する。各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 本特論実験では、作物保護学および応用昆虫学にかかわる各自の研究テーマにもとづいて必要な実験を立案・遂行し、えられた結果について適切な方法により解析をおこない、論文としてとりまとめること目標に指導する。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 作物遺伝資源の特性解明に関わる分析・評価法を指導し、遺伝的多様性の評価手法を指導する。さらに作物改良の為に有用な農業形質を活用した育種素材の開発方法を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の品種特性、施肥反応、窒素固定と農作物の収量や品質向上との関連やマンゴーなどの果樹や木本性作物の生理・生態的特性を明らかにするために必要な科学的解析手法を実際の栽培地での試験・調査を通じて指導する。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 園芸作物の栄養素、機能性成分、色、香り、固さなどに関する測定法を学び、植物ホルモンや呼吸、光合成などの生理機能を計測する手法を指導する。得られたデータの解析については、平均値の比較や多変量解析について指導する。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の養分吸収、養分移動、窒素固定などの生理機構と農作物の収量、品質向上との関連を明らかにするために必要な科学的解析手法を指導する。特に、イモ類と窒素固定細菌との共生関係を明らかにする実験系を構築する方法について指導する。</p> <p>(6 杉原 たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 国内外での農村開発協力に求められる、研究分析手法および開発支援の実態について指導する。具体的には、農村開発協力のための、家族・親族構造分析、農村の社会構造分析、慣習の社会的特質分析および、農業・農村生活の担い手(女性・高齢者・障害者・病者など)問題などに関する分析方法である。また、開発支援の実態については、とりわけオセアニアで遂行されている農村開発支援の課題と評価について指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (農業開発経済学) 途上国の貧困問題の実態解明に必要な調査の方法とデータの分析方法を教授する。特に、農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等に重点を置いた分析方法について指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (農業環境科学) 食料生産環境に対しプラスならびにマイナスになる自然および人為の影響について評価・研究する手法を、とくに土壌、植物体、水(河川水、地下水等)に関する現地調査と分析・解析方法について指導することを通じ指導する。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 植物寄生性菌類に関する基礎的な技術指導とともに、診断、同定に関する研究手法を指導する。さらに分子生物学的な手法を用いた実験の解析手法についても指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国の家族農業、小農の農家経済の実態把握に必要な調査方法と分析方法を指導する。特に、持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営、農業経営管理の中の生産管理、労務管理、販売管理などの把握を行うための分析方法を指導する。</p>	
------	-----------------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要				
(国際食料農業科学研究科 農業経済学専攻 博士前期課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
国際食料農業科学研究科共通科目	研究倫理特講	<p>研究を行い、さらに学術論文、学会発表をする上で、研究倫理性を理解することは非常に重要である、本講義では、eラーニング教材による学修と並行して研究を行う上で必要な倫理観を涵養する。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて、研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止(発注・人件費・旅費・謝金)について学修する。</p> <p>また、研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>		
	知的財産管理法	<p>農業・農学の事例を元に知財を学び、知財を創造し経営戦略的視点で活用するケーススタディの学修を通じて、グローバル化や食糧問題等で生じる農業の諸課題を解決する力を養う。</p> <p>具体的には、まずガイダンスを行った上で、現代農業と知財について講義し、続いて、農業分野での商品開発とその販売戦略、知的財産から見る農業の歴史と将来、農業技術の創造・保護・活用について学ぶ。さらに、品種登録制度、農業に関する知財係争の実際、農業のグローバル化と知的財産に関連するその他の法制度といった実務的知識について学ぶ。最後に、以上を踏まえて6次産業化(販売戦略等)企業の経営(大規模)、農機具開発(関連産業)に係わるケーススタディについて学ぶ。</p>		
	農学教育史特講	<p>日本の農学教育の歴史について、西洋の分析科学の導入を切り口とし文献史料を検討し、近代農学がどのように発達したのかを考える。具体的には、駒場農学校から帝国大学農科大学を中心に和文(古文書を含む)、英文、独文の文献史料を読む。本授業では、受講者が関連事項を調べることを通して、日本の農学教育史ならびに東京農業大学史の基礎知識を身につけること、文献や史料の探し方を学ぶことを目的とする。</p>		
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就業体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料・農業・環境の実際の職場において就業体験を積むことにより、現場の問題解決に取り組む専門的能力の発揮など自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>		
専攻科目	基礎科目	論文作成法	<p>社会科学、特に経済学をベースとした研究領域での研究成果を学術論文として纏め上げるために必要な技法を教授する。具体的には、「学術論文」と「評論」との違い、社会科学の領域における基本的な研究方法、学術論文の基本的な全体構成、学術論文を作成する際に必要とされる的確な日本語表記法、知っておかなければならない基本的な文献表記法、等々について教授する。到達目標は、自らの力で論文を作成できる技術を修得することである。</p>	
		プレゼンテーション法	<p>本講義では、学会における学術研究報告の方法として、ポスターセッションおよび個別報告の方法について実践的にトレーニングする。到達目標は、学会などでプレゼンテーションできる技術と自信を身につけることである。授業の達成目標及びテーマとしては、研究成果を正確に、かつ、効果的に伝える方法について学修することである。</p>	
		農業法 I	<p>農業・農産物に関する主要な制度について、関連法制度の制定の目的、内容の変遷、評価と直面する課題等についての理解を国民経済全体のコンテキストのなかに位置づけて理解するとともに、与えられた文献資料に基づく受け身の学修ではなく、学生による報告と質疑応答・議論を通じて調査・分析と報告作成・発表の方法を学ぶ。これらにより修士課程において自ら選択した専門分野についての研究を深めてゆくための基本的知識を身につけるとともに、研究成果を発表するための基本的なノウハウを体得することを到達目標とする。農業法 I においては、農業法のうち最も基本的な農業基本法と食料・農業・農村基本法をまずとりあげ、日本の農業政策の基本的特徴と考え方を見たうえで、農業の基本的生産手段である農地、ついで農業生産者の組織化と経営の安定に関する法制度をとりあげる。</p>	

専攻科目	基礎科目	農業法Ⅱ	農業・農産物に関する主要な制度について、関連法制度の制定の目的、内容の変遷、評価と直面する課題等についての理解を国民経済全体のコンテキストのなかに位置づけて理解するとともに、与えられた文献資料に基づく受け身の学修ではなく、学生による報告と質疑応答・議論を通じて調査・分析と報告作成・発表の方法を学ぶ。これらにより修士課程において自ら選択した専門分野についての研究を深めてゆくための基本的知識を身につけるとともに、研究成果を発表するための基本的なノウハウを体得することを到達目標とする。農業法Ⅱにおいては、まず我が国の農産物のうち最も重要視される米についての法制度をとりあげたうえで、農産物と食品全般に関する安全性と品質・表示に関する法制度、さらにはこれらの国際貿易に関する国際経済法制度をとりあげる。		
		農業経済学特論Ⅰ	農業経済学分野の研究に必要な、農業経済学、ミクロ経済学、農村・環境社会学、農業貿易論の専門知識や諸理論を幅広く学修する。講義は基本的な学術書または学術論文を教材として、受講者がその教材の内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答とポイント部分に関する講義という双方向の形式で進める。そして、受講生が幅広い知識を身につけるとともに、論理的に議論を構築することができるようになることを目標とする。		
		農業経済学特論Ⅱ	農業経済学分野の研究に必要な、農業経済学、ミクロ経済学、農村・環境社会学、農業貿易論の専門知識や諸理論を幅広く学修する。講義は基本的な学術書または学術論文を教材として、受講者がその教材の内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答とポイント部分に関する講義という双方向の形式で進める。 農業経済学特論Ⅰの学修を踏まえて、学修成果の研究への応用や農業分野の現場における問題認識や問題解決への応用について理解できるようにすることを目標とする。		
		農政学特論Ⅰ	農政学分野の研究に必要な農業経済学、農業経営学、環境経済学、農業の担い手論の専門知識や諸理論を幅広く学修する。講義は基本的な学術書または学術論文を教材として、受講者がその教材の内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答とポイント部分に関する講義という双方向の形式で進める。そして、受講生が幅広い知識を身につけるとともに、論理的に議論を構築することができるようになることを目標とする。		
		農政学特論Ⅱ	農政学分野の研究に必要な農業経済学、農業経営学、環境経済学、農業の担い手論の専門知識や諸理論を幅広く学修する。講義は基本的な学術書または学術論文を教材として、受講者がその教材の内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答とポイント部分に関する講義という双方向の形式で進める。 農政学特論Ⅰの学修を踏まえて、学修成果の研究への応用や農政分野の現場における問題認識や問題解決への応用について理解できるようにすることを目標とする。		
		食料経済学特論Ⅰ	食料経済学分野の研究に必要な食料経済学、農業経済学、経済地理学、マーケティング論、消費者行動論、フードシステム論の専門知識や諸理論を幅広く学修する。講義は基本的な学術書または学術論文を教材として、受講者がその教材の内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答とポイント部分に関する講義という双方向の形式で進める。そして、受講生が幅広い知識を身につけるとともに、論理的に議論を構築することができるようになることを目標とする。		
		食料経済学特論Ⅱ	食料経済学分野の研究に必要な食料経済学、農業経済学、経済地理学、マーケティング論、消費者行動論、フードシステム論の専門知識や諸理論を幅広く学修する。講義は基本的な学術書または学術論文を教材として、受講者がその教材の内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答とポイント部分に関する講義という双方向の形式で進める。 食料経済学特論Ⅰの学修を踏まえて、学修成果の研究への応用や食料分野の現場における問題認識や問題解決への応用について理解できるようにすることを目標とする。		
		特論科目			

研究 科 目	農業経済学特論演習 I	<p>(概要)</p> <p>本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士前期課程の大学院生を対象に、研究成果の発表を行い、幅広い視点から研究方法、分析手法などを確認・修得する演習である。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法を修得することも行う。農業経済学特論演習 I～IVは、4段階で上記の能力を高めることとする。農業経済学特論演習 Iは、1年次前期に履修する。到達目標は、研究テーマを設定するために必要となる文献や情報の収集、既存研究のレビューを行うことである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 大浦 裕二 (指導教員)) (食品マーケティング論) 企業間や産地間の競争が激化する中で、各食品産業及び産地が行うマーケティング活動の重要性が高まっている。このような社会情勢を踏まえて、本演習では、主に食品マーケティングと消費者行動との関連性について指導する。</p> <p>(2 金田 憲和 (指導教員)) (貿易論・計量経済学) ミクロ経済学・マクロ経済学を分析のベースとしながら、食料・農業・環境に関わる領域の諸問題に関する研究指導を行う。なかでも特に、食料品等の貿易など国際経済学の領域を重点的に指導する。また研究上の方法論としては、統計解析を経済学に応用した計量経済学の分析手法や産業連関分析などの方法に基づき、これらを利用した研究が行えるよう指導を行う。</p> <p>(3 菅沼 圭輔 (指導教員)) (開発経済学) 主として海外におけるフィールドワークに基づく学術論文の作成において、先行研究の整理と課題の設定の関係、課題の設定と結論部分の関係、結論を導く実証過程の整合性をポイントとして指導を行う。</p> <p>(4 高柳 長直 (指導教員)) (経済地理学) 経済学的・地理学的観点から、主として食料問題に関する研究テーマに関する指導を行う。とくに、研究上のオリジナリティ、首尾一貫した議論、矛盾なき論理の構築といった点を中心に、受講生が社会科学的な研究をまとめられるようにする。</p> <p>(5 田中 裕人 (指導教員)) (環境経済学) 農業・農村においては、国土保全機能等の多面的機能が発揮されている。この多面的機能には大きな価値が認められている。本演習では、環境経済学を用いて外部経済効果の評価等の分析を行うことができるよう指導を行う。</p> <p>(6 寺内 光宏 (指導教員)) (農業経済学) 農業、食料及び資源・環境領域における諸問題に関する学術研究の遂行に際し、既存の研究成果の検討、課題設定の有効性の確認、ミクロ経済学及びマクロ経済学に依拠し、計量経済学的視点を重視した研究方法の下、各種統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等に基づく数値データの数量的処理方法を援用した設定課題への接近を行い、一連の分析の後、分析結果から得られた知見の整理に際し、論理的な整合性を重視した結論が導出できる能力が修得可能な指導を行う。</p> <p>(7 堀田 和彦 (指導教員)) (食料経済学) 食料の生産、流通、消費等フードシステム全体の流れの中で、院生が取り組んでいる研究の目的、研究手法、問題点などが的確なものであり、論文として完成させる場合の課題、問題点がどこにあるか指導をおこなう。</p> <p>(8 吉野 馨子 (指導教員)) (生活農業論) 国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。方法論としてはフィールドワークの研究手法を採り、先行研究の整理と課題の設定、調査地の選定、現地調査の計画と実施、データ分析の方法等、質の高い学術研究遂行のための一連のプロセスについて指導する。</p>	
--------------	-------------	---	--

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>		<p>(9 佐藤 みずほ (指導補助教員)) (国際フードシステム論) 経済のグローバル化によって、農産物の生産・加工・流通・消費を通じた食料供給の一連の流れを把握するフードシステムも国際化している。特に、このような国際化の中で、問題が顕在化されている食品ロスを対象とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(11 野口 敬夫 (指導補助教員)) (農業貿易論) 農業貿易の自由化によって変化する国際的なフードチェーンの全体構造や、その形成に影響を及ぼす産業構造、企業間構造・企業行動などについて指導を行う。関連する文献資料、統計資料に加えて、フィールド調査をベースとする定性分析の手法を理解し、学術論文の作成方法を学ぶことを目標とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(12 堀部 篤 (指導補助教員)) (農業政策論) 農業政策の分析および評価。特に、1)集落を対象とした支援制度や外部人材を活用した農村地域政策、2)新規就農支援や認定農業者などの担い手育成政策、3)農地集積に関わる法制度や支援組織などの農地政策、を対象とする。分析は、法制度論、統計分析、事例分析を組み合わせ、総合的な評価手法を身につける。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p>	
--	--	--	--

研究科目	農業経済学特論演習Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士前期課程の大学院生を対象に、研究成果の発表を行い、幅広い視点から研究方法、分析手法などを確認・修得する演習である。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法を修得することも行う。農業経済学特論演習Ⅰ～Ⅳは、4段階で上記の能力を高めることとする。農業経済学特論演習Ⅱは、1年次後期に履修する。到達目標は、多様な手法、視点等にとった実践的な研究の進め方を身につけることである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 大浦 裕二 (指導教員)) (食品マーケティング論) 企業間や産地間の競争が激化する中で、各食品産業及び産地が行うマーケティング活動の重要性が高まっている。このような社会情勢を踏まえて、本演習では、主に食品マーケティングと消費者行動との関連性について指導する。</p> <p>(2 金田 憲和 (指導教員)) (貿易論・計量経済学) ミクロ経済学・マクロ経済学を分析のベースとしながら、食料・農業・環境に関わる領域の諸問題に関する研究指導を行う。なかでも特に、食料品等の貿易など国際経済学の領域を重点的に指導する。また研究上の方法論としては、統計解析を経済学に応用した計量経済学の分析手法や産業連関分析などの方法に基づき、これらを利用した研究が行えるよう指導を行う。</p> <p>(3 菅沼 圭輔 (指導教員)) (開発経済学) 主として海外におけるフィールドワークに基づく学術論文の作成において、先行研究の整理と課題の設定の関係、課題の設定と結論部分の関係、結論を導く実証過程の整合性をポイントとして指導を行う。</p> <p>(4 高柳 長直 (指導教員)) (経済地理学) 経済学的・地理学的観点から、主として食料問題に関する研究テーマに関する指導を行う。とくに、研究上のオリジナリティ、首尾一貫した議論、矛盾なき論理の構築といった点を中心に、受講生が社会科学的な研究をまとめられるようにする。</p> <p>(5 田中 裕人 (指導教員)) (環境経済学) 農業・農村においては、国土保全機能等の多面的機能が発揮されている。この多面的機能には大きな価値が認められている。本演習では、環境経済学を用いて外部経済効果の評価等の分析を行うことができるように指導を行う。</p> <p>(6 寺内 光宏 (指導教員)) (農業経済学) 農業、食料及び資源・環境領域における諸問題に関する学術研究の遂行に際し、既存の研究成果の検討、課題設定の有効性の確認、ミクロ経済学及びマクロ経済学に依拠し、計量経済学的視点を重視した研究方法の下、各種統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等に基づく数値データの数量的処理方法を援用した設定課題への接近を行い、一連の分析の後、分析結果から得られた知見の整理に際し、論理的な整合性を重視した結論が導出できる能力が修得可能な指導を行う。</p> <p>(7 堀田 和彦 (指導教員)) (食料経済学) 食料の生産、流通、消費等フードシステム全体の流れの中で、院生が取り組んでいる研究の目的、研究手法、問題点などが的確なものであり、論文として完成させる場合の課題、問題点がどこにあるか指導をおこなう。</p> <p>(8 吉野 馨子 (指導教員)) (生活農業論) 国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。方法論としてはフィールドワークの研究手法を採り、先行研究の整理と課題の設定、調査地の選定、現地調査の計画と実施、データ分析の方法等、質の高い学術研究遂行のための一連のプロセスについて指導する。</p>	
------	------------	---	--

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>		<p>(9 佐藤 みずほ (指導補助教員)) (国際フードシステム論) 経済のグローバル化によって、農産物の生産・加工・流通・消費を通じた食料供給の一連の流れを把握するフードシステムも国際化している。特に、このような国際化の中で、問題が顕在化されている食品ロスを対象とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(11 野口 敬夫 (指導補助教員)) (農業貿易論) 農業貿易の自由化によって変化する国際的なフードチェーンの全体構造や、その形成に影響を及ぼす産業構造、企業間構造・企業行動などについて指導を行う。関連する文献資料、統計資料に加えて、フィールド調査をベースとする定性分析の手法を理解し、学術論文の作成方法を学ぶことを目標とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(12 堀部 篤 (指導補助教員)) (農業政策論) 農業政策の分析および評価。特に、1)集落を対象とした支援制度や外部人材を活用した農村地域政策、2)新規就農支援や認定農業者などの担い手育成政策、3)農地集積に関わる法制度や支援組織などの農地政策、を対象とする。分析は、法制度論、統計分析、事例分析を組み合わせ、総合的な評価手法を身につける。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p>	
--	--	---	--

研究科目	<p>農業経済学特論演習Ⅲ</p>	<p>(概要)</p> <p>本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士前期課程の大学院生を対象に、研究成果の発表を行い、幅広い視点から研究方法、分析手法などを確認・修得する演習である。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法を修得することも行う。農業経済学特論演習Ⅰ～Ⅳは、4段階で上記の能力を高めることとする。農業経済学特論演習Ⅲは、2年次前期に履修する。到達目標は、分析手法の確立及び調査の実施である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 大浦 裕二(指導教員)) (食品マーケティング論) 企業間や産地間の競争が激化する中で、各食品産業及び産地が行うマーケティング活動の重要性が高まっている。このような社会情勢を踏まえて、本演習では、主に食品マーケティングと消費者行動との関連性について指導する。</p> <p>(2 金田 憲和(指導教員)) (貿易論・計量経済学) ミクロ経済学・マクロ経済学を分析のベースとしながら、食料・農業・環境に関わる領域の諸問題に関する研究指導を行う。なかでも特に、食料品等の貿易など国際経済学の領域を重点的に指導する。また研究上の方法論としては、統計解析を経済学に応用した計量経済学の分析手法や産業連関分析などの方法に基づき、これらを利用した研究が行えるよう指導を行う。</p> <p>(3 菅沼 圭輔(指導教員)) (開発経済学) 主として海外におけるフィールドワークに基づく学術論文の作成において、先行研究の整理と課題の設定の関係、課題の設定と結論部分の関係、結論を導く実証過程の整合性をポイントとして指導を行う。</p> <p>(4 高柳 長直(指導教員)) (経済地理学) 経済学的・地理学的観点から、主として食料問題に関する研究テーマに関する指導を行う。とくに、研究上のオリジナリティ、首尾一貫した議論、矛盾なき論理の構築といった点を中心に、受講生が社会科学的研究をまとめられるようにする。</p> <p>(5 田中 裕人(指導教員)) (環境経済学) 農業・農村においては、国土保全機能等の多面的機能が発揮されている。この多面的機能には大きな価値が認められている。本演習では、環境経済学を用いて外部経済効果の評価等の分析を行うことができるように指導を行う。</p> <p>(6 寺内 光宏(指導教員)) (農業経済学) 農業、食料及び資源・環境領域における諸問題に関する学術研究の遂行に際し、既存の研究成果の検討、課題設定の有効性の確認、ミクロ経済学及びマクロ経済学に依拠し、計量経済学的視点を重視した研究方法の下、各種統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等に基づく数値データの数量的処理方法を援用した設定課題への接近を行い、一連の分析の後、分析結果から得られた知見の整理に際し、論理的な整合性を重視した結論が導出できる能力が修得可能な指導を行う。</p> <p>(7 堀田 和彦(指導教員)) (食料経済学) 食料の生産、流通、消費等フードシステム全体の流れの中で、院生が取り組んでいる研究の目的、研究手法、問題点などが的確なものであり、論文として完成させる場合の課題、問題点がどこにあるか指導をおこなう。</p> <p>(8 吉野 馨子(指導教員)) (生活農業論) 国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。方法論としてはフィールドワークの研究手法を採り、先行研究の整理と課題の設定、調査地の選定、現地調査の計画と実施、データ分析の方法等、質の高い学術研究遂行のための一連のプロセスについて指導する。</p>
------	-------------------	---

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>		<p>(9 佐藤 みずほ (指導補助教員)) (国際フードシステム論) 経済のグローバル化によって、農産物の生産・加工・流通・消費を通じた食料供給の一連の流れを把握するフードシステムも国際化している。特に、このような国際化の中で、問題が顕在化されている食品ロスを対象とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(11 野口 敬夫 (指導補助教員)) (農業貿易論) 農業貿易の自由化によって変化する国際的なフードチェーンの全体構造や、その形成に影響を及ぼす産業構造、企業間構造・企業行動などについて指導を行う。関連する文献資料、統計資料に加えて、フィールド調査をベースとする定性分析の手法を理解し、学術論文の作成方法を学ぶことを目標とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(12 堀部 篤 (指導補助教員)) (農業政策論) 農業政策の分析および評価。特に、1)集落を対象とした支援制度や外部人材を活用した農村地域政策、2)新規就農支援や認定農業者などの担い手育成政策、3)農地集積に関わる法制度や支援組織などの農地政策、を対象とする。分析は、法制度論、統計分析、事例分析を組み合わせ、総合的な評価手法を身につける。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p>	
--	--	---	--

研究科目	農業経済学特論演習Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士前期課程の大学院生を対象に、研究成果の発表を行い、幅広い視点から研究方法、分析手法などを確認・修得する演習である。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法を修得することも行う。農業経済学特論演習Ⅰ～Ⅳは、4段階で上記の能力を高めることとする。農業経済学特論演習Ⅳは、2年次後期に履修する。到達目標は、修士論文の完成、学会等での研究発表である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 大浦 裕二 (指導教員)) (食品マーケティング論) 企業間や産地間の競争が激化する中で、各食品産業及び産地が行うマーケティング活動の重要性が高まっている。このような社会情勢を踏まえて、本演習では、主に食品マーケティングと消費者行動との関連性について指導する。</p> <p>(2 金田 憲和 (指導教員)) (貿易論・計量経済学) ミクロ経済学・マクロ経済学を分析のベースとしながら、食料・農業・環境に関わる領域の諸問題に関する研究指導を行う。なかでも特に、食料品等の貿易など国際経済学の領域を重点的に指導する。また研究上の方法論としては、統計解析を経済学に応用した計量経済学の分析手法や産業連関分析などの方法に基づき、これらを利用した研究が行えるよう指導を行う。</p> <p>(3 菅沼 圭輔 (指導教員)) (開発経済学) 主として海外におけるフィールドワークに基づく学術論文の作成において、先行研究の整理と課題の設定の関係、課題の設定と結論部分の関係、結論を導く実証過程の整合性をポイントとして指導を行う。</p> <p>(4 高柳 長直 (指導教員)) (経済地理学) 経済学的・地理学的観点から、主として食料問題に関する研究テーマに関する指導を行う。とくに、研究上のオリジナリティ、首尾一貫した議論、矛盾なき論理の構築といった点を中心に、受講生が社会科学的研究をまとめられるようにする。</p> <p>(5 田中 裕人 (指導教員)) (環境経済学) 農業・農村においては、国土保全機能等の多面的機能が発揮されている。この多面的機能には大きな価値が認められている。本演習では、環境経済学を用いて外部経済効果の評価等の分析を行うことができるように指導を行う。</p> <p>(6 寺内 光宏 (指導教員)) (農業経済学) 農業、食料及び資源・環境領域における諸問題に関する学術研究の遂行に際し、既存の研究成果の検討、課題設定の有効性の確認、ミクロ経済学及びマクロ経済学に依拠し、計量経済学的視点を重視した研究方法の下、各種統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等に基づく数値データの数量的処理方法を援用した設定課題への接近を行い、一連の分析の後、分析結果から得られた知見の整理に際し、論理的な整合性を重視した結論が導出できる能力が修得可能な指導を行う。</p> <p>(7 堀田 和彦 (指導教員)) (食料経済学) 食料の生産、流通、消費等フードシステム全体の流れの中で、院生が取り組んでいる研究の目的、研究手法、問題点などが的確なものであり、論文として完成させる場合の課題、問題点がどこにあるか指導をおこなう。</p> <p>(8 吉野 馨子 (指導教員)) (生活農業論) 国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。方法論としてはフィールドワークの研究手法を採り、先行研究の整理と課題の設定、調査地の選定、現地調査の計画と実施、データ分析の方法等、質の高い学術研究遂行のための一連のプロセスについて指導する。</p>
------	------------	--

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>		<p>(9 佐藤 みずほ (指導補助教員)) (国際フードシステム論) 経済のグローバル化によって、農産物の生産・加工・流通・消費を通じた食料供給の一連の流れを把握するフードシステムも国際化している。特に、このような国際化の中で、問題が顕在化されている食品ロスを対象とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(11 野口 敬夫 (指導補助教員)) (農業貿易論) 農業貿易の自由化によって変化する国際的なフードチェーンの全体構造や、その形成に影響を及ぼす産業構造、企業間構造・企業行動などについて指導を行う。関連する文献資料、統計資料に加えて、フィールド調査をベースとする定性分析の手法を理解し、学術論文の作成方法を学ぶことを目標とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(12 堀部 篤 (指導補助教員)) (農業政策論) 農業政策の分析および評価。特に、1)集落を対象とした支援制度や外部人材を活用した農村地域政策、2)新規就農支援や認定農業者などの担い手育成政策、3)農地集積に関わる法制度や支援組織などの農地政策、を対象とする。分析は、法制度論、統計分析、事例分析を組み合わせ、総合的な評価手法を身につける。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p>	
--	--	---	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要				
（国際食料農業科学研究科 国際アグリビジネス学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
国際食料農業科学研究科共通科目	研究倫理特講	<p>研究を行い、さらに学術論文、学会発表をする上で、研究倫理性を理解することは非常に重要である、本講義では、eラーニング教材による学修と並行して研究を行う上で必要な倫理観を涵養する。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて、研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止（発注・人件費・旅費・謝金）について学修する。</p> <p>また、研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報の取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>		
	知的財産管理法	<p>農業・農学の事例を元に知財を学び、知財を創造し経営戦略的視点で活用するケーススタディの学修を通じて、グローバル化や食糧問題等で生じる農業の諸課題を解決する力を養う。</p> <p>具体的には、まずガイダンスを行った上で、現代農業と知財について講義し、続いて、農業分野での商品開発とその販売戦略、知的財産から見る農業の歴史と将来、農業技術の創造・保護・活用について学ぶ。さらに、品種登録制度、農業に関する知財係争の実際、農業のグローバル化と知的財産に関連するその他の法制度といった実務的知識について学ぶ。最後に、以上を踏まえて6次産業化（販売戦略等）企業的经营（大規模）、農機具開発（関連産業）に係わるケーススタディーについて学ぶ。</p>		
	農学教育史特講	<p>日本の農学教育の歴史について、西洋の分析科学の導入を切り口とし文献史料を検討し、近代農学がどのように発達したのかを考える。具体的には、駒場農学校から帝国大学農科大学を中心に和文（古文書を含む）、英文、独文の文献史料を読む。本授業では、受講者が関連事項を調べることを通して、日本の農学教育史ならびに東京農業大学史の基礎知識を身につけること、文献や史料の探し方を学ぶことを目的とする。</p>		
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就業体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料・農業・環境の実際の職場において就業体験を積むことにより、現場の問題解決に取り組む専門的能力の発揮など自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>		
専攻科目	基礎科目	論文英語Ⅰ	<p>論文要旨や学会報告など、紙面が限られている研究成果報告を想定した英語論文の書き方について講義を行う。社会科学系論文に必要な、研究成果のまとめ方、表現方法、データ分析と考察の表現、文献の引用などのルールを身につけることを目的とする。教科書のみならず自分自身の研究を例題として演習を実施する。中間報告会や学会報告に必要な論文英語の基本を修得することを到達目標とする。</p>	
		論文英語Ⅱ	<p>修士論文の論文作成を想定し、論文構成と個別研究課題の関連、研究の位置付け、データの出典・引用、分析手法と考察の表現の違いなど、論文作成のための基礎知識について講義を行う。また、文献レビューを例題に、英語表現の違いによる考察や説得力の違いなどを具体例を通じて学び、修士論文を厳密かつ体系的に完成させるための英語表現力を修得することを到達目標とする。</p>	

専攻科目	基礎科目	<p>農業ビジネス経営学特講</p> <p>(概要) 先進的な活動を行う法人組織経営を含む農業経営ならびに、近年、その役割が増しつつある加工・流通・販売等を担う農業関連企業（アグリビジネス）を対象として、立脚するビジネスモデル、経営者行動、経営主体論や市場・環境対応行動等について分析的視点を基に学ぶ。その上で、現代の農業経営並びに関連企業における経営者、中間管理者の役割、組織的な経営成長メカニズムや戦略的多角化（ダイバーシフィケーション）の方向性、ソーシャルビジネスの展開の役割について理解することを到達目標とする。農業経営をめぐる制度・政策的支援の課題や方向性などについても、現場の実例を十分踏まえながら講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回：単位認定者 3 木原 高治) (3 木原 高治／5回) 農業経営並びに関連企業の立脚する農業協同組合法、農地法、商法、会社法などの法制度の概要及びそれらに関連する経営問題について講義する。具体的には、6次産業化等に関わる先進的経営事例を取り上げ、企業形態及びその選択の特色、事業内容と組織構造や組織形態との関係性、事業運営過程における経営管理手法、資金の調達と運用に関わる理論と手法、会計情報を用いた財務分析と企業評価手法等に関する講義を行う。</p> <p>(7 鈴村 源太郎／5回) 国内外の農業経営並びに関連企業が経営成長を遂げるための経営者機能、経営行動について要素分解的な視点をもって講義すると共に、そうした経営成長を実現した経営者の具体例に基づき、意欲やリーダーシップ等の経営者資質の源泉が何処に求められるのかについても、行動科学的な理論的考察の知見を踏まえながら講義を行う。特に、経営確立期の新規就農者が自律的な経営者として成長していく過程に焦点を当て、人格的成長要因に関する分析が可能な知見について教授する。</p> <p>(13 山田 崇裕／5回) 国内外の農業経営、農業団体等が関わる農業分野のソーシャルビジネスに焦点を当て、関連主体の組織行動と成長要因の関係について講義を行う。具体的には農業分野のソーシャルビジネスの特性を整理した上で、先進事例を対象に組織論の見地から、収益性追求と農業・農村問題解決の両立をはかる社会起業家としての事業者の意思決定、同ビジネスをめぐる組織構造や組織文化、組織間関係に関わる理論と評価方法について講義を行う。</p>	オムニバス方式
		<p>国際農業経営分析論特講</p> <p>(概要) 農業経営分析は、経営者が企業の経営管理を行ったり、ステークホルダーが企業の評価を実施したりする場合に必要となる。そこで、本科目では、国内外の農業企業経営を対象とした経営分析の基本的考え方、各種分析指標、指標値の計算方法、農業・食品関連企業の定性的評価方法等について学び、一般企業や農業経営を対象とした調査・研究および経営の実践場面において経営分析を行えるようになることを到達目標とする。具体的な講義内容としては、一般企業および農業経営の経営分析に必要な経営学、簿記・会計学等にかかわる基本概念や諸理論に加え、損益計算書や貸借対照表を利用した財務諸表分析、企業の定性的評価方法、国際比較研究等について講義を通じて教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回：単位認定者 8 土田 志郎) (1 内山 智裕／1回) 海外の農業経営を対象とした経営分析の講義を行う。具体的には、欧米先進国の農業経営がおかれる財務状況を日本の農業経営のそれと比較分析し、日本の農業経営の財務的な特異性を明らかにするとともに、今後ますます多角化・高度化し、倒産リスクおよびそのインパクトも増大していくと考えられる農業経営が留意すべき経営管理上のポイントについて、分析指標を用いて評価／比較する方法について教授する。</p> <p>(8 土田 志郎／7回) 農業経営における経営分析は、一般企業の経営分析と共通する点が多いが、例えば、果樹や大家畜の資産評価および減価償却費計算といった農業経営独自の評価対象がある。そこで、一般企業を対象にした経営分析と農業経営を対象とした経営分析の共通点と相違点を検討するとともに、農業経営を対象とした財務諸表分析、コスト分析、資産評価および減価償却方法、線形計画モデルによるシミュレーション分析等について講義を通じて教授する。</p> <p>(10 井形 雅代／7回) 食品・農業関連企業を対象として、財務分析の基本的な手法である収益性、効率性、生産性、安全性、成長性に関連する指標を用いた比率分析、損益分岐点分析、キャッシュ・フロー分析、原価の分析について解説し、受講生はこれらに関する基本的な手法を修得する。さらに、受講生は分析対象とする事例を自ら選定し、修得した分析手法を用いた分析に加え、経営環境も踏まえ多角的な農業経営分析を含めた一連の講義を行う。</p>	オムニバス方式

専攻科目	基礎科目	国際農業経営戦略分析手法	<p>(概要)</p> <p>6次産業化に代表されるように農業経営及びその関連産業の経営は多角化しつつある。そうした際に的確な意思決定を行っていくために経営戦略の重要性が高まっている。そこで、経営戦略の分析と策定手法を修得させるため、経営戦略に関する主要フレームである「SWOT分析」、「5forces分析」、「3つの基本戦略」、「バリューチェーン分析」、および「成長ベクトル」について、それらの特徴と展開過程の概要を講義する。以上を通じて、経営戦略に関する主要フレームが考案された背景と特徴、戦略分析への適応方法、並びに企業経営における具体的な適用事例などを理解し、修士論文の研究に応用できる知識を身につけることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス形式／全15回：単位認定者 6 渋谷 往男) (5 佐藤 和憲／7回)</p> <p>企業活動によって生み出される価値の源泉を明らかにし、経営戦略の妥当性を明らかにするバリューチェーン分析について、主活動としての購買物流、製造、出荷物流、マーケティング、サービス、および支援活動としてのインフラストラクチャー、人事・労務、技術開発、調達物流などについてポーター『競争の戦略』などをテキストとして教授する。また、製品と市場の組み合わせによる市場浸透、新市場開拓、新製品開発、多角化の4つの戦略類型を示す成長ベクトルについて、アンゾフ『企業戦略』などをテキストとして教授する。</p> <p>(6 渋谷 往男／8回)</p> <p>経営の実態と方向性を明らかにするための手法であるSWOT分析について、各項目を洗い出すためのフレームワークと作成した分析表を用いて、戦略の方向性を提示するための理論と活用方法について教授する。また、業界の力関係を分析する手法であるポーターの5forces分析について、その理論を解説するとともに、農業や食品に関する業界における活用方法について教授する。さらに、経営戦略の大きな方向性を決める際の普遍的な手法であるポーターの3つの基本戦略について農業やその関連企業で採用される差別化戦略を中心として教授する。</p>	オムニバス方式
		国際農業経営情報特講	<p>国際的な農業経済・農業経営の実証的な数量データを収集し、国内外の動向分析や農業経営戦略の評価、将来予測などを行うためには、統計解析をはじめとする情報分析・計量分析の知識が必要である。本特講では、多変量解析などの計量分析とコンピュータ処理に代表される情報学について実際のデータを使用し、分析方法と応用、結果の理解と議論について教授する。確率密度分布の理論や回帰分析、カテゴリカルデータの分析手法の理論を理解し、修士論文の研究分析に応用できる知識を身につけることを到達目標とする。</p>	
		国際農業マーケティング特講	<p>(概要)</p> <p>国際農業マーケティング活動においては、消費段階の分析が不可欠である。研究の分野としても、ミクロ経済学における効用最大化理論のような古典的な枠組みをはじめとして、行動経済学や社会心理学等の研究領域、また、より実務的な領域との接点から、消費者行動研究は拡大している。本講義では、こうした国際農業マーケティング研究における基礎的な理論を理解し、その応用のための手法を学ぶ。マーケティング・消費者行動の理論に裏打ちされた実証分析が可能な知識を身につけることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス形式／全15回：単位認定者 2 大江 靖雄) (2 大江 靖雄／7回)</p> <p>国際農業マーケティングの定義、基礎、基本課題、プロダクトマネジメントなど、国際農業マーケティング研究において必要な学説史、学際的な研究分野としての境界領域を含めた近年の動向、国内外の食料ビジネスに関連した商品やサービスの事例について教授する。</p> <p>(12 半杭 真一／8回)</p> <p>国際農業マーケティング研究においては、2次データや1次データ、定性的なデータや定量的なデータなど、多様な種類のデータが扱われている。本特講では、マーケティング・リサーチに使用されるデータの特徴・取得方法を学び、国際農業マーケティングの研究活動を行うために必要なデータの分析手法について指導を補助する。</p>	オムニバス方式

専攻科目	特論科目	国際農業経営組織学特論 I	本特論では、修士論文作成に向けた基礎能力・思考方法を身につけるため、受講者の研究課題にあわせて国内外の農業経済学・農業経営学の諸問題について講義する。具体的には、農業・農村問題、農業及びその関連産業（アグリビジネス）の経営学、統計学、調査方法論等について説明するが、同時に学術論文作成の基本事項及び批判的精読方法並びに主要な調査研究・分析方法が体得できるように教授する。これらを通じ、研究に必要な基礎能力を高めることを到達目標とする。	
		国際農業経営組織学特論 II	国際農業経営組織学特論 I で学んだことを踏まえ、受講者の修士論文作成に向けた基礎能力・思考方法をさらに深めるため、国内外の農業経済学、農業経営学、フードシステムを軸にしながら、経済学及び経済分析、経営学及び経営分析に関する理論と手法を講義する。そして、それらの講義を通して、学術論文作成の基本事項及び批判的精読方法並びに主要な調査研究・分析方法が体得できるように教授する。これらを通じ、研究に必要な知見を修得することを到達目標とする。	
		国際農業経営管理学特論 I	本特論では、農業経営管理の実践に不可欠となる経営学および会計学の専門知識や諸理論を幅広く学修するとともに、調査・研究にかかわる方法論について学ぶ。国際農業経営管理学特論 I では、経営学や会計学の基本文献の輪読によって、農業経営学および農業会計学の専門知識や諸理論についての理解を深め、研究に必要な基礎能力を高めることを到達目標とする。	
		国際農業経営管理学特論 II	国際農業経営管理の実践に不可欠となる経営学および会計学の専門知識や諸理論を幅広く学修するとともに、調査・研究にかかわる方法論について学ぶ。国際農業経営管理学特論 II では、一般企業や農業経営体を対象とした経営研究事例を取り上げ、そのアプローチ方法（研究のフレームワークや調査・分析方法）等について学修することによって、研究に必要な知見を修得することを到達目標とする。	
		国際農業経営戦略特論 I	農業経営戦略の出発点として重要な「基本理念」について、実際のアグリビジネス関連企業における導入状況を通じて、それがどのように経営に生かされて、成果に結びついているかについて、理解を深めることを目的とする。具体的には、経営理念の重要性が実例に基づいてわかりやすく示されている、ジェームズ・C・コリンズらの「ビジョナリー・カンパニー」の輪読を通じて教授する。また、後半ではわが国の農企業で導入されている「経営理念」について教授する。これらを通じ、研究に必要な基礎的な知見を修得することを到達目標とする。	
		国際農業経営戦略特論 II	本特論は、国際農業経営戦略の中でも特に重要な競争戦略についての基本的な知識を修得することを目的とする。具体的には、ビジネススクールにおける重要なテキストであるポーターの「新版 競争の戦略」の輪読を通じて、研究活動や実際の事業活動への応用方法などについて教授する。これらを通じ、研究に必要な知見を修得することを到達目標とする。	

研究 科 目	<p>国際アグリビジネス学特別演習 I</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻は、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネスを対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学的手法で分析し課題解決を図る。このため、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施、結果の評価、発表・論文作成などの各段階について指導する。国際アグリビジネス学特別演習 I～IVは、修士論文が完成するまでにプロセスを4段階に分ける。国際アグリビジネス学特別演習 I は、1年次前期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿ったテーマを決定し、研究計画書を作成することである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 内山 智裕 (指導教員)) (国際農業経営学) 国内外の農業経営や関連産業を分析対象として、国際比較の観点から、財務的持続性(経営分析、資産評価や事業譲渡)や人的持続性(後継者の確保や新規参入)を通じた農業経営の参入・発展・継承に関する研究について指導する。</p> <p>(2 大江 靖雄 (指導教授)) (国際農業マーケティング) 21世紀における農業や農村資源の新たな可能性と役割を明らかにするために必要となる、農業の多面的機能の役割や農村ツーリズムなど農業と農村経済の多角化の条件について、国内とイタリア農村をフィールドとして比較研究について指導する。</p> <p>(4 熊澤 恵里子 (指導教授)) (農業教育史) 幕末明治の教育の近代化過程について、農学教育に焦点を当て史料を読み、研究史の整理、欧米の発達史との比較検討等を行い、日本の近代農学がどのように発達したかについて指導する。</p> <p>(5 佐藤 和憲 (指導教授)) (農業経営戦略論) 農産物流通の構造変化を実態調査に基づいて解明しながら、これに対応した農業法人等の経営戦略をビジネスモデルや数理計画を応用して策定する方法の確立について指導する。</p> <p>(6 渋谷 往男 (指導教員)) (農業経営戦略論) 成長産業としての企業的な農業経営における経営戦略について、従来型の農業経営手法や一般企業の経営手法との比較を行いつつ、農業固有の経営戦略理論の構築と農業経営への実践的な導入手法についての研究方法について指導する。</p> <p>(7 鈴村 源太郎 (指導教員)) (農業経営組織学) 農業および食品産業経営における後継者確保や人材能力開発に向けた経営者能力の要因解析等を行うほか、農業経営の高度化のための組織化・法人化プロセスにおける課題の解明と政策的支援策のあり方について指導する。</p> <p>(8 土田 志郎 (指導教員)) (農業経営学) 農企業および食品関連企業を対象にした調査・分析方法、経営モデルの構築・シミュレーション手法等について教授するとともに、それを踏まえた企業の実態把握、経営理論の構築、経営支援策の提示に関する研究について指導する。</p> <p>(9 畑中 勝守 (指導教員)) (国際農業経営情報学) 国内のみならず東南アジアをはじめとする発展途上国の農業・水産業の経営に必要な資源情報について、ICTによる自動データ取得技術の応用とデータベース構築を行い、資源情報の統計分析や数値シミュレーションによる事象の解明、要因分析などを通じた問題解決について指導する。</p> <p>(11 下口 ニナ (指導補助教員)) (国際農業経営情報学) 農業情報共有を活用し、環境保全と経済効率の両立を可能とする東南アジアや日本における農業やアグリビジネスの発展方向を展望する。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(12 半杭 真一 (指導補助教員)) (農業マーケティングリサーチ) 農業・食品ビジネスにおける諸課題の解決を目的として、消費者の意識や行動を把握するための調査方法やその活用について、調査データの分析を通じたアプローチを中心として研究を行う。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(13 山田 崇裕 (指導補助教員)) (農業経営組織学、農業経営学) 農業経営組織と支援組織を対象に、組織経営を取り巻く外部・内部環境の特性ならびに変動状況を踏まえつつ、経営組織論の見地に基づき組織行動のメカニズムを分析し、経営成長の要因解明や経営問題の解決を試みる。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p>	
--------------	-------------------------	--	--

研究 科 目	<p>国際アグリビジネス学特別演習Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻は、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネスを対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学的手法で分析し課題解決を図る。このため、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施、結果の評価、発表・論文作成などの各段階について指導する。国際アグリビジネス学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでにプロセスを4段階に分ける。国際アグリビジネス学特別演習Ⅱは、1年次後期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿って最新の知見や技術に関する情報の収集・検討に基づく研究テーマと計画の最適化である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 内山 智裕 (指導教員)) (国際農業経営学) 国内外の農業経営や関連産業を分析対象として、国際比較の観点から、財務的持続性(経営分析、資産評価や事業譲渡)や人的持続性(後継者の確保や新規参入)を通じた農業経営の参入・発展・継承に関する研究について指導する。</p> <p>(2 大江 靖雄 (指導教授)) (国際農業マーケティング) 21世紀における農業や農村資源の新たな可能性と役割を明らかにするために必要となる、農業の多面的機能の役割や農村ツーリズムなど農業と農村経済の多角化の条件について、国内とイタリア農村をフィールドとして比較研究について指導する。</p> <p>(4 熊澤 恵里子 (指導教授)) (農業教育史) 幕末明治の教育の近代化過程について、農学教育に焦点を当て史料を読み、研究史の整理、欧米の発達史との比較検討等を行い、日本の近代農学がどのように発達したかについて指導する。</p> <p>(5 佐藤 和憲 (指導教授)) (農業経営戦略論) 農産物流通の構造変化を実態調査に基づいて解明しながら、これに対応した農業法人等の経営戦略をビジネスモデルや数理計画を応用して策定する方法の確立について指導する。</p> <p>(6 渋谷 往男 (指導教員)) (農業経営戦略論) 成長産業としての企業的な農業経営における経営戦略について、従来型の農業経営手法や一般企業の経営手法との比較を行いつつ、農業固有の経営戦略理論の構築と農業経営への実践的な導入手法についての研究方法について指導する。</p> <p>(7 鈴村 源太郎 (指導教員)) (農業経営組織学) 農業および食品産業経営における後継者確保や人材能力開発に向けた経営者能力の要因解析等を行うほか、農業経営の高度化のための組織化・法人化プロセスにおける課題の解明と政策的支援策のあり方について指導する。</p> <p>(8 土田 志郎 (指導教員)) (農業経営学) 農企業および食品関連企業を対象にした調査・分析方法、経営モデルの構築・シミュレーション手法等について教授するとともに、それを踏まえた企業の実態把握、経営理論の構築、経営支援策の提示に関する研究について指導する。</p> <p>(9 畑中 勝守 (指導教員)) (国際農業経営情報学) 国内のみならず東南アジアをはじめとする発展途上国の農業・水産業の経営に必要な資源情報について、ICTによる自動データ取得技術の応用とデータベース構築を行い、資源情報の統計分析や数値シミュレーションによる事象の解明、要因分析などを通じた問題解決について指導する。</p> <p>(11 下口 ニナ (指導補助教員)) (国際農業経営情報学) 農業情報共有を活用し、環境保全と経済効率の両立を可能とする東南アジアや日本における農業やアグリビジネスの発展方向を展望する。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(12 半杭 真一 (指導補助教員)) (農業マーケティングリサーチ) 農業・食品ビジネスにおける諸課題の解決を目的として、消費者の意識や行動を把握するための調査方法やその活用について、調査データの分析を通じたアプローチを中心として研究を行う。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(13 山田 崇裕 (指導補助教員)) (農業経営組織学、農業経営学) 農業経営組織と支援組織を対象に、組織経営を取り巻く外部・内部環境の特性ならびに変動状況を踏まえつつ、経営組織論の見地に基づき組織行動のメカニズムを分析し、経営成長の要因解明や経営問題の解決を試みる。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p>	
--------------	------------------------	--	--

研究 科 目	<p>国際アグリビジネス学特別演習Ⅲ</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻は、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネスを対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学的手法で分析し課題解決を図る。このため、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施、結果の評価、発表・論文作成などの各段階について指導する。国際アグリビジネス学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでにプロセスを4段階に分ける。国際アグリビジネス学特別演習Ⅲは、2年次前期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿って決定した研究テーマで修士論文の骨子の作成である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 内山 智裕 (指導教員)) (国際農業経営学) 国内外の農業経営や関連産業を分析対象として、国際比較の観点から、財務的持続性(経営分析、資産評価や事業譲渡)や人的持続性(後継者の確保や新規参入)を通じた農業経営の参入・発展・継承に関する研究について指導する。</p> <p>(2 大江 靖雄 (指導教授)) (国際農業マーケティング) 21世紀における農業や農村資源の新たな可能性と役割を明らかにするために必要となる、農業の多面的機能の役割や農村ツーリズムなど農業と農村経済の多角化の条件について、国内とイタリア農村をフィールドとして比較研究について指導する。</p> <p>(4 熊澤 恵里子 (指導教授)) (農業教育史) 幕末明治の教育の近代化過程について、農学教育に焦点を当て史料を読み、研究史の整理、欧米の発達史との比較検討等を行い、日本の近代農学がどのように発達したかについて指導する。</p> <p>(5 佐藤 和憲 (指導教授)) (農業経営戦略論) 農産物流通の構造変化を実態調査に基づいて解明しながら、これに対応した農業法人等の経営戦略をビジネスモデルや数理計画を応用して策定する方法の確立について指導する。</p> <p>(6 渋谷 往男 (指導教員)) (農業経営戦略論) 成長産業としての企業的な農業経営における経営戦略について、従来型の農業経営手法や一般企業の経営手法との比較を行いつつ、農業固有の経営戦略理論の構築と農業経営への実践的な導入手法についての研究方法について指導する。</p> <p>(7 鈴村 源太郎 (指導教員)) (農業経営組織学) 農業および食品産業経営における後継者確保や人材能力開発に向けた経営者能力の要因解析等を行うほか、農業経営の高度化のための組織化・法人化プロセスにおける課題の解明と政策的支援策のあり方について指導する。</p> <p>(8 土田 志郎 (指導教員)) (農業経営学) 農企業および食品関連企業を対象にした調査・分析方法、経営モデルの構築・シミュレーション手法等について教授するとともに、それを踏まえた企業の実態把握、経営理論の構築、経営支援策の提示に関する研究について指導する。</p> <p>(9 畑中 勝守 (指導教員)) (国際農業経営情報学) 国内のみならず東南アジアをはじめとする発展途上国の農業・水産業の経営に必要な資源情報について、ICTによる自動データ取得技術の応用とデータベース構築を行い、資源情報の統計分析や数値シミュレーションによる事象の解明、要因分析などを通じた問題解決について指導する。</p> <p>(11 下口 ニナ (指導補助教員)) (国際農業経営情報学) 農業情報共有を活用し、環境保全と経済効率の両立を可能とする東南アジアや日本における農業やアグリビジネスの発展方向を展望する。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(12 半杭 真一 (指導補助教員)) (農業マーケティングリサーチ) 農業・食品ビジネスにおける諸課題の解決を目的として、消費者の意識や行動を把握するための調査方法やその活用について、調査データの分析を通じたアプローチを中心として研究を行う。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(13 山田 崇裕 (指導補助教員)) (農業経営組織学、農業経営学) 農業経営組織と支援組織を対象に、組織経営を取り巻く外部・内部環境の特性ならびに変動状況を踏まえつつ、経営組織論の見地に基づき組織行動のメカニズムを分析し、経営成長の要因解明や経営問題の解決を試みる。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p>	
--------------	------------------------	--	--

研究 科 目	国際アグリビジネス学特別演習Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>本専攻は、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネスを対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学的手法で分析し課題解決を図る。このため、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施、結果の評価、発表・論文作成などの各段階について指導する。国際アグリビジネス学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでにプロセスを4段階に分ける。国際アグリビジネス学特別演習Ⅳは、2年次後期に履修させる。到達目標は、修士論文の完成と成果の発表である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 内山 智裕 (指導教員)) (国際農業経営学) 国内外の農業経営や関連産業を分析対象として、国際比較の観点から、財務的持続性(経営分析、資産評価や事業譲渡)や人的持続性(後継者の確保や新規参入)を通じた農業経営の参入・発展・継承に関する研究について指導する。</p> <p>(2 大江 靖雄 (指導教授)) (国際農業マーケティング) 21世紀における農業や農村資源の新たな可能性と役割を明らかにするために必要となる、農業の多面的機能の役割や農村ツーリズムなど農業と農村経済の多角化の条件について、国内とイタリア農村をフィールドとして比較研究について指導する。</p> <p>(4 熊澤 恵里子 (指導教授)) (農業教育史) 幕末明治の教育の近代化過程について、農学教育に焦点を当て史料を読み、研究史の整理、欧米の発達史との比較検討等を行い、日本の近代農学がどのように発達したかについて指導する。</p> <p>(5 佐藤 和憲 (指導教授)) (農業経営戦略論) 農産物流通の構造変化を実態調査に基づいて解明しながら、これに対応した農業法人等の経営戦略をビジネスモデルや数値計画を応用して策定する方法の確立について指導する。</p> <p>(6 渋谷 往男 (指導教員)) (農業経営戦略論) 成長産業としての企業的な農業経営における経営戦略について、従来型の農業経営手法や一般企業の経営手法との比較を行いつつ、農業固有の経営戦略理論の構築と農業経営への実践的な導入手法についての研究方法について指導する。</p> <p>(7 鈴村 源太郎 (指導教員)) (農業経営組織学) 農業および食品産業経営における後継者確保や人材能力開発に向けた経営者能力の要因解析等を行うほか、農業経営の高度化のための組織化・法人化プロセスにおける課題の解明と政策的支援策のあり方について指導する。</p> <p>(8 土田 志郎 (指導教員)) (農業経営学) 農企業および食品関連企業を対象にした調査・分析方法、経営モデルの構築・シミュレーション手法等について教授するとともに、それを踏まえた企業の実態把握、経営理論の構築、経営支援策の提示に関する研究について指導する。</p> <p>(9 畑中 勝守 (指導教員)) (国際農業経営情報学) 国内のみならず東南アジアをはじめとする発展途上国の農業・水産業の経営に必要な資源情報について、ICTによる自動データ取得技術の応用とデータベース構築を行い、資源情報の統計分析や数値シミュレーションによる事象の解明、要因分析などを通じた問題解決について指導する。</p> <p>(11 下口 ニナ (指導補助教員)) (農業経営情報学) 農業情報共有を活用し、環境保全と経済効率の両立を可能とする東南アジアや日本における農業やアグリビジネスの発展方向を展望する。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(12 半杭 真一 (指導補助教員)) (農業マーケティングリサーチ) 農業・食品ビジネスにおける諸課題の解決を目的として、消費者の意識や行動を把握するための調査方法やその活用について、調査データの分析を通じたアプローチを中心として研究を行う。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(13 山田 崇裕 (指導補助教員)) (農業経営組織学、農業経営学) 農業経営組織と支援組織を対象に、組織経営を取り巻く外部・内部環境の特性ならびに変動状況を踏まえつつ、経営組織論の見地に基づき組織行動のメカニズムを分析し、経営成長の要因解明や経営問題の解決を試みる。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p>	
--------------	-----------------	---	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際食料農業科学研究科 国際食農科学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際食料農業科学研究科共通科目	研究倫理特講	<p>研究を行い、さらに学術論文、学会発表をする上で、研究倫理性を理解することは非常に重要である、本講義では、eラーニング教材による学修と並行して研究を行う上で必要な倫理観を涵養する。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて、研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止(発注・人件費・旅費・謝金)について学修する。</p> <p>また、研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>	
	知的財産管理法	<p>農業・農学の事例を元に知財を学び、知財を創造し経営戦略的視点で活用するケーススタディの学修を通じて、グローバル化や食糧問題等で生じる農業の諸課題を解決する力を養う。</p> <p>具体的には、まずガイダンスを行った上で、現代農業と知財について講義し、続いて、農業分野での商品開発とその販売戦略、知的財産から見る農業の歴史と将来、農業技術の創造・保護・活用について学ぶ。さらに、品種登録制度、農業に関する知財係争の実際、農業のグローバル化と知的財産に関連するその他の法制度といった実務的知識について学ぶ。最後に、以上を踏まえて6次産業化(販売戦略等)企業的经营(大規模)、農機具開発(関連産業)に係わるケーススタディーについて学ぶ。</p>	
	農学教育史特講	<p>日本の農学教育の歴史について、西洋の分析科学の導入を切り口とし文献史料を検討し、近代農学がどのように発達したのかを考える。具体的には、駒場農学校から帝国大学農科大学を中心に和文(古文書を含む)、英文、独文の文献史料を読む。本授業では、受講者が関連事項を調べることを通じて、日本の農学教育史ならびに東京農業大学史の基礎知識を身につけること、文献や史料の探し方を学ぶことを目的とする。</p>	
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就業体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料・農業・環境の実際の職場において就業体験を積むことにより、現場の問題解決に取り組む専門的能力の発揮など自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>	

専攻科目	基礎科目	論文英語	<p>(概要)</p> <p>国際食農科学の分野で読むべき論文英語は、自然科学系から社会科学系にまたがり、研究対象も極めて広範囲である。国際食農科学専攻大学院生の英語による発信のため科学論文作成能力の向上を目指し、英語論文作成に必要な文法や文章構造を学修し、英文によるレポート、研究計画書および科学論文の書き方を、専攻が対象とする大きく研究文化の異なる二つの分野、すなわち自然科学分野と社会科学分野の双方から多角的に教授する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回：単位認定者 1 稲泉 博己) (1 稲泉 博己／4回) 英語による科学論文における、特に「緒言」と「考察」の記述に必要な主張、比較、対比などの英文表記方法について教授する。この際受講者の研究対象にあわせて、国内外の最新あるいは代表的論文を取り上げ、具体的な事例を元に教授する。</p> <p>(5 宮浦 理恵／4回) 英語科学論文の自然科学分野における「材料および方法」の記載内容、また社会科学分野における「調査地の概要」や「調査方法」の記載内容について解説し、それぞれの分野における特異的な英語表現について教授する。さらに「結果」の記述に必須な客観的事実や図表などの英文表記方法を教授する。</p> <p>(7 大久保 研治／4回) 英文による研究計画書作成に必要な文献レビュー、目的・仮説の設定、研究計画などの英文表記方法について教授する。また、英語による質問紙調査の作成方法、実験計画法や多変量解析といった定量的な分析を使用した場合の英文の記述など、英語によるデータ収集と定量分析についても教授する。</p> <p>(9 篠原 卓／3回) 英文レポート作成に必要な要素（題名、摘要、本文、本文中の引用、引用文献、図表など）、文章構造、文法および書き方について教授する。文章構造では、特にファーストセンテンスの重要性とパラグラフ構成法について指導する。また、英論説文に特有の文章表現や言い回しを紹介し、自分の主張を論理的に英文表記できるように教授する。</p>	オムニバス方式
		プレゼンテーション法	<p>(概要)</p> <p>本講義は、自然科学系および社会科学系の研究成果を学会報告や修士論文発表等でのプレゼンテーションの際に必要なとされる基本的スキルを学修する。</p> <p>より具体的には、自然科学系では主に実験を通した解析手法や評価手法について、また、社会系では統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等で得られた成果を可視化し、論理的な考察に基づいた発表を行う能力を養い、ポスターや発表資料の作成、プレゼンテーションの方法などの能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回：単位認定者 11 原 温久) (10 谷岡 由梨／5回) 自然科学系における実験を通した科学的解析手法や評価手法等で得られた成果を論理的に分析し、ポスター制作に係る適切な作表、作図を学ぶとともに、口頭での学会報告や修士論文発表会等でのプレゼンテーションの方法を教授する。</p> <p>(11 原 温久／5回) 社会科学系における統計データ等に基づく多変量解析で得られた成果を論理的に分析し、ポスター制作に係る適切な作表、作図を学ぶとともに、口頭での学会報告や修士論文発表会等でのプレゼンテーションの方法を教授する。</p> <p>(12 望月 洋孝／5回) 社会科学系におけるヒアリング調査やアンケート調査等で得られた成果を論理的に分析し、ポスター制作に係る適切な作表、作図を学ぶとともに、口頭での学会報告や修士論文発表会等でのプレゼンテーションの方法を教授する。</p>	オムニバス方式

専攻科目	基礎科目	<p>食農技術学</p> <p>(概要)</p> <p>本講義は、食糧資源の生産から加工および栄養、機能性にかかわる技術的、食品・栄養学的側面について、植物生産科学と食環境科学の双方から多角的に教授する。食農技術とは、食を作り出すことを目的とした基礎科学と応用科学の二層を基盤に成立しており、それぞれ最新の研究成果や具体例を紹介し研究として応用できるように進める。到達目標は、食農技術に関する文献および関連情報の検索法の修得である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回：単位認定者 4 古庄 律) (4 古庄 律／3回) 保存、加工に関する基礎知識を理解し、食品の製造技術や鑑別力を養うために、先ず食品の変化、変質を講義し、貯蔵の原理を総括的に教授する。さらに加工食品の製造原理、工程や製造方法等について教授し、食品加工・流通による栄養成分の変化や機能性についても教授する。</p> <p>(5 宮浦 理恵／3回) 食糧資源を持続的に享受するためには、地域の自然環境や食農文化・技術を生かしつつ生態系に負荷をかけない作物生産の技術と農法の基盤形成が必須である。持続的食糧システムへ転換していくための生産技術をアグロエコロジック的観点から理論と実践例について教授する。</p> <p>(6 山内 淳／3回) 食品を構成する代表的な成分である水分、タンパク質、炭水化物について科学的性質を教授するとともに味、香り、色などにかかわる成分における最新の知見を教授する。またこれらの成分がどのように体内に取り込まれ、代謝されていくのかについて教授する。またこれらの成分の新規の生理作用についても教授する。</p> <p>(9 篠原 卓／3回) 農作物種子の採種栽培技術と貯蔵技術について教授する。特に採種栽培期間中の気象条件と種子品質の関係についての先行研究を紹介しながら採種に適した地域の選定について教授する。さらに、種子貯蔵中における老化や品質劣化に対する温度や相対湿度など貯蔵条件についての先行研究を紹介しながら最適な貯蔵条件について教授する。</p> <p>(10 谷岡 由梨／3回) 食品に含まれるミネラル、ビタミンといった微量栄養素の生理機能について食品科学的および生物学的に教授する。また、これら微量栄養素の消化、吸収、代謝システムについて詳細に教授する。さらに新規の生理作用についても教授する。</p>	オムニバス方式
------	------	---	---------

専攻科目	基礎科目	食農経済学	<p>(概要)</p> <p>本講義のねらいは、食農経済に関する調査を行う上で必要な基礎的な農業経済学や食料経済学等の基礎理論を理解・修得し、グローバリゼーションの中での食料・農業・農村の変化をめぐる課題を念頭に、フードシステムや農村社会、地域資源管理、ソーシャルキャピタル、食農政策、食農教育、農業経営、マーケティング、農村女性起業、地域活性化のあり方の模索等、大学院生が今後自ら食農経済関連の調査を行えるような基礎的洞察力・分析力を養うことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回：単位認定者 1 稲泉博己)</p> <p>(1 稲泉 博己/3回)</p> <p>食と農に関わる自然および社会環境と、それらから影響を受けて成り立つ教育や人々の学びについて理解するため、関係する諸科学、すなわち教育学、認知科学、普及学、コミュニケーション論、実践コミュニティ論などに関わる基本的事項について教授する。</p> <p>(2 上岡 美保/2回)</p> <p>食料経済とフードシステムについて教授する。主として、食料経済学に関する調査・研究を行う上で必要な基礎的な食料経済学の理論的理解と修得、グローバリゼーションの中でのフードシステムの変化をめぐる課題の模索等、大学院生が今後自ら食料経済関連の調査・研究を行えるような基礎的洞察力・分析力を養うことを目標とする。特に、食料消費構造の変化の実態を主要な統計資料等を用いて把握すると共に食料消費構造変化を取り巻く課題について洞察力、分析力を高める。</p> <p>(3 原 珠里/2回)</p> <p>農業がいかなる社会構造の上に営まれているのか、農村社会の組織の在り方や住民のネットワーク形成について基礎的な知識を修得し、ソーシャル・キャピタル研究についての理論を理解することを目標とする。地域特性とソーシャル・キャピタルの関連、またソーシャル・キャピタルの状況が営農上、生活上にいかなる意義をもつのか、さらに学説史や調査・分析方法について教授する。</p> <p>(7 大久保 研治/2回)</p> <p>地域にはその環境に即した農林漁業が存在し、それにより食料生産や文化的景観の形成、食農文化の継承が行われてきた。ミクロ経済学の理論と方法に基づき、そうした食農資源の持続可能な利用と保全のために、生産者、消費者、地域住民、あるいは行政や企業など多様なステークホルダーの意思決定と行動に関わる分析視角について教授する。</p> <p>(8 五條 満義/2回)</p> <p>食農政策分野の事象をめぐり、経済学的視点を踏まえた課題の把握・検証を促す。このため、特に戦後の食農政策の展開過程と関連法制の特徴を整理した上で、現行の食料・農業・農村基本法や、農地制度等に基づく政策課題について教授する。</p> <p>(11 原 温久/2回)</p> <p>わが国の農業法人における農業経営の管理や発展の望ましいあり方、従業員における農作業事故の防止対策の取り組みの仕方、労災保険制度の仕組み、農産物の産地形成の方法、農産物・食品のマーケティング戦略の方向性とその具体的事例などについて教授する。</p> <p>(12 望月 洋孝/2回)</p> <p>地域活性化について教授する。主として、地域活性化に関する調査・研究を行う上で必要な基礎的な各種の理論的理解と修得を通し、日本における都市と地域の構造について、歴史的な展開を振り返るとともに、経済指標や人口推計等の指標から地域の現状を分析する。また、地域の課題に対する国の政策および地方自治体の施策について事例を踏まえて検討していく。</p>	オムニバス方式
		植物生産科学特論Ⅰ	<p>本講義は、植物の生態生理学の基礎について英書テキストを用いて教授する。植物を取り巻く光、水、温度、土壌などの環境条件と植物の環境応答の生理的メカニズムの理解は植物生産のための学術的基盤となる。さらに、生物的要因と環境複合およびそれをもとに生じている生物間相互作用を生態学的に理解することで、最新の植物生産科学を個体から群集のレベルまで総合的に修得する。</p>	共同
		植物生産科学特論Ⅱ	<p>本講義は、植物生産学にかかわる最新の動向を英語論文を用いて教授する。作物栽培技術や農法にかかわる応用的理解を高め、持続的生産に必要な事項を学ぶ。特に、雑草や栽培植物の遺伝的多様性、農生態系における生物間相互作用による創発特性、種子や果実の品質向上のための生理的解析と技術開発について、事例を紹介しながら原理と応用を修得する。また、持続的食料システムのための、生物文化多様性を維持し向上させるため食農技術についても教授する。</p>	共同

専攻科目	特論科目	食環境科学特論 I	<p>(概要)</p> <p>捕獲・収穫された動・植物性食品の多くには、栄養性と嗜好性および保存性を向上させるために様々な加工技術を組み合わせて加工を施す。食環境科学特論 I は、食品の加工および栄養、機能性にかかわる技術的、食品・栄養学的側面について、食環境科学の観点から教授する。到達目標は、食品加工・流通による栄養成分の変化、食品中の主要栄養素および微量栄養素の生理機能に関する知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回：単位認定者 4 古庄 律) (4 古庄 律/5回)</p> <p>保存、加工に関する基礎知識を理解し、食品の製造技術や鑑別力を養うために、先ず食品の変化、変質を講義し、貯蔵の原理を総括的に教授する。さらに加工食品の製造原理、工程や製造方法等について教授し、食品加工・流通による栄養成分の変化や機能性についても教授する。</p> <p>(6 山内 淳/5回)</p> <p>食品に含まれるタンパク質、脂質、炭水化物といった主要栄養素の役割について栄養学的、食品科学的に教授する。特にこれら主要栄養素の消化、吸収、代謝システムについて詳細に教授する。また新規の生理作用についても教授する。</p> <p>(10 谷岡 由梨/5回)</p> <p>食品に含まれるミネラル、ビタミンといった微量栄養素の生理機能について食品科学および生物学的に教授する。また、これら微量栄養素の消化、吸収、代謝システムについて詳細に教授する。また新規の生理作用についても教授する。</p>	オムニバス方式
		食環境科学特論 II	<p>(概要)</p> <p>捕獲・収穫された動・植物性食品の多くには、栄養性と嗜好性および保存性を向上させるために様々な加工技術を組み合わせて加工を施す。本講義は、食品の加工および栄養、機能性にかかわる技術的、食品・栄養学的側面について、食環境科学の観点から教授する。到達目標は、食育の観点から食の安全安心や食の重要性、食文化など食農技術の重要性、食品に含まれる機能性成分の役割、食糧資源の成分特性や加工により生じた生成物の特性および食品中の栄養成分の持つ機能性について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回：単位認定者 4 古庄 律) (4 古庄 律/5回)</p> <p>食品の持つ基本特性と2次特性について食育という観点から理解することを目指す。食の安全・安心や食の重要性、食文化など食農技術の重要性を啓蒙することが食育基本法の中で求められているが、観念的な食の安心ではなく、科学的根拠に基づいた食の安全教育の重要性、また伝統食品に秘められた食品の機能性と、その技術を応用した新しい機能性食品開発について教授する。</p> <p>(6 山内 淳/5回)</p> <p>食品の持つ3次機能、すなわち生体機能調節をになう機能性成分についての化学、相互作用、吸収や体内における動きおよび機能性発現機構について教授する。特に近年注目されてきている整腸機能、血圧・血糖値・中性脂質抑制機能、骨・歯の健康を増進する機能などを取り上げ、さらに最新の機能についても教授する。</p> <p>(10 谷岡 由梨/5回)</p> <p>食糧資源の成分特性や加工により生じた生成物の特性について教授する。また食品と健康の維持増進、および食品と生活習慣病等の疾病予防の観点から、特に食品中の栄養成分の組成、さらにその栄養成分が摂取された後に体内でどのような機能性をもつかについて教授する。</p>	オムニバス方式

専攻科目	特論科目	食農政策特論Ⅰ	本講義では、食農関連の地域政策策定能力を身につけることを目標とし、農産物および食品の生産、流通、消費、そしてコミュニティに関わる基本的な学説を教授する。具体的には、農業経営、生産者行動、農村コミュニティ、消費者行動といった食や農に関わる人の行動や社会現象が、農村社会学、農業・環境経済学、農業経営学、農政学等の学問分野において、どのように把握され分析されてきたのかを学説史を中心に大局的に学ぶ。	共同
		食農政策特論Ⅱ	本講義では、食農関連の地域政策策定能力を身につけることを目標とし、農産物および食品の生産、流通、消費、そしてコミュニティに関わる応用的発展的な学説を教授する。具体的には、農業経営、生産者行動、農村コミュニティ、消費者行動といった食や農に関わる人の行動や社会現象が、農村社会学、ミクロ経済学、農業経営学、農政学等の学問分野において、どのように把握され分析されてきたのかを、国内外の最新の研究成果を用いて多様な視点から、また事例に基づいて学ぶ。	共同
		食農教育特論Ⅰ	本講義では、食と農に関わる自然および社会環境と、それらから影響を受けて成り立つ教育や人々の学びについて理解するため、教育学、認知科学、普及学、コミュニケーション論、実践コミュニティ論などに関わる基本的事項について教授する。経営主体の様々な能力を把握するため、コミュニケーション研究の中からいくつかを取り上げて活用等について検討する。具体的には、イノベーションの普及、社会的共通資本などである。コミュニケーション研究の到達点を理解し、各自の研究、現地調査に活用する。	共同
		食農教育特論Ⅱ	本講義では食農教育に焦点を当て、現在の社会的課題に対して今後どのように取り組むべきかを検討する為、食育基本法及び食育推進基本計画に関わる内容の検討、さらに国内外における食農教育の取り組みや関わる課題、及びそれら事例研究のアプローチについて教授する。以上を踏まえ、国や地域が抱えている食や農を取り巻く課題解決に対する食農教育の重要性を大学院生自らが理解し、さらに研究として応用できる見方や知識を修得するとともに、科学的根拠を持って食農教育の有用性を示す能力を養う。	共同

<p>研究 科 目</p>	<p>食農技術学特別演習 I</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別実験 I と並行して、食農技術学分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別演習 I～IVは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別演習 I は、1年次前期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿ったテーマを決定し、研究計画書を作成する事である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食環境の中でも食品の持つ基本特性と2次特性に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>世界の栽培植物および雑草の生物学的特性を、社会・文化的な人の営みを形質形成要因のひとつととらえ、地域の自然環境のみならず、生産技術や農法、調理・加工法の情報を収集しながら食農技術学的に解明するための手法を教授する。食と農の文化複合として進む植物の適応進化と人とのかかわりを解析・考察できる力を育成するために、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食環境の中でも食品の一次、二次、三次機能に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の果実や種子の生理機能を計測する手法、品質を評価する手法、およびそれらの生産環境の測定法を教え、得られたデータの解析方法のほか、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p>	
-----------------------	--------------------	---	--

研究科目	食農技術学特別演習Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別実験Ⅱと並行して、食農技術学分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別演習Ⅱは、1年次後期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿って最新の知見や技術に関する情報の収集・検討に基づく、研究のテーマと最適化である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食環境の中でも食品の持つ基本特性と2次特性に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>世界の栽培植物および雑草の生物学的特性を、社会・文化的な人の営みを形質形成要因のひとつととらえ、地域の自然環境のみならず、生産技術や農法、調理・加工法の情報を収集しながら食農技術学的に解明するための手法を教授する。食と農の文化複合として進む植物の適応進化と人とのかかわりを解析・考察できる力を育成するために、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食環境の中でも食品の一次、二次、三次機能に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の果実や種子の生理機能を計測する手法、品質を評価する手法、およびそれらの生産環境の測定法を教え、得られたデータの解析方法のほか、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p>	
------	------------	--	--

研究 科 目	食農技術学特別演習Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別実験Ⅲと並行して、食農技術学分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別演習Ⅲは、2年次前期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿って決定した研究テーマで修士論文の骨子の作成である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食環境の中でも食品の持つ基本特性と2次特性に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>世界の栽培植物および雑草の生物学的特性を、社会・文化的な人の営みを形質形成要因のひとつととらえ、地域の自然環境のみならず、生産技術や農法、調理・加工法の情報を収集しながら食農技術学的に解明するための手法を教授する。食と農の文化複合として進む植物の適応進化と人とのかかわりを解析・考察できる力を育成するために、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食環境の中でも食品の一次、二次、三次機能に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の果実や種子の生理機能を計測する手法、品質を評価する手法、およびそれらの生産環境の測定法を教え、得られたデータの解析方法のほか、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導を補助する。</p>	
--------------	------------	---	--

研究 科 目	食農技術学特別演習Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別実験Ⅳと並行して、食農技術分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別演習Ⅳは、2年次後期に履修させる。到達目標は、修士論文の完成と成果の発表である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食環境の中でも食品の持つ基本特性と2次特性に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>世界の栽培植物および雑草の生物学的特性を、社会・文化的な人の営みを形質形成要因のひとつととらえ、地域の自然環境のみならず、生産技術や農法、調理・加工法の情報を収集しながら食農技術学的に解明するための手法を教授する。食と農の文化複合として進む植物の適応進化と人とのかかわりを解析・考察できる力を育成するために、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食環境の中でも食品の一次、二次、三次機能に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の果実や種子の生理機能を計測する手法、品質を評価する手法、およびそれらの生産環境の測定法を教え、得られたデータの解析方法のほか、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成に向けて指導を補助する。</p>	
--------------	------------	---	--

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>	<p>食農技術学特別実験 I</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別演習 I と並行して、食農技術分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別実験 I～IV は、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別実験 I は、1年次前期に履修させる。到達目標は、特別演習で組み立てた研究テーマを推進していくための実験方法を身につけるための予備実験を行うことである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食品の持つ基本特性と2次特性に関する基礎的な知識を教授するとともに、それらの特性を応用して食品を加工し、機能性を付加した新たな食品の開発に向けた考え方を示していく。また、実際の実験を通して解析方法や評価方法を修得し、結果を総括できる能力向上について指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>農生態系における植物と人のかかわりを探求するためのフィールド調査の方法を教授する。そこから得られた世界の栽培植物および雑草を供試し、食農資源としての特性を評価するための遺伝的解析や比較栽培試験法を指導する。また、得られた結果を植物生産の視点から食農科学的に考察できる力を育成する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食品の一次、二次、三次機能に関する基礎的・具体的な知識を教授し、それぞれの機能にもとづいた科学的解析手法について指導する。特に、生化学・分子生物学的手法を用いて食品に含まれる栄養成分等の新規な機能の解析法を教授する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の光合成、呼吸、成長、植物ホルモンなどの生理機能を計測する手法、果実や種子の品質あるいは劣化の程度を評価する手法、および土壌や気象などの生産環境条件の測定法の指導を補助する。また、実験により得られたデータの扱い方と統計的解析方法についての指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を修得し、それらの生理機能や健康維持・増進との関連について指導を補助する。また、これらの成分、因子の生体内における消化、吸収、代謝システムについて指導を補助する。</p>	
--	--------------------	--	--

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>	<p>食農技術学特別実験Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別演習Ⅱと並行して、食農技術分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別実験Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別実験Ⅱは、1年次後期に履修させる。到達目標は、遂行中の実験に加え、食農技術学特別演習Ⅱを通じて、新たに必要になった追加実験を行うことである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食品の持つ基本特性と2次特性に関する基礎的な知識を教授するとともに、それらの特性を応用して食品を加工し、機能性を付加した新たな食品の開発に向けた考え方を示していく。また、実際の実験を通して解析方法や評価方法を修得し、結果を総括できる能力向上について指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>農生態系における植物と人のかかわりを探求するためのフィールド調査の方法を教授する。そこから得られた世界の栽培植物および雑草を供試し、食農資源としての特性を評価するための遺伝的解析や比較栽培試験法を指導する。また、得られた結果を植物生産の視点から食農科学的に考察できる力を育成する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食品の一次、二次、三次機能に関する基礎的・具体的な知識を教授し、それぞれの機能にもとづいた科学的解析手法について指導する。特に、生化学・分子生物学的手法を用いて食品に含まれる栄養成分等の新規な機能の解析法を教授する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の光合成、呼吸、成長、植物ホルモンなどの生理機能を計測する手法、果実や種子の品質あるいは劣化の程度を評価する手法、および土壌や気象などの生産環境条件の測定法の指導を補助する。また、実験により得られたデータの扱い方と統計的解析方法についての指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を修得し、それらの生理機能や健康維持・増進との関連について指導を補助する。また、これらの成分、因子の生体内における消化、吸収、代謝システムについて指導を補助する。</p>	
--	-------------------	---	--

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>	<p>食農技術学特別実験Ⅲ</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別演習Ⅲと並行して、食農技術学分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別実験Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別実験Ⅲは、2年次前期に履修させる。到達目標は、遂行中の実験に加え必要な本実験を行うこととする。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食品の持つ基本特性と2次特性に関する基礎的な知識を教授するとともに、それらの特性を応用して食品を加工し、機能性を付加した新たな食品の開発に向けた考え方を示していく。また、実際の実験を通して解析方法や評価方法を修得し、結果を総括できる能力向上について指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>農生態系における植物と人のかかわりを探求するためのフィールド調査の方法を教授する。そこから得られた世界の栽培植物および雑草を供試し、食農資源としての特性を評価するための遺伝的解析や比較栽培試験法を指導する。また、得られた結果を植物生産の視点から食農科学的に考察できる力を育成する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食品の一次、二次、三次機能に関する基礎的・具体的な知識を教授し、それぞれの機能にもとづいた科学的解析手法について指導する。特に、生化学・分子生物学的手法を用いて食品に含まれる栄養成分等の新規な機能の解析法を教授する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の光合成、呼吸、成長、植物ホルモンなどの生理機能を計測する手法、果実や種子の品質あるいは劣化の程度を評価する手法、および土壌や気象などの生産環境条件の測定法の指導を補助する。また、実験により得られたデータの扱い方と統計的解析方法についての指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を修得し、それらの生理機能や健康維持・増進との関連について指導を補助する。また、これらの成分、因子の生体内における消化、吸収、代謝システムについて指導を補助する。</p>	
--	-------------------	---	--

<p style="text-align: center;">研 究 科 目</p>	<p>食農技術学特別実験Ⅳ</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、植物生産から食品加工及び機能性を付加した新たな食品開発に関わる課題について、「食農技術的アプローチ」で研究する。そのため、食農技術学特別演習Ⅳと並行して、食農技術学分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農技術学特別実験Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農技術学特別実験Ⅳは、2年次後期に履修させる。到達目標は、研究内容を精査し、不足の実験を行うとともに、再現性実験等を行うことである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(4 古庄 律 (指導教員)) (食品材料学)</p> <p>食品の持つ基本特性と2次特性に関する基礎的な知識を教授するとともに、それらの特性を応用して食品を加工し、機能性を付加した新たな食品の開発に向けた考え方を示していく。また、実際の実験を通して解析方法や評価方法を修得し、結果を総括できる能力向上について指導する。</p> <p>(5 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>農生態系における植物と人のかかわりを探求するためのフィールド調査の方法を教授する。そこから得られた世界の栽培植物および雑草を供試し、食農資源としての特性を評価するための遺伝的解析や比較栽培試験法を指導する。また、得られた結果を植物生産の視点から食農科学的に考察できる力を育成する。</p> <p>(6 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食品の一次、二次、三次機能に関する基礎的・具体的な知識を教授し、それぞれの機能にもとづいた科学的解析手法について指導する。特に、生化学・分子生物学的手法を用いて食品に含まれる栄養成分等の新規な機能の解析法を教授する。</p> <p>(9 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の光合成、呼吸、成長、植物ホルモンなどの生理機能を計測する手法、果実や種子の品質あるいは劣化の程度を評価する手法、および土壌や気象などの生産環境条件の測定法の指導を補助する。また、実験により得られたデータの扱い方と統計的解析方法についての指導を補助する。</p> <p>(10 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学)</p> <p>栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を修得し、それらの生理機能や健康維持・増進との関連について指導を補助する。また、これらの成分、因子の生体内における消化、吸収、代謝システムについて指導を補助する。</p>	
--	-------------------	--	--

研究科目	食農経済学特別演習 I	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、食農関連分野に関わる課題について、「食農経済学的アプローチ」で研究する。そのため、食農経済分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農経済学特別演習 I～IVは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農経済学特別演習 Iは、1年次前期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿ったテーマを決定し、研究計画書を作成する事である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 稲泉 博己 (指導教員)) (食農教育論)</p> <p>食農教育の中でも主体的学びと教育、また質的研究方法による研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(2 上岡 美保 (指導教員)) (食料経済学)</p> <p>食農教育の中でも食料経済とフードシステムに関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(3 原 珠里 (指導教員)) (農村社会学)</p> <p>食農政策の中でも農村社会のソーシャル・キャピタルや農村女性起業に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(11 原 温久 (指導補助教員)) (農業経営学)</p> <p>食農政策の中でも農業経営の改善やマーケティング、消費者行動に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、アンケート調査法、計量分析手法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p> <p>(12 望月 洋孝 (指導補助教員)) (農業経済学)</p> <p>食農教育の中でも農村地域の活性化や農業女子プロジェクトの普及に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、聞き取り調査法、農村調査法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p>	
------	-------------	--	--

研究 科 目	食農経済学特別演習Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、食農関連分野に関わる課題について、「食農経済学的アプローチ」で研究する。そのため、食農経済分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農経済学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農経済学特別演習Ⅱは、1年次後期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿って最新の知見や技術に関する情報の収集・検討に基づく、研究のテーマと最適化である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 稲泉 博己 (指導教員)) (食農教育論)</p> <p>食農教育の中でも主体的学びと教育、また質的研究方法による研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(2 上岡 美保 (指導教員)) (食料経済学)</p> <p>食農教育の中でも食料経済とフードシステムに関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(3 原 珠里 (指導教員)) (農村社会学)</p> <p>食農政策の中でも農村社会のソーシャル・キャピタルや農村女性起業に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(11 原 温久 (指導補助教員)) (農業経営学)</p> <p>食農政策の中でも農業経営の改善やマーケティング、消費者行動に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、アンケート調査法、計量分析手法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p> <p>(12 望月 洋孝 (指導補助教員)) (農業経済学)</p> <p>食農教育の中でも農村地域の活性化や農業女子プロジェクトの普及に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、聞き取り調査法、農村調査法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p>	
--------------	------------	--	--

研究科目	食農経済学特別演習Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、食農関連分野に関わる課題について、「食農経済学的アプローチ」で研究する。そのため、食農経済分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農経済学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農経済学特別演習Ⅲは、2年次前期に履修させる。到達目標は、指導課題に沿って決定した研究テーマで修士論文の骨子の作成である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 稲泉 博己 (指導教員)) (食農教育論)</p> <p>食農教育の中でも主体的学びと教育、また質的研究方法による研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(2 上岡 美保 (指導教員)) (食料経済学)</p> <p>食農教育の中でも食料経済とフードシステムに関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(3 原 珠里 (指導教員)) (農村社会学)</p> <p>食農政策の中でも農村社会のソーシャル・キャピタルや農村女性起業に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(11 原 温久 (指導補助教員)) (農業経営学)</p> <p>食農政策の中でも農業経営の改善やマーケティング、消費者行動に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、アンケート調査法、計量分析手法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p> <p>(12 望月 洋孝 (指導補助教員)) (農業経済学)</p> <p>食農教育の中でも農村地域の活性化や農業女子プロジェクトの普及に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、聞き取り調査法、農村調査法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p>	
------	------------	--	--

研究科目	食農経済学特別演習Ⅳ	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、食農関連分野に関わる課題について、「食農経済学的アプローチ」で研究する。そのため、食農経済分野の教員が、修士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。食農経済学特別演習Ⅰ～Ⅳは、修士論文が完成するまでのプロセスを4段階に分ける。</p> <p>食農経済学特別演習Ⅳは、2年次後期に履修させる。到達目標は、修士論文の完成と成果の発表である。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 稲泉 博己 (指導教員)) (食農教育論)</p> <p>食農教育の中でも主体的学びと教育、また質的研究方法による研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(2 上岡 美保 (指導教員)) (食料経済学)</p> <p>食農教育の中でも食料経済とフードシステムに関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(3 原 珠里 (指導教員)) (農村社会学)</p> <p>食農政策の中でも農村社会のソーシャル・キャピタルや農村女性起業に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、修士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(11 原 温久 (指導補助教員)) (農業経営学)</p> <p>食農政策の中でも農業経営の改善やマーケティング、消費者行動に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、アンケート調査法、計量分析手法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p> <p>(12 望月 洋孝 (指導補助教員)) (農業経済学)</p> <p>食農教育の中でも農村地域の活性化や農業女子プロジェクトの普及に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、聞き取り調査法、農村調査法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p>	
------	------------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要				
（国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 博士後期課程）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
国際食料農業科学研究科共通科目	研究倫理後期特講	<p>学術研究者として研究を行う上で、高度な研究倫理を体得することは非常に重要である、そこで、本講義では、eラーニング教材による学習を並行して行う。さらに将来の独立した学術研究者として必要な知識と研究倫理指導を行う上での注意点などを修得することを目的とする。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止について学修する。</p> <p>次に研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報の取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>		
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就学体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料農業科学分野の実際の研究の職場において就業体験を積むことにより、先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力の発揮などに関する自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>		
専門科目	基礎科目	英語論文作成・プレゼンテーション	<p>英語での学会論文作成、および英語での博士論文作成を想定し、研究目的、研究の背景、出典、分析方法、考察などの表現を学ぶとともに、論文作成についての指導、特に研究目的の設定方法、および考察方法についての詳細な指導を行う。また、研究の成果を学会や関連のシンポジウムなどにおいて英語で発表する際に必要な高度な発表技術とノウハウを教授する。それぞれの専門分野における研究の成果に基づき、実際に英語による高度なプレゼンテーションの準備から、学会での発表、事後の評価や改善までの一連の過程を指導教授が教授することにより、英語プレゼンテーションの高度・専門的なスキルを体得する。</p>	
		熱帯作物学後期特論	<p>熱帯地域における作物の生産性の向上を目的に、生産を行う上で生じる様々な課題を解決・解明するために必要な学問領域である栽培学、植物生理学、育種学、ゲノムサイエンスなどの研究成果や動向について学び、研究や実践に応用できる知識と思考力を身につけることを目的とする。またこれらの最新の研究成果を検討することにより、根立作物学の応用分野に関する知見を学修することを目的とする。</p>	
	特論科目	熱帯園芸学後期特論	<p>園芸作物に関わる栽培、貯蔵、加工、流通、消費などの知識や技術を学び人口・食料問題あるいは環境・健康問題における役割について考察する。演習は主として英語で行い、毎回ディスカッションを行う。とくに植物ホルモンの中でもエチレンの代謝生理を中心に研究成果や動向について学び、関連酵素活性の測定、トランスクリプトーム解析について知見を深める。またメタボローム解析と関連酵素のリアルタイムPCRの手法について学び、植物生理学の応用分野に関する知見を深めることを目的とする。</p>	
熱帯作物保護学後期特論		<p>世界各地の農業生産における生物的阻害要因（ウイルス・細菌・菌類・節足動物・脊椎動物・植物など）について、その生物学的特性を解明するための方法論を検討するとともに、最新の研究動向を概観する。また、環境に配慮しつつ、これらの阻害要因に対するあらゆる有効な抑制手段を相互に矛盾なく総合的に活用し、農業生態系の管理・保全を推進していく方策を検討する。授業は演習形式でおこない、前述したテーマについて、履修者が個別にもつ課題のなかでその歴史的・社会的背景を十分に把握したうえで、学術的な評価にたえる研究成果として発表することを目的とする。</p>		

専 門 科 目	特 論 科 目	農業環境科学後期特論	農業を中心とする食料生産システムに関し、土壌学、水環境学、植物生態学、農業生態学などの複合的学問分野をプラットフォームに、鳥瞰的地域を対象フィールドとして同システムを最適化するための研究を実施するにおいて必要となる最新かつ高度な研究方法や研究成果について学修すること、ならびに受講学生による研究成果のプレゼンテーションおよび論文執筆能力をブラッシュアップさせることを目的とする。	
		農業開発経済学後期特論	農業開発経済学の視点から、途上国の貧困削減や農業開発に関する諸問題を検討する。取り上げる課題は、貧困問題の諸概念、貧困指標の測定方法、農業開発と経済開発の相互関係、貧困削減政策、農業投入財補助金政策、農産物流通政策、農産物貿易と途上国開発、農業開発プロジェクトの評価、グローバルバリューチェーンなどである。これら農業開発にまつわる多様な問題についての最新の研究成果を検討することにより、国際農業開発学の応用分野に関する知見を学修することを目的とする。	
		農村開発協力後期特論	農村開発協力において重要条件である地域の固有性としての農業経営構造、社会経済構造、文化構造を把握するための手法（農村社会調査、農業経営調査、農村生活調査、参加型農村調査、迅速農村調査等の手法）を学ぶとともに、農村開発協力（支援）（JICAやJIRCASにおける研究開発協力を含む）および内発的な農村開発の事例を分析し、農村開発協力の課題と方向性について検討を行う。 対象地域は、東南アジア、オセアニア、および日本国内の農村地域である。	

研究指導科目	特別研究指導 I	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学専攻における熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野を理解するとともに、それらの中から選んだ各自の研究テーマについて担当教員の指導を受けて、国際的研究動向を踏まえた高度な専門的研究を進め、その初年度の進捗状況を報告するとともに、学術雑誌へ論文を投稿する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 作物保護学および応用昆虫学にかかわる各自の研究テーマにもとづいて必要な実験を立案・遂行し、えられた結果について適切な方法により解析をおこない、論文としてとりまとめること目標に指導する。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 作物遺伝資源の特性解明に関わる分析・評価法を教授し、遺伝的多様性の評価手法を指導する。さらに作物改良の為に有用な農業形質を活用した育種素材の開発方法を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の品種特性、施肥反応、窒素固定と農作物の収量や品質向上との関連やマンゴーなどの果樹や木本性作物の生理・生態的特性を明らかにするために必要な科学的解析手法を実際の栽培地での試験・調査を通じて指導する。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 園芸作物の栄養素、機能性成分、色、香り、固さなどに関する測定法を学び、植物ホルモンや呼吸、光合成などの生理機能を計測する手法を指導する。得られたデータの解析については、平均値の比較や多変量解析について指導する。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の養分吸収、養分移動、窒素固定などの生理機構と農作物の収量、品質向上との関連を明らかにするために必要な科学的解析手法を指導する。特に、イモ類と窒素固定細菌との共生関係を明らかにする実験系を構築する方法について指導する。</p> <p>(6 杉原 たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 国内外での農村開発協力求められる、研究分析手法および開発支援の実態について指導する。具体的には、農村開発協力のための、家族・親族構造分析、農村の社会構造分析、慣習の社会的特質分析および、農業・農村生活の担い手(女性・高齢者・障害者・病者など)問題などに関する分析方法である。また、開発支援の実態については、とりわけオセアニアで遂行されている農村開発支援の課題と評価について指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 途上国の貧困問題の実態解明に必要な調査の方法とデータの分析方法を指導する。特に、農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等に重点を置いた分析方法について指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 食料生産環境に対しプラスならびにマイナスになる自然および人為の影響について評価・研究する手法を、とくに土壌、植物体、水(河川水、地下水等)に関する現地調査と分析・解析方法について指導する。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 植物寄生性菌類に関する基礎的な技術とともに、診断、同定に関する研究手法を指導する。さらに分子生物学的な手法を用いた実験の解析手法についても指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国の家族農業、小農の農家経済の実態把握に必要な調査方法と分析方法を指導する。特に、持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営、農業経営管理の中の生産管理、労務管理、販売管理などの把握を行うための分析方法を指導する。</p>	
--------	----------	--	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学専攻における熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野を理解するとともに、それらの中から選んだ各自の研究テーマについて担当教員の指導を受けて、国際的研究動向を踏まえた高度な専門的研究を進め、その中間成果を専攻内発表会で報告するとともに、学術雑誌へ論文を投稿する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 作物保護学および応用昆虫学にかかわる各自の研究テーマにもとづいて必要な実験を立案・遂行し、えられた結果について適切な方法により解析をおこない、論文としてとりまとめること目標に指導する。</p> <p>(2 入江 憲治 (指導教員)) (熱帯作物学) 作物遺伝資源の特性解明に関わる分析・評価法を教授し、遺伝的多様性の評価手法を指導する。さらに作物改良の為に有用な農業形質を活用した育種素材の開発方法を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の品種特性、施肥反応、窒素固定と農作物の収量や品質向上との関連やマンゴーなどの果樹や木本性作物の生理・生態的特性を明らかにするために必要な科学的解析手法を実際の栽培地での試験・調査を通じて指導する。</p> <p>(4 小塩 海平 (指導教員)) (熱帯園芸学) 園芸作物の栄養素、機能性成分、色、香り、固さなどに関する測定法を学び、植物ホルモンや呼吸、光合成などの生理機能を計測する手法を指導する。得られたデータの解析については、平均値の比較や多変量解析について指導する。</p> <p>(5 志和地 弘信 (指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の養分吸収、養分移動、窒素固定などの生理機構と農作物の収量、品質向上との関連を明らかにするために必要な科学的解析手法を指導する。特に、イモ類と窒素固定細菌との共生関係を明らかにする実験系を構築する方法について指導する。</p> <p>(6 杉原 たまえ (指導教員)) (農村開発協力論) 国内外での農村開発協力求められる、研究分析手法および開発支援の実態について指導する。具体的には、農村開発協力のための、家族・親族構造分析、農村の社会構造分析、慣習の社会的特質分析および、農業・農村生活の担い手(女性・高齢者・障害者・病者など)問題などに関する分析方法である。また、開発支援の実態については、とりわけオセアニアで遂行されている農村開発支援の課題と評価について指導する。</p> <p>(7 高根 務 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 途上国の貧困問題の実態解明に必要な調査の方法とデータの分析方法を指導する。特に、農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等に重点を置いた分析方法について指導する。</p> <p>(8 中西 康博 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 食料生産環境に対しプラスならびにマイナスになる自然および人為の影響について評価・研究する手法を、とくに土壌、植物体、水(河川水、地下水等)に関する現地調査と分析・解析方法について指導する。</p> <p>(9 本橋 慶一 (指導教員)) (熱帯作物保護学) 植物寄生性菌類に関する基礎的な技術とともに、診断、同定に関する研究手法を指導する。さらに分子生物学的な手法を用いた実験の解析手法についても指導する。</p> <p>(10 山田 隆一 (指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国の家族農業、小農の農家経済の実態把握に必要な調査方法と分析方法を指導する。特に、持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営、農業経営管理の中の生産管理、労務管理、販売管理などの把握を行うための分析方法を指導する。</p>	
--------	---------	---	--

研究 指 導 科 目	特別研究指導Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>国際農業開発学専攻における熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学の各専門分野を理解するとともに、それらの中から選んだ各自の研究テーマについて担当教員の指導を受けて、国際的研究動向を踏まえた高度な専門的研究を進め、その最終成果を専攻内発表会で報告するとともに研究成果を博士論文として取りまとめることにより、農業開発や国際協力にかかわる高度な知識と研究能力を習得する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 足達 太郎(指導教員)) (熱帯作物保護学) 作物保護学および応用昆虫学にかかわる各自の研究テーマにもとづいて必要な実験を立案・遂行し、えられた結果について適切な方法により解析をおこない、論文としてとりまとめること目標に指導する。</p> <p>(2 入江 憲治(指導教員)) (熱帯作物学) 作物遺伝資源の特性解明に関わる分析・評価法を教授し、遺伝的多様性の評価手法を指導する。さらに作物改良の為に有用な農業形質を活用した育種素材の開発方法を指導する。</p> <p>(3 菊野 日出彦(指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の品種特性、施肥反応、窒素固定と農作物の収量や品質向上との関連やマンゴーなどの果樹や木本性作物の生理・生態的特性を明らかにするために必要な科学的解析手法を実際の栽培地での試験・調査を通じて指導する。</p> <p>(4 小塩 海平(指導教員)) (熱帯園芸学) 園芸作物の栄養素、機能性成分、色、香り、固さなどに関する測定法を学び、植物ホルモンや呼吸、光合成などの生理機能を計測する手法を指導する。得られたデータの解析については、平均値の比較や多変量解析について指導する。</p> <p>(5 志和地 弘信(指導教員)) (熱帯作物学) イモ類の養分吸収、養分移動、窒素固定などの生理機構と農作物の収量、品質向上との関連を明らかにするために必要な科学的解析手法を指導する。特に、イモ類と窒素固定細菌との共生関係を明らかにする実験系を構築する方法について指導する。</p> <p>(6 杉原 たまえ(指導教員)) (農村開発協力論) 国内外での農村開発協力求められる、研究分析手法および開発支援の実態について指導する。具体的には、農村開発協力のための、家族・親族構造分析、農村の社会構造分析、慣習の社会的特質分析および、農業・農村生活の担い手(女性・高齢者・障害者・病者など)問題などに関する分析方法である。また、開発支援の実態については、とりわけオセアニアで遂行されている農村開発支援の課題と評価について指導する。</p> <p>(7 高根 務(指導教員)) (熱帯作物保護学) 途上国の貧困問題の実態解明に必要な調査の方法とデータの分析方法を指導する。特に、農産物流通の実態と流通政策、非農業就労と農家所得、農村貧困問題と政策の関係等に重点を置いた分析方法について指導する。</p> <p>(8 中西 康博(指導教員)) (熱帯作物保護学) 食料生産環境に対しプラスならびにマイナスになる自然および人為の影響について評価・研究する手法を、とくに土壌、植物体、水(河川水、地下水等)に関する現地調査と分析・解析方法について指導する。</p> <p>(9 本橋 慶一(指導教員)) (熱帯作物保護学) 植物寄生性菌類に関する基礎的な技術とともに、診断、同定に関する研究手法を指導する。さらに分子生物学的な手法を用いた実験の解析手法についても指導する。</p> <p>(10 山田 隆一(指導教員)) (農村開発協力論) 途上国、とりわけアジア諸国の家族農業、小農の農家経済の実態把握に必要な調査方法と分析方法を指導する。特に、持続的農業および複合農業を対象として、その農業経営、農業経営管理の中の生産管理、労務管理、販売管理などの把握を行うための分析方法を指導する。</p>	
------------------------	---------	---	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校は収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際食料農業科学研究科 農業経済学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際食料農業科学研究科共通科目	研究倫理後期特講	<p>学術研究者として研究を行う上で、高度な研究倫理を体得することは非常に重要である、そこで、本講義では、eラーニング教材による学修を並行して行う。さらに将来の独立した学術研究者として必要な知識と研究倫理指導を行う上での注意点などを修得することを目的とする。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止について学修する。</p> <p>次に研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報の取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>	
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就学体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料農業科学分野の実際の研究の職場において就業体験を積むことにより、先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力の発揮などに関する自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>	
基礎科目	フィールド調査	<p>フィールド調査では、博士論文作成に必要な情報収集のための調査の方法論を修得する。調査目的や様々な方法、調査の表現方法、調査後のまとめ方などを大学院生自らが発案し、担当教員との議論を中心に授業を展開する。到達目標は、自らの力でフィールドワークができる能力を身につけることである。</p>	
	研究発表手法論	<p>研究発表手法論は、学会等での口頭あるいはポスター発表を筆頭筆者として行う方法を修得する。大学院生は研究指導科目のほかに、外部資金の活用および課程博士論文の申請要件等から学会における研究発表の機会が多い。学会の個別報告の申請、原稿作成、パワーポイント活用などについて担当教員との議論をもとに授業を実施する科目である。</p> <p>到達目標は、学会等で発表できるようになることである。</p>	
専攻科目	農業経済学後期特論	<p>農業経済学分野の研究に必要な、農業経済学、ミクロ経済学、農村・環境社会学、農業貿易論といった視点から、学術的分析方法にも着目し、学術論文等を教材として、文献調査、フィールドワーク、計量分析などを踏まえた高度な理論的・実証的研究が行えるように、また、プレゼンテーション能力や議論の能力を高めるように指導を行う。そうすることで、高度な研究者・専門家としての分析力を確立することを目標とする。</p>	
	農政学後期特論	<p>農政学分野の研究に必要な農業経済学、農業経営学、環境経済学、農業の担い手論といった視点から、学術的分析方法にも着目し、学術論文等を教材として、文献調査、フィールドワーク、計量分析などを踏まえた高度な理論的・実証的研究が行えるように、また、プレゼンテーション能力や議論の能力を高めるように指導を行う。そうすることで、高度な研究者・専門家としての分析力を確立することを目標とする。</p>	
	食料経済学後期特論	<p>食料経済学分野の研究に必要な食料経済学、農業経済学、経済地理学、マーケティング論、消費者行動論、フードシステム論といった視点から、学術的分析方法にも着目し、学術論文等を教材として、文献調査、フィールドワーク、計量分析などを踏まえた高度な理論的・実証的研究が行えるように、また、プレゼンテーション能力や議論の能力を高めるように指導を行う。そうすることで、高度な研究者・専門家としての分析力を確立することを目標とする。</p>	

研究指導科目	特別研究指導 I	<p>(概要)</p> <p>本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士後期課程の大学院生を対象に、幅広い視点から研究方法、分析手法などを確認・修得する演習である。同時に他の大学院生の発表を聴講し、学術的討論を行うことも課題とする。博士後期課程の大学院生は1年次から数回にわたる発表が義務づけられている。大学院生は、この演習をとおして高度で多様な手法、視点等にたった研究をすすめることができる。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法について学修することも目標とされる。</p> <p>特別研究指導 I では、これまでの研究成果に基づいて、広い学術的視野に立って、先行研究のレビューを行い研究・調査計画を作成する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 大浦 裕二 (指導教員)) (食品マーケティング論) 企業間や産地間の競争が激化する中で、各食品産業及び産地が行うマーケティング活動の重要性が高まっている。このような社会情勢を踏まえて、主に食品マーケティングと消費者行動との関連性について指導する。</p> <p>(2 金田 憲和 (指導教員)) (貿易論・計量経済学) ミクロ経済学・マクロ経済学を分析のベースとしながら、食料・農業・環境に関わる領域の諸問題に関する研究指導を行う。なかでも特に、食料品等の貿易など国際経済学の領域を重点的に指導する。また研究上の方法論としては、統計解析を経済学に応用した計量経済学の分析手法や産業連関分析などの方法に基づき、これらを利用した研究が行えるよう指導を行う。</p> <p>(3 菅沼 圭輔 (指導教員)) (開発経済学) 主として海外におけるフィールドワークに基づく学術論文の作成において、先行研究の整理と課題の設定の関係、課題の設定と結論部分の関係、結論を導く実証過程の整合性をポイントとして指導を行う。</p> <p>(4 高柳 長直 (指導教員)) (経済地理学) 経済学的・地理学的観点から、主として食料問題に関する研究テーマに関する指導を行う。とくに、研究上のオリジナリティ、首尾一貫した議論、矛盾なき論理の構築といった点を中心に、受講生が社会科学的な研究をまとめられるようにする。</p> <p>(5 田中 裕人 (指導教員)) (環境経済学) 農業・農村においては、国土保全機能等の多面的機能が発揮されている。この多面的機能には大きな価値が認められている。本演習では、環境経済学を用いて外部経済効果の評価等の分析を行うことができるように指導を行う。</p> <p>(6 寺内 光宏 (指導教員)) (農業経済学) 農業、食料及び資源・環境領域における諸問題に関する学術研究の遂行に際し、既存の研究成果の検討、課題設定の有効性の確認、ミクロ経済学及びマクロ経済学に依拠し、計量経済学的視点を重視した研究方法の下、各種統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等に基づく数値データの数量的処理方法を援用した設定課題への接近を行い、一連の分析の後、分析結果から得られた知見の整理に際し、論理的な整合性を重視した結論が導出できる能力が修得可能な指導を行う。</p> <p>(7 堀田 和彦 (指導教員)) (食料経済学) 食料の生産、流通、消費等フードシステム全体の流れの中で、院生が取り組んでいる研究の目的、研究手法、問題点などが的確なものであり、論文として完成させる場合の課題、問題点がどこにあるか指導をおこなう。</p> <p>(8 吉野 馨子 (指導教員)) (生活農業論) 国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。方法論としてはフィールドワークの研究手法を採り、先行研究の整理と課題の設定、調査地の選定、現地調査の計画と実施、データ分析の方法等、質の高い学術研究遂行のための一連のプロセスについて指導する。</p>
--------	----------	---

<p style="text-align: center;">研究 指導 科目</p>		<p>(9 佐藤 みずほ (指導補助教員)) (国際フードシステム論) 経済のグローバル化によって、農産物の生産・加工・流通・消費を通じた食料供給の一連の流れを把握するフードシステムも国際化している。特に、このような国際化の中で、問題が顕在化されている食品ロスを対象とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(11 野口 敬夫 (指導補助教員)) (農業貿易論) 農業貿易の自由化によって変化する国際的なフードチェーンの全体構造や、その形成に影響を及ぼす産業構造、企業間構造・企業行動などについて指導を行う。関連する文献資料、統計資料に加えて、フィールド調査をベースとする定性分析の手法を理解し、学術論文の作成方法を学ぶことを目標とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(12 堀部 篤 (指導補助教員)) (農業政策論) 農業政策の分析および評価。特に、1)集落を対象とした支援制度や外部人材を活用した農村地域政策、2)新規就農支援や認定農業者などの担い手育成政策、3)農地集積に関わる法制度や支援組織などの農地政策、を対象とする。分析は、法制度論、統計分析、事例分析を組み合わせ、総合的な評価手法を身につける。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p>	
---	--	---	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士後期課程の大学院生を対象に、幅広い視点から研究方法、分析手法などを確認・修得する演習である。同時に他の大学院生の発表を聴講し、学術的討論を行うことも課題とする。博士後期課程の大学院生は1年次から数回にわたる発表が義務づけられている。大学院生は、この演習をとおして高度で多様な手法、視点等にたった研究をすすめることができる。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法について学修することも目標とされる。</p> <p>特別研究指導Ⅱでは、作成した研究・調査計画に基づいて、本調査、調査結果の分析および補足調査を行い、研究成果の一部を公表する。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 大浦 裕二 (指導教員)) (食品マーケティング論) 企業間や産地間の競争が激化する中で、各食品産業及び産地が行うマーケティング活動の重要性が高まっている。このような社会情勢を踏まえて、主に食品マーケティングと消費者行動との関連性について指導する。</p> <p>(2 金田 憲和 (指導教員)) (貿易論・計量経済学) ミクロ経済学・マクロ経済学を分析のベースとしながら、食料・農業・環境に関わる領域の諸問題に関する研究指導を行う。なかでも特に、食料品等の貿易など国際経済学の領域を重点的に指導する。また研究上の方法論としては、統計解析を経済学に応用した計量経済学の分析手法や産業連関分析などの方法に基づき、これらを利用した研究が行えるよう指導を行う。</p> <p>(3 菅沼 圭輔 (指導教員)) (開発経済学) 主として海外におけるフィールドワークに基づく学術論文の作成において、先行研究の整理と課題の設定の関係、課題の設定と結論部分の関係、結論を導く実証過程の整合性をポイントとして指導を行う。</p> <p>(4 高柳 長直 (指導教員)) (経済地理学) 経済学的・地理学的観点から、主として食料問題に関する研究テーマに関する指導を行う。とくに、研究上のオリジナリティ、首尾一貫した議論、矛盾なき論理の構築といった点を中心に、受講生が社会科学的な研究をまとめられるようにする。</p> <p>(5 田中 裕人 (指導教員)) (環境経済学) 農業・農村においては、国土保全機能等の多面的機能が発揮されている。この多面的機能には大きな価値が認められている。本演習では、環境経済学を用いて外部経済効果の評価等の分析を行うことができるように指導を行う。</p> <p>(6 寺内 光宏 (指導教員)) (農業経済学) 農業、食料及び資源・環境領域における諸問題に関する学術研究の遂行に際し、既存の研究成果の検討、課題設定の有効性の確認、ミクロ経済学及びマクロ経済学に依拠し、計量経済学的視点を重視した研究方法の下、各種統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等に基づく数値データの数量的処理方法を援用した設定課題への接近を行い、一連の分析の後、分析結果から得られた知見の整理に際し、論理的な整合性を重視した結論が導出できる能力が修得可能な指導を行う。</p> <p>(7 堀田 和彦 (指導教員)) (食料経済学) 食料の生産、流通、消費等フードシステム全体の流れの中で、院生が取り組んでいる研究の目的、研究手法、問題点などが的確なものであり、論文として完成させる場合の課題、問題点がどこにあるか指導をおこなう。</p> <p>(8 吉野 馨子 (指導教員)) (生活農業論) 国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。方法論としてはフィールドワークの研究手法を採り、先行研究の整理と課題の設定、調査地の選定、現地調査の計画と実施、データ分析の方法等、質の高い学術研究遂行のための一連のプロセスについて指導する。</p>
--------	---------	---

<p>研究指導科目</p>		<p>(9 佐藤 みずほ (指導補助教員)) (国際フードシステム論) 経済のグローバル化によって、農産物の生産・加工・流通・消費を通じた食料供給の一連の流れを把握するフードシステムも国際化している。特に、このような国際化の中で、問題が顕在化されている食品ロスを対象とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(11 野口 敬夫 (指導補助教員)) (農業貿易論) 農業貿易の自由化によって変化する国際的なフードチェーンの全体構造や、その形成に影響を及ぼす産業構造、企業間構造・企業行動などについて指導を行う。関連する文献資料、統計資料に加えて、フィールド調査をベースとする定性分析の手法を理解し、学術論文の作成方法を学ぶことを目標とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(12 堀部 篤 (指導補助教員)) (農業政策論) 農業政策の分析および評価。特に、1)集落を対象とした支援制度や外部人材を活用した農村地域政策、2)新規就農支援や認定農業者などの担い手育成政策、3)農地集積に関わる法制度や支援組織などの農地政策、を対象とする。分析は、法制度論、統計分析、事例分析を組み合わせ、総合的な評価手法を身につける。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p>	
---------------	--	---	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>本演習は、農業経済学専攻に在籍する博士後期課程の大学院生を対象に、幅広い視点から研究方法、分析手法などを確認・修得する演習である。同時に他の大学院生の発表を聴講し、学術的討論を行うことも課題とする。博士後期課程の大学院生は1年次から数回にわたる発表が義務づけられている。大学院生は、この演習をとおして高度で多様な手法、視点等にたった研究をすすめることができる。加えて、発表を通じて、研究レジュメの作成方法やプレゼンテーション法について学修することも目標とされる。</p> <p>特別研究指導Ⅲは、調査研究および分析結果を統合し、分析結果の妥当性や課題から結論までの整合性の検証を行い、学術研究成果として公表し、学位請求論文を完成させる。</p> <p>各担当教員の指導課題は次の通りである。</p> <p>(1 大浦 裕二 (指導教員)) (食品マーケティング論) 企業間や産地間の競争が激化する中で、各食品産業及び産地が行うマーケティング活動の重要性が高まっている。このような社会情勢を踏まえて、主に食品マーケティングと消費者行動との関連性について指導する。</p> <p>(2 金田 憲和 (指導教員)) (貿易論・計量経済学) ミクロ経済学・マクロ経済学を分析のベースとしながら、食料・農業・環境に関わる領域の諸問題に関する研究指導を行う。なかでも特に、食料品等の貿易など国際経済学の領域を重点的に指導する。また研究上の方法論としては、統計解析を経済学に応用した計量経済学の分析手法や産業連関分析などの方法に基づき、これらを利用した研究が行えるよう指導を行う。</p> <p>(3 菅沼 圭輔 (指導教員)) (開発経済学) 主として海外におけるフィールドワークに基づく学術論文の作成において、先行研究の整理と課題の設定の関係、課題の設定と結論部分の関係、結論を導く実証過程の整合性をポイントとして指導を行う。</p> <p>(4 高柳 長直 (指導教員)) (経済地理学) 経済学的・地理学的観点から、主として食料問題に関する研究テーマに関する指導を行う。とくに、研究上のオリジナリティ、首尾一貫した議論、矛盾なき論理の構築といった点を中心に、受講生が社会科学的研究をまとめられるようにする。</p> <p>(5 田中 裕人 (指導教員)) (環境経済学) 農業・農村においては、国土保全機能等の多面的機能が発揮されている。この多面的機能には大きな価値が認められている。本演習では、環境経済学を用いて外部経済効果の評価等の分析を行うことができるように指導を行う。</p> <p>(6 寺内 光宏 (指導教員)) (農業経済学) 農業、食料及び資源・環境領域における諸問題に関する学術研究の遂行に際し、既存の研究成果の検討、課題設定の有効性の確認、ミクロ経済学及びマクロ経済学に依拠し、計量経済学的視点を重視した研究方法の下、各種統計データ、ヒアリング調査、アンケート調査等に基づく数値データの数値的処理方法を援用した設定課題への接近を行い、一連の分析の後、分析結果から得られた知見の整理に際し、論理的な整合性を重視した結論が導出できる能力が修得可能な指導を行う。</p> <p>(7 堀田 和彦 (指導教員)) (食料経済学) 食料の生産、流通、消費等フードシステム全体の流れの中で、院生が取り組んでいる研究の目的、研究手法、問題点などが的確なものであり、論文として完成させる場合の課題、問題点がどこにあるか指導をおこなう</p> <p>(8 吉野 馨子 (指導教員)) (生活農業論) 国内及び第三世界の農山漁村における地域環境への働きかけと持続的な利用の形態に注目し、その仕組みと変容、そして地域の課題を解決しようとする取り組みについて学ぶ。方法論としてはフィールドワークの研究手法を採り、先行研究の整理と課題の設定、調査地の選定、現地調査の計画と実施、データ分析の方法等、質の高い学術研究遂行のための一連のプロセスについて指導する。</p>
--------	---------	--

<p style="text-align: center;">研究 指導 科目</p>		<p>(9 佐藤 みずほ (指導補助教員)) (国際フードシステム論) 経済のグローバル化によって、農産物の生産・加工・流通・消費を通じた食料供給の一連の流れを把握するフードシステムも国際化している。特に、このような国際化の中で、問題が顕在化されている食品ロスを対象とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(11 野口 敬夫 (指導補助教員)) (農業貿易論) 農業貿易の自由化によって変化する国際的なフードチェーンの全体構造や、その形成に影響を及ぼす産業構造、企業間構造・企業行動などについて指導を行う。関連する文献資料、統計資料に加えて、フィールド調査をベースとする定性分析の手法を理解し、学術論文の作成方法を学ぶことを目標とする。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p> <p>(12 堀部 篤 (指導補助教員)) (農業政策論) 農業政策の分析および評価。特に、1)集落を対象とした支援制度や外部人材を活用した農村地域政策、2)新規就農支援や認定農業者などの担い手育成政策、3)農地集積に関わる法制度や支援組織などの農地政策、を対象とする。分析は、法制度論、統計分析、事例分析を組み合わせ、総合的な評価手法を身につける。尚、本教員は上記研究課題の指導を補助する。</p>	
---	--	---	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要				
(国際食料農業科学研究科 国際アグリビジネス学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
国際食料農業科学研究科目	研究倫理後期特講	<p>学術研究者として研究を行う上で、高度な研究倫理を体得することは非常に重要である、そこで、本講義では、eラーニング教材による学修を並行して行う。さらに将来の独立した学術研究者として必要な知識と研究倫理指導を行う上での注意点などを修得することを目的とする。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止について学修する。</p> <p>次に研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報の取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>		
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就学体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料農業科学分野の実際の研究の職場において就業体験を積むことにより、先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力の発揮などに関する自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>		
専攻科目	基礎科目	上級論文英語Ⅰ	<p>国際ジャーナルへの論文投稿や国際会議のExtended Abstractを想定した英語論文の書き方について講義を行う。研究背景と研究目的、研究の位置付け、調査方法と分析手法、考察および結論などでは、それぞれのパートにおいて要求される文章の分量や英語表現が異なるため、具体例を通じて個別に学修する。国際会議や学術論文などの英語論文投稿が可能となるレベルにまで英語力を高めることを到達目標とする。</p>	
		上級論文英語Ⅱ	<p>博士論文の論文作成を想定し、論文構成、研究課題、研究の位置付け、出典、引用、分析手法、考察などの英語表現において要求される作法を学び、博士論文の作成に必要な英語表現に関する講義を行う。必要に応じて、学術雑誌の文献レビューなどを例題とし、英語表現を具体例を通じて学び、体系的な文書表現や学術論文のための英語力を修得することを到達目標とする。</p>	
		国際農業経営情報後期特講	<p>国際農業経営情報学の理論として、MIS(Management Information System)、SIS(Strategic uses of Information Systems)とその応用となるDSS(Decision Support System)における情報活用を教授する。また、国際的な視点から農林水産業における情報共有と活用および生産者の所得向上とSDGsへの貢献を視野に入れ、意思決定支援のための情報システム解析など、経営分析とマネジメントに必要な情報処理の技術的・論理的事項を修得することを目標とする。</p>	
		国際農業マーケティング後期特講	<p>国内外の農業関連を対象とするマーケティングの研究領域における「川下からのアプローチ」、とりわけ、行動経済学や社会心理学との接点が増えている消費者行動に主眼をおいて教授する。また、国内外の農林水産物の流通・消費においても注目される、ブランド戦略における価値共創、情報化の進展に伴う購買行動の多様化といった諸課題に対応できる理論構築を目標とする。</p>	

専攻科目	特論科目	国際農業経営組織学後期特論	一般経営組織論および人的資源管理論、経営者能力論、企業形態論等を基礎としつつ、それらの農業分野への適用方法について教授する。経営組織問題や経営者機能の解明のための高度なヒアリング手法ならびにアンケート調査手法を体得するとともに、データ解析にあたっては多変量解析等の計量統計手法の応用が可能となることを目標とする。	
		国際農業経営管理学後期特論	農業経営体は、技術・市場・政策と密接に関連しながら持続・発展していくことから、国民経済からみた農業の位置づけ、食を巡る市場の需給バランス、農産物輸出入、農業構造、農業政策、農業イノベーションシステム、人材育成などについて、日本における現状理解を基本としながら、諸外国における状況も学ぶ。これらの学修を通じて、国際比較の視点から農業経営管理のあり方を網羅的かつ個別に考察し、高度な経営管理理論を構築することを目標とする。	
		国際農業経営戦略後期特論	基本的な経営戦略論を踏まえつつ、近年提案されている新たな経営戦略理論および農業経営分野で提唱されている多角化理論について教授する。特に、個別企業におけるケースを重視して、そのモデル化と他の経営への応用可能性について提起することで、新たな理論構築の方策を修得することを目標とする。	

研究指導科目	特別研究指導 I	<p>(概要)</p> <p>本専攻は、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネスを対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学的手法で分析し課題解決を図る。このため、博士論文の作成に必要な研究の計画・実施、結果の評価、発表・論文作成などの各段階について指導する。特別研究指導 I～IIIは、博士論文が完成するまでにプロセスを3段階に分ける。特別研究指導 Iは、1年次に履修させる。到達目標は、自ら主体的にテーマを決定、研究計画を立案、その実現に向けて予備および本調査を実行することである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 内山 智裕 (指導教員)) (国際農業経営学)</p> <p>国内外の農業経営や関連産業を分析対象として、国際比較の観点から、財務的持続性(経営分析、資産評価や事業譲渡)や人的持続性(後継者の確保や新規参入)を通じた農業経営の参入・発展・継承に関する研究について指導する。</p> <p>(2 大江 靖雄 (指導教授)) (国際農業マーケティング)</p> <p>21世紀における農業や農村資源の新たな可能性と役割を明らかにするために必要となる、農業の多面的機能の役割や農村ツーリズムなど農業と農村経済の多角化の条件について、国内とイタリア農村をフィールドとして比較研究について指導する。</p> <p>(4 熊澤 恵里子 (指導教授)) (農業教育史)</p> <p>幕末明治の教育の近代化過程について、農学教育に焦点を当て史料を読み、研究史の整理、欧米の発達史との比較検討等を行い、日本の近代農学がどのように発達したかについて指導する。</p> <p>(5 佐藤 和憲 (指導教授)) (農業経営戦略論)</p> <p>農産物流通の構造変化を実態調査に基づいて解明しながら、これに対応した農業法人等の経営戦略をビジネスモデルや数値計画を応用して策定する方法の確立について指導する。</p> <p>(6 渋谷 往男 (指導教員)) (農業経営戦略論)</p> <p>成長産業としての企業的な農業経営における経営戦略について、従来型の農業経営手法や一般企業の経営手法との比較を行いつつ、農業固有の経営戦略理論の構築と農業経営への実践的な導入手法についての研究方法について指導する。</p> <p>(7 鈴木 源太郎 (指導教員)) (農業経営組織学)</p> <p>農業および食品産業経営における後継者確保や人材能力開発に向けた経営者能力の要因解析等を行うほか、農業経営の高度化のための組織化・法人化プロセスにおける課題の解明と政策的支援策のあり方について指導する。</p> <p>(8 畑中 勝守 (指導教員)) (国際農業経営情報学)</p> <p>国内のみならず東南アジアをはじめとする発展途上国の農業・水産業の経営に必要な資源情報について、ICTによる自動データ取得技術の応用とデータベース構築を行い、資源情報の統計分析や数値シミュレーションによる事象の解明、要因分析などを通じた問題解決について指導する。</p> <p>(10 下口 ニナ (指導補助教員)) (国際農業経営情報学)</p> <p>農業情報共有を活用し、環境保全と経済効率の両立を可能とする東南アジアや日本における農業やアグリビジネスの発展方向を展望する。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(11 半杭 真一 (指導補助教員)) (農業マーケティングリサーチ)</p> <p>農業・食品ビジネスにおける諸課題の解決を目的として、消費者の意識や行動を把握するための調査方法やその活用について、調査データの分析を通じたアプローチを中心として研究を行う。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(12 山田 崇裕 (指導補助教員)) (農業経営組織学、農業経営学)</p> <p>農業経営組織と支援組織を対象に、組織経営を取り巻く外部・内部環境の特性ならびに変動状況を踏まえつつ、経営組織論の見地に基づき組織行動のメカニズムを分析し、経営成長の要因解明や経営問題の解決を試みる。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p>	
--------	----------	--	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>本専攻は、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネスを対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学的手法で分析し課題解決を図る。このため、博士論文の作成に必要な研究の計画・実施、結果の評価、発表・論文作成などの各段階について指導する。特別研究指導Ⅰ～Ⅲは、博士論文が完成するまでにプロセスを3段階に分ける。特別研究指導Ⅱは、2年次に履修させる。到達目標は、研究結果を精査し、研究計画の改良・改変を行いながら、博士論文の骨子の作成および本調査を実施することである。</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 内山 智裕 (指導教員)) (国際農業経営学)</p> <p>国内外の農業経営や関連産業を分析対象として、国際比較の観点から、財務的持続性(経営分析、資産評価や事業譲渡)や人的持続性(後継者の確保や新規参入)を通じた農業経営の参入・発展・継承に関する研究について指導する。</p> <p>(2 大江 靖雄 (指導教授)) (国際農業マーケティング)</p> <p>21世紀における農業や農村資源の新たな可能性と役割を明らかにするために必要となる、農業の多面的機能の役割や農村ツーリズムなど農業と農村経済の多角化の条件について、国内とイタリア農村をフィールドとして比較研究について指導する。</p> <p>(4 熊澤 恵里子 (指導教授)) (農業教育史)</p> <p>幕末明治の教育の近代化過程について、農学教育に焦点を当て史料を読み、研究史の整理、欧米の発達史との比較検討等を行い、日本の近代農学がどのように発達したかについて指導する。</p> <p>(5 佐藤 和憲 (指導教授)) (農業経営戦略論)</p> <p>農産物流通の構造変化を実態調査に基づいて解明しながら、これに対応した農業法人等の経営戦略をビジネスモデルや数値計画を応用して策定する方法の確立について指導する。</p> <p>(6 渋谷 往男 (指導教員)) (農業経営戦略論)</p> <p>成長産業としての企業的な農業経営における経営戦略について、従来型の農業経営手法や一般企業の経営手法との比較を行いつつ、農業固有の経営戦略理論の構築と農業経営への実践的な導入手法についての研究方法について指導する。</p> <p>(7 鈴木 源太郎 (指導教員)) (農業経営組織学)</p> <p>農業および食品産業経営における後継者確保や人材能力開発に向けた経営者能力の要因解析等を行うほか、農業経営の高度化のための組織化・法人化プロセスにおける課題の解明と政策的支援策のあり方について指導する。</p> <p>(8 畑中 勝守 (指導教員)) (国際農業経営情報学)</p> <p>国内のみならず東南アジアをはじめとする発展途上国の農業・水産業の経営に必要な資源情報について、ICTによる自動データ取得技術の応用とデータベース構築を行い、資源情報の統計分析や数値シミュレーションによる事象の解明、要因分析などを通じた問題解決について指導する。</p> <p>(10 下口 ニナ (指導補助教員)) (国際農業経営情報学)</p> <p>農業情報共有を活用し、環境保全と経済効率の両立を可能とする東南アジアや日本における農業やアグリビジネスの発展方向を展望する。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(11 半杭 真一 (指導補助教員)) (農業マーケティングリサーチ)</p> <p>農業・食品ビジネスにおける諸課題の解決を目的として、消費者の意識や行動を把握するための調査方法やその活用について、調査データの分析を通じたアプローチを中心として研究を行う。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(12 山田 崇裕 (指導補助教員)) (農業経営組織学、農業経営学)</p> <p>農業経営組織と支援組織を対象に、組織経営を取り巻く外部・内部環境の特性ならびに変動状況を踏まえつつ、経営組織論の見地に基づき組織行動のメカニズムを分析し、経営成長の要因解明や経営問題の解決を試みる。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p>	
--------	---------	---	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>本専攻は、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネスを対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学的手法で分析し課題解決を図る。このため、博士論文の作成に必要な研究の計画・実施、結果の評価、発表・論文作成などの各段階について指導する。特別研究指導Ⅰ～Ⅲは、博士論文が完成するまでにプロセスを3段階に分ける。特別研究指導Ⅲは、3年次に履修させる。到達目標は、博士論文の完成と論文投稿を含めた成果の発表である</p> <p>各担当教員の指導課題は次のとおりである。</p> <p>(1 内山 智裕 (指導教員)) (国際農業経営学) 国内外の農業経営や関連産業を分析対象として、国際比較の観点から、財務的持続性(経営分析、資産評価や事業譲渡)や人的持続性(後継者の確保や新規参入)を通じた農業経営の参入・発展・継承に関する研究について指導する。</p> <p>(2 大江 靖雄 (指導教授)) (国際農業マーケティング) 21世紀における農業や農村資源の新たな可能性と役割を明らかにするために必要となる、農業の多面的機能の役割や農村ツーリズムなど農業と農村経済の多角化の条件について、国内とイタリア農村をフィールドとして比較研究について指導する。</p> <p>(4 熊澤 恵里子 (指導教授)) (農業教育史) 幕末明治の教育の近代化過程について、農学教育に焦点を当て史料を読み、研究史の整理、欧米の発達史との比較検討等を行い、日本の近代農学がどのように発達したかについて指導する。</p> <p>(5 佐藤 和憲 (指導教授)) (農業経営戦略論) 農産物流通の構造変化を実態調査に基づいて解明しながら、これに対応した農業法人等の経営戦略をビジネスモデルや数理計画を応用して策定する方法の確立について指導する。</p> <p>(6 渋谷 往男 (指導教員)) (農業経営戦略論) 成長産業としての企業的な農業経営における経営戦略について、従来型の農業経営手法や一般企業の経営手法との比較を行いつつ、農業固有の経営戦略理論の構築と農業経営への実践的な導入手法についての研究方法について指導する。</p> <p>(7 鈴村 源太郎 (指導教員)) (農業経営組織学) 農業および食品産業経営における後継者確保や人材能力開発に向けた経営者能力の要因解析等を行うほか、農業経営の高度化のための組織化・法人化プロセスにおける課題の解明と政策的支援策のあり方について指導する。</p> <p>(8 畑中 勝守 (指導教員)) (国際農業経営情報学) 国内のみならず東南アジアをはじめとする発展途上国の農業・水産業の経営に必要な資源情報について、ICTによる自動データ取得技術の応用とデータベース構築を行い、資源情報の統計分析や数値シミュレーションによる事象の解明、要因分析などを通じた問題解決について指導する。</p> <p>(10 下口 ニナ (指導補助教員)) (国際農業経営情報学) 農業情報共有を活用し、環境保全と経済効率の両立を可能とする東南アジアや日本における農業やアグリビジネスの発展方向を展望する。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(11 半杭 真一 (指導補助教員)) (農業マーケティングリサーチ) 農業・食品ビジネスにおける諸課題の解決を目的として、消費者の意識や行動を把握するための調査方法やその活用について、調査データの分析を通じたアプローチを中心として研究を行う。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p> <p>(12 山田 崇裕 (指導補助教員)) (農業経営組織学、農業経営学) 農業経営組織と支援組織を対象に、組織経営を取り巻く外部・内部環境の特性ならびに変動状況を踏まえつつ、経営組織論の見地に基づき組織行動のメカニズムを分析し、経営成長の要因解明や経営問題の解決を試みる。尚、本教員は上記研究課題について指導を補助する。</p>	
--------	---------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人東京農業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

東京農業大学大学院						
農学研究科	14	—	28			
農学専攻(M)	12	—	24			
畜産学専攻(M)	10	—	20			
バイオセラピー学専攻(M)	30	—	60			
バイオサイエンス専攻(M)	12	—	24			
林学専攻(M)	8	—	16			
農業工学専攻(M)	12	—	24			
造園学専攻(M)	12	—	24			
国際農業開発学専攻(M)	10	—	20			
農業経済学専攻(M)	12	—	24			
国際バイオビジネス学専攻(M)	5	—	15			
農学専攻(D)	4	—	12			
畜産学専攻(D)	3	—	9			
バイオセラピー学専攻(D)	6	—	18			
バイオサイエンス専攻(D)	4	—	12			
林学専攻(D)	2	—	6			
農業工学専攻(D)	3	—	9			
造園学専攻(D)	2	—	6			
国際農業開発学専攻(D)	5	—	15			
農業経済学専攻(D)	5	—	15			
国際バイオビジネス学専攻(D)	5	—	15			
環境共生学専攻(D)						
応用生物科学研究科	30	—	60			
農芸化学専攻(M)	20	—	40			
醸造学専攻(M)	20	—	40			
食品安全健康学専攻(M)	6	—	12			
食品栄養学専攻(M)	5	—	15			
農芸化学専攻(D)	2	—	6			
醸造学専攻(D)	3	—	9			
食品安全健康学専攻(D)	2	—	6			
食品栄養学専攻(D)						

令和3年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

東京農業大学大学院						
農学研究科	14	—	28			
農学専攻(M)	12	—	24	名称変更		
動物科学専攻(M)	10	—	20			
バイオセラピー学専攻(M)	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	5	—	15			
農学専攻(D)	4	—	12	名称変更		
動物科学専攻(D)	3	—	9			
バイオセラピー学専攻(D)	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
	0	—	0	令和3年4月学生募集停止		
応用生物科学研究科	30	—	60			
農芸化学専攻(M)	20	—	40			
醸造学専攻(M)	20	—	40			
食品安全健康学専攻(M)	6	—	12			
食品栄養学専攻(M)	5	—	15			
農芸化学専攻(D)	2	—	6			
醸造学専攻(D)	3	—	9			
食品安全健康学専攻(D)	2	—	6			
食品栄養学専攻(D)						
生命科学研究所	30	—	60	研究科の設置(届出)		
バイオサイエンス専攻(M)	20	—	40			
分子生命科学専攻(M)	20	—	40			
分子微生物学専攻(M)	5	—	15			
バイオサイエンス専攻(D)						

地域環境科学研究科				研究科の設置(届出)
林学専攻(M)	8	—	16	
農業工学専攻(M)	8	—	16	
造園学専攻(M)	10	—	20	
地域創成科学専攻(M)	6	—	12	
林学専攻(D)	2	—	6	
農業工学専攻(D)	2	—	6	
造園学専攻(D)	2	—	6	
国際食料農業科学研究科			研究科の設置(届出)	
国際農業開発学専攻(M)	18	—	36	
農業経済学専攻(M)	8	—	16	
国際アグリビジネス学専攻(M)	10	—	20	
国際食農科学専攻(M)	7	—	14	
国際農業開発学専攻(D)	2	—	6	
農業経済学専攻(D)	2	—	6	
国際アグリビジネス学専攻(D)	2	—	6	
生物産業学研究科				
生物生産学専攻(M)	7	—	14	
アクアバイオ学専攻(M)	5	—	10	
食品香粧学専攻(M)	5	—	10	
産業経営学専攻(M)	3	—	6	
生物産業学専攻(D)	8	—	24	
計	326		701	

生物産業学研究科			
生物生産学専攻(M)	7	—	14
アクアバイオ学専攻(M)	5	—	10
食品香粧学専攻(M)	5	—	10
産業経営学専攻(M)	3	—	6
生物産業学専攻(D)	8	—	24
計	292		648

東京農業大学		3年次
農学部<神奈川県厚木市>		
農学科	170	680
畜産学科	140	560
生物資源開発学科	125	500
デザイン農学科	123	492
応用生物科学部<東京都世田谷区>		
農芸化学科	150	600
醸造科学科	150	600
食品安全健康学科	150	600
栄養科学科	120	480
生命科学部<東京都世田谷区>		
バイオサイエンス学科	150	600
分子生命科学科	130	520
分子微生物学科	130	520
地域環境科学部<東京都世田谷区>		
森林総合科学科	130	520
生産環境工学科	130	520
造園科学科	130	520
地域創成科学科	100	400
国際食料情報学部<東京都世田谷区>		
国際農業開発学科	150	600
食料環境経済学科	190	760
国際バイオビジネス学科	150	600
国際食農科学科	110	440
生物産業学部<北海道網走市>		
北方圏農学科	91	364
海洋水産学科	91	364
食香粧化学科	91	364
自然資源経営学科	90	360
計		2,991
		11,964

東京農業大学		3年次
農学部<神奈川県厚木市>		
農学科	170	680
畜産学科	140	560
生物資源開発学科	125	500
デザイン農学科	123	492
応用生物科学部<東京都世田谷区>		
農芸化学科	150	600
醸造科学科	150	600
食品安全健康学科	150	600
栄養科学科	120	480
生命科学部<東京都世田谷区>		
バイオサイエンス学科	150	600
分子生命科学科	130	520
分子微生物学科	130	520
地域環境科学部<東京都世田谷区>		
森林総合科学科	130	520
生産環境工学科	130	520
造園科学科	130	520
地域創成科学科	100	400
国際食料情報学部<東京都世田谷区>		
国際農業開発学科	150	600
食料環境経済学科	190	760
国際バイオビジネス学科	150	600
国際食農科学科	110	440
生物産業学部<北海道網走市>		
北方圏農学科	91	364
海洋水産学科	91	364
食香粧化学科	91	364
自然資源経営学科	90	360
計		2,991
		11,964

東京情報大学 総合情報学部 看護学部 看護学科	3年次 400 100 -	10 -	1,620 400
計	500	10	2,020
東京情報大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) 総合情報学専攻(D)	15 3	- -	30 9
計	18		39

↑

東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科 看護学部 看護学科	3年次 400 100 -	10 -	1,620 400
計	500	10	2,020
東京情報大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) 総合情報学専攻(D)	15 3	- -	30 9
計	18		39

↑